（毎月一回一日發行）　行發日一月三年八和昭・本納刷印　日五十二月二年八和昭・可認物便郵種三第　日四十月九年六正大

建築と社會

第十六輯
第三號

日本建築協會

昭和八年
三月一日

登録商標 OHNO SHUTTER PATENTE 商標

日米特許一二個・實用新案登錄四六個併用

大野式防火捲上ケ戸

〔特許大野式シヤッター〕

主要製品

大野式シヤッター

大野式ルーブルシヤッター

大野式工場用軸承

大野式轉子入軸筐

大野式轉子入戸車

大野式廻轉軸抵抗測定機

各種防火扉

日英米佛特許三一個・實用新案五九個併用

特許不二サッシ

受托營業

合資會社 大野製作所

東京市芝區三田四國町二番地・電話三田(45)三七三七 三七三八

取付出張員駐所・大阪市北花區上福島中二・電話福島(45)五八八

會　　告

創立滿十五年記念事業第二期計畫に就て

我日本建築協會は創立滿十五年記念事業として昨秋來綠ヶ丘保健住宅博覽會、大美野田園都市住宅博覽會、住み良い家の展覽會、通俗建築大講演會、建築巡回講演會、記念祝賀大會其他見學に出版に大々的各種事業を遂行し何れも幸に多大の御同情を以て好成績を得ました段は本會の最も欣幸とし、多謝する次第であります。

就ては豫て御披露致しました通新春と共に引續き記念事業第二期計畫として下記の通開催の豫定であります冀くは大方各位の熱心なる御賛助と懇切なる御後援に依り最も有意義に有終の美を修めんことを熱望するものであります。

1. 阪和沿線上野芝に於ける住宅博覽會開催
2. 京阪沿線千里山に於ける住宅博覽會開催
3. 建築巡回講演會の開催
4. 東京. 滿洲其の他の見學旅行
5. 圖　書　の　出　版
6. 建築會館建設の企畫

昭和8年2月

社團法人 日本建築協會

建築と社會

第16輯第3號昭和8年3月發行

三　月　號

目　次

傍花閣……天沼俊一（1）

現代建築に於ける美的基準……城戸久（31）

昭和新建築……黒田鵬心（36）

都市の印象……津田鑿（40）

職工住宅素人設計懸賞當選圖案……（56）

「建築競技執行規草案」に對する
日本建築協會 法制委員會の意見書を讀む……堀越三郎（69）

國際最新建築……（59）

談話室……（58）

會報……（65）

傍　花　閣

工學博士　天　沼　俊　一

緒　言

昭和七年十一月，日本建築協會創立十五週年記念講演會に，私は辭退したが許されずして，日本の社寺建築の將來といふ題で，約三十分間講演する事になつたが，時間の關係上短縮して二十分間でやめにした。ところが後に其講演筆記を送つてきて，昭和八年の一月號に載せるのだから，是非一通り目を通して直に返送せよといふ手紙も來たが，遂に池田副會長殿の諒解を得て免除される事を得た。そこで今度は其埋合はせに何か書かねばならなくなつた。考へてみたところ，まるで無關係のものでは，どうも工合がよくないので，京都市枳殻邸內にある「傍花閣」といふ建物に就き，例の圖を多く文句を成るべく少なくして，一通り記して責をふさぐ事にした。

昨年十一月四日，實は初めて枳殻邸を拜觀した時，此建物に出あひ，少なからず感心をしたが，更に一日隔いた十二月六日，ここで京都林泉協會の第四回見學會を開き，專門家三四名の講演があつたので，私もそれ等の講演を拜聽すべく席末に侍してゐたとき，偶ま雨が可なりひどく降つてゐたが，雨中大勢の見學團がきたのをみて，どこの人達であらうと思つたのであつた。ところが後になつて，それが日本建築協會の見學團であつた事を知つたのであった。

雨降りの頗る不愉快な日であったから，大勢のうちには或は瞥見に止めておいた人も，或は全然注意せずにすました人もないともいへぬ。さういふ人人，及び不參した人人のために，此建物の事でもかけば，いくらか關係がなくもないし，また思ひ出の種にもならう。ただ充分觀察した人には洵にきのどくで，何の役にもたつまいと思ふのである。とにかくこの事を編輯係員に相談したところ，これでよからうといふ話になった。

扨てさうなつてみると寫眞が少し不足なので，昨年十二月八日に足し前をとりに行てみたら又雨にあひ，止むを得ず半分で歸り，最後に十二月二十二日には，宗務總長阿部惠水師の厚意で，平生しまつてある金剛力士や熊谷敦盛の額，其他寶物類若干を陳列して見せてくだされたので，其金剛力士を下層東側の臺上に安置して寫眞をとり，第20·21圖にそれを挿入し，次の四圖にそれを大きくだし，先づ一通り圖が揃つたから，それ等に簡單な解說を加へる事にしたのである。

枳　殻　邸

【平安通志】には「涉成園」の題下に

大谷派本願寺ノ別墅ニシテ，寬永中德川家光の宣如上人ニ附與シ，伏見桃山ノ舊構ヲ

移シ，石川丈山小堀遠州等ニ命ジテ，林園泉石ヲ修築セシモノト云フ，園中ニ滴翠軒・傍花閣・印月池・臥龍堂・五松塢・侵雪橋・縮遠亭・紫藤岸・偶仙樓・雙梅簷・嗽枕居・回棹廊・丹楓溪ノ十三景アリ，之ヲ渉成ノ十三勝ト稱ス。

とあり。【大谷寺誌】には同じく「渉成園」と題し

位置……下京區枳穀馬塲東玉水町ニ在リ昔ハ其周圍ニ枳穀ヲ環植シタリシヲ以テ世呼テ枳穀御殿ト曰ヒ又タ本寺ノ正東ニ在ルヲ以テ東殿ト稱ス總坪壹萬六百壹坪餘アリ

沿革　往昔河原左大臣源融公別業ノ遺跡ニシテ相傳フ陸奥千賀ノ鹽竈ヲ模シ攝津難波ノ浦ヨリ潮水ヲ運ヒ之ヲ焚テ幽興ニ備ヘタリト後チ融公ノ長子湛卿之ヲ　寛平法皇ニ獻シ法皇ノ崩後ハ融公ノ第三子此地ニ於テ祇陀林寺ヲ建テ五時講ヲ修セリト云フ（其願文ハ大江匡衡ノ書スル所ナリ）中古以後京師喪亂相踵キ久シク荒廢ニ委シタリシカ寛永八年六月家光公新ニ二十六ケ町ヲ宣如上人ヘ寄附セラルルニ方リ本邸モ其中ニ在リ後チ豊臣大閤ノ伏見桃山城ノ舊構ヲ移シ又石川丈山ヲシテ林園泉石ノ風趣ヲ作ラシメ高瀬川ヨリ流水ヲ引用セシカ當今ハ本寺ノ火防用水ヲ分引セリ園中ニ十三景アリ

として次に前記と同じ順序に十三景を掲げ，其後に

……傍花閣ハ櫻林ノ中ニ聳ヘ樓門ノ形ナリ二階ノ天井ハ磁石形ノ十二支ヲ圖ス丈山ノ創意ニ出ツ左右ノ袖階ニハ狩野永納ノ筆ニ成ル熊谷敦盛繪馬ノ額ヲ掲ク……

とある。

枳穀邸といふ名は，元其周圍に枳穀を植えたので，それからでた名だといふ事が判ったと同時に，其沿革の概略も知ることができたのである。【都名所圖會】には「東殿」として

舊此所は河原院の舊跡にして池邊の出島に九重塔あり是則融大臣の古墳なり

とある，此塔は今では八重を存し，一番上に寶篋印塔の笠がのせてある。基礎の四方に格狭間を刻し，初重の四方を背光型にほり凹め，内に四佛を陽刻してあるが，様式より鎌倉時代と推定するのが最も穏當の様である。「九重塔」といふのが事實とすれば，現在は最上重と相輪とを失ったことになる。「融大臣の古墳」かどうか知らぬが，石塔は遙に時代が降る様である。【都林泉名所圖會】には「融大臣塔」として八重にかいてあるが，小さい圖で元よりただ其位置と形とを示したに過ぎぬ程度のものである。

傍　花　閣

邸内には多くの建物があり，それを全部みたのではないから，めったな事は言へぬが，伏見桃山城の舊構は殘ってゐないやうである。元治元年に兵燹にかかったといふから，その時燒けてしまったのかも知れない。傍花閣もずっと新しいもので，明治年間の再建ではあるが，舊圖によったさうであり，獨立してゐるのと，形が特殊なので，殊更目立つのである。夫れで此建物を記す前に，一通り謂はゆる禪宗建築の三門に就いて記す必要があるのである。

*　　*　　*　　*　　*

鎌倉時代に宋國と交通の結果，新しく輸入せられた「唐様」の禪宗伽藍は，三門・佛殿・

法堂・方丈・庫裏等の主要建築は皆此の一直線上に並び、浴室・溲屋・禪堂・東司等は、其左右適當なる位置に按配されてゐることは、大德・妙心・南禪・東福等の諸大寺をみれば、直に知ることができるが、其三門と佛殿との意をとり、巧に應用したのがこの「傍花閣」と「園林堂」とである。即ち傍花閣は東面し、其正西に同じく東面して「園林堂」が建ってゐるのである

第1圖は傍花閣の上層からま西をみたところで、三角形の桟瓦葺の屋根は園林堂のである。園林堂とは持佛堂の様なもので、ここのは他の建物の一部分をなしてはゐるが、それでも須彌壇も厨子も脇壇もあり、どうしたって佛像を安置するための建物たる事は明らかである。桂離宮構内にも同名の建物があり、これは獨立して建ってゐる。

第2圖は其正面中央からま東をみたところで、傍花閣の西面が眞正面に見える。即ち禪宗伽藍に於いて南北の一直線上に並べた主要なる建築は、ここでは場所の關係上東西の一直線上に並べたのである。若し夫れ第1圖左上の二階建の上層なる「風月樓」の椽から東をみるならば、ここに挿入した圖の如く、近く園林堂の屋根――其大棟には鬼瓦と鴟尾とを併用し、而も異常に小さい鴟尾が申譯の様についてゐるのは甚だ滑稽である――を見、

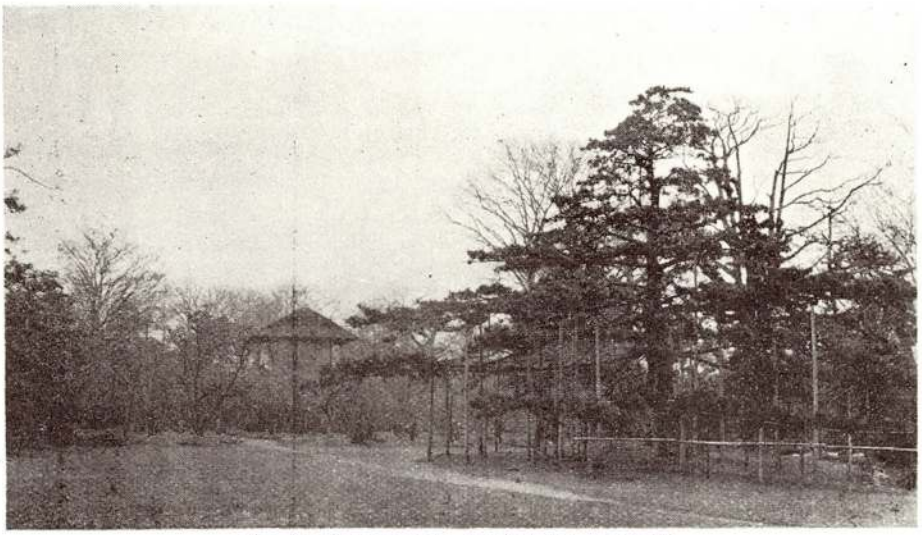


風月樓東椽より園林堂及傍花閣を望む（背景は東山）
（昭和七年十二月十二日）

遠く傍花閣を隔てて落葉樹の間から東山を眺めることができるので、中中うまく考へてゐる。ただ耳障りになるのは自動車と電車の音とで、これは時節柄どうも止むを得ぬ。

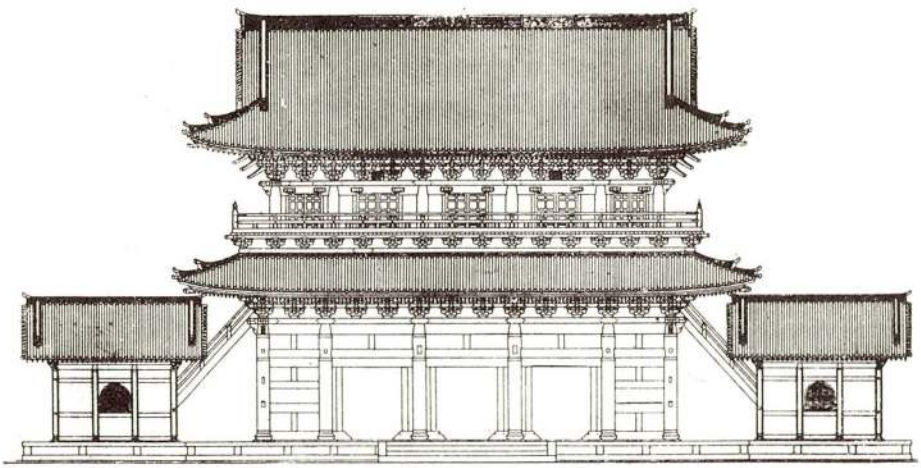
*　　*　　*　　*　　*

第3圖は東方からみたところで、これを一見したものは、其意匠の巧妙なのに感心せずには居られぬであらう。禪宗建築の三門といへば、鎌倉五山の第一とか第二とかいって威張ってゐる建長圓覺兩寺できへ、江戸時代の貧弱――といって失禮かも知れぬが――な三間二面の樓門があるばかりで、門廊等は勿論なく、上層へ登るためには、門内にただ一ケ所設けた粗末な階段があるばかりだから、昔の俤はないが、東京芝增上寺の等は、五間三



南方より傍花閣の遠望（昭年七年十二月八日）

戸――三面といふ點に注意せよ――丹塗本瓦葺の堂堂たる建物に，三間二面の門樓さへ添へてあるから，先づ江戸時代のものとしては，東京附近で第一流であらう。そこへ行くとさすがに京都で，前に記した四大寺を初め，淨土宗の總本山たる智恩院の夫れまで，實に



南禪寺山門正立面圖

大きな美事な建築であるが，これ等の第一流三門を頭においてこれをみるときは，輕快なきゃしゃな二階建の兩方に階段をつけたもので，ほんものの三門に暗示を得，換骨奪胎して住宅風を帶びさせ――たといふよりは寧ろ亭とか離座敷風につくりかへ――たものといふ事に氣がつくであらう。

*　　*　　*　　*　　*

一間一戸四脚門で，下層床は瓦四半敷。東側本柱の脇には，上下に框，隅に束があり，間の羽目は網代ばりとし，上端は板ではりつめた小さいつくりつけの臺がある（第17·19·20·21圖）。此臺は金剛力士をのせるためのもので，現在は盜難又は破損の虞があるため，

しまってあるから，何のためか解らない。腰掛だらう等と推定すると大間違になる。

去る十一月四日に初めてみたとき，何の目的でこの様な臺がつくられてゐるのかを係員にたづねた所，仁王がおいてあったのだといふ答を得，大凡二尺餘りの高さのものであったらうといふ想像をしてゐたが，十二月二十二日に其仁王を見ることができたとき，其餘りに小さいのに一驚を喫したのであった。而もそれは木彫と思ひ込んでゐたのに，さうではなくて燒物で，小型だから邪魔にならず，作者の頭のよさ加減に感服してしまった。

金剛力士なるものは，大概は南大門とか中門とかの左右に置かれる。ところが禪宗ではおかない。臨濟宗でも黃檗宗でも，此宗旨の三門はいつも何もないのである。同じ大きな門でも，東大寺の様な華嚴宗では，例の南大門の左右に運慶堪慶左衛五郎の作だといって，案內人が田舍ものを烟に卷いてゐる莫大な像があり，同寺中門や法相宗の大本山法隆寺中門には，あの美事な塑像が安置してある。京都の智恩院や東京芝の增上寺三門には，あれは淨土宗だがやはり金剛力士はない。だからあの手の門にはおかぬのが普通かも知れぬが，其型を自由にやぶり，門樓のない三間一戶又は五間三戶の樓門と同じ様に取扱ってゐるあたりは，自由自在なものである。

中央一間の出入口には兩折兩開の棧唐戶が吊込んである。此扉は至極簡單なもので，軸摺の上の方は略式の蓮座に入り，下は他の四半の瓦と同じ様に四角な石を埋めて，其石に廻轉軸の入るべき孔をあけてある。この石は普通の場合なら唐居敷に當るのであるが，大きさも高さも四半の瓦と全く同じだから，うっかりしてゐると瓦と誤認する位である。蹴放も亦床と殆んど同じ高さであり，上は楣の代りに花頭型に茨をつくってあるあたり，興味のつきぬものがある（第27·28圖）。

本柱と出入口兩方の柱の間の羽目板には，東側にのみ牡丹唐草を厚肉に彫刻したのを取つけてある（第17·18·19圖）。大きなもので，高さ約 5.2（單位尺。以下同斷），幅最も廣いところで 1.05，出は .20。ほんの飾りで一木より刻みだし，中央に花（第18圖），最上部に蕾あり，あと全部は葉にしてある。北側と南側と向きが反對なだけで，全く同じ性質のもの，つまり出入口に對して左右向ひ合ひだから，右と左とは物體と其影像との如くにしてある。葉は左程でもないが，中央の花は殊に傑作であると思ふ。

一體牡丹唐草は鎌倉時代位から餘計用ひられだしたものの如く，須彌壇等の羽目板に，殊に唐様のに於いてあの細長いところに入れてあるのをよくみる。桃山・江戶に於いて，羽目板や欄間等の大きな面積に一ぱい入れた例は，德川家の廟建築等に於いて普通にみるところである。併し何れも全面積を充塡してゐるのであるが，この様にまん中にほそく入れてあるのは，珍らしい取扱ひ方だと思ふ。

柱は總て方柱に几帳面取。柱上は大枓肘木だが，それは總て繰様肘木である。本柱上も控柱上も，南北の方向に大虹梁を架渡し，其中央に蟇股をおく。此等の繰様肘木・虹梁袖切の繰様・蟇股の形等，さすがに時代をよく現はしてゐる。すべて雛形本そっくりまる寫しで，きのどくながら褒められない。他がうまいのに，これ等でぶち壞してゐるのは，まことに惜しいものである。

天井は金剛力士臺の羽目と同じく網代ばりで，軒は木舞裏にしてある（第28圖）。此等も亦住宅とか茶室とかに相應しいやり方である。

*　　*　　*　　*　　*

これだけなら感心はしても，さう大したことはないが，實はこの本屋は南及び北側に，深さ殆んど 2.0，上が弧形をなした附屬の袖屋がついてゐる（第12·14·15·16圖）。無くても少しも差支がないのに，何のためにつけてあるかといふことを忖度してみると，正面(東)の方では金剛力士臺をつくるため，背面(西)の方では腰かけ即ち手輕な休憩所をつくるためらしく。其腰かけの部分は，下が引違ひの戸棚になつてゐて，內に小さいものなら入れることができる樣にしてある。さうして其戸板には格狹間を入れて裝飾してある（第15•16圖）。故に迂っかりみたのでは引違といふことに氣がつかぬ位である。よく寺などで須彌壇の裏をあけるやうにしてあったり，神社建築に於いて同じく社殿の裏を片引戸であける樣につくり，何れも物入として役立ってゐるのと同じである。妙心寺佛殿の脇壇の下も亦，格狹間を入れて裝飾した片引戸をたててあるが，丁度此建物の場合と同じ考へである。

此附屬袖屋も亦可なり意匠が働かしてある。第13·14·15圖の如く，上端が弧狀をなしてゐるから面白いのである。若しこの上端が斜にきってあり，さうして屋根が片流れにかけてあるのなら，丁度下屋に當るので，いくらでも例がある。それなら平凡でつまらないのみならず，見られたものではあるまい。圍いがためにおそろしく變って見えるのである。

其兩端，即ち東面と西面とは切妻にしてあり，上に圓窓，下に葉からできた唐草がつけてある。袖屋の外側，つまり南面と北面，即ち外から見える側は，東方に格子窓，西方に花頭窓を設け（第11·13·14·15圖），格子窓の上には細長い木瓜型內に，牡丹唐草を入れたものをつけてあるが（第13）圖，此は中央に花があって，左右に葉がでてゐるものである。但し牡丹入は外側だけで，內部は輪廓のみにしてあり，內は無地である。

壁は下見板をはり，外から篠子でおさへてある。つまり謂はゆる「篠子下見」である。一般に下見ばりの壁は關東に多く，關西では殆ど常に漆喰壁で，この樣なやり方は餘り見つけぬところである。京都あたりでは珍らしい仕上である。

唐草。兩端に用ひた唐草は葉ばかりだから（第14·15圖），實は何の葉だかよく判らないが，前記の通り扉の兩脇の羽目板に牡丹唐草を用ひたのだから，此も亦さうみて差支ないと思ふ。花や蕾をつけずに葉ばかりにしたのは，つける場所が內程背が高くないのと，同じ樣になる事を避けるため，態とかうしたのであらう。

圓窓。上部の圓窓は黃檗建築に於いてよくみるところである。例へば宇治の黃檗山萬福寺の佛殿を初め，大阪・長崎等の有名な末寺の建築に澤山用ひてあるが，これ等がもととなり，あちらこちらに流行したのかも知れない。あちらこちらといっても多くは禪宗建築·住宅·茶室等で，他の宗旨の寺——庫裏等は別 ——や神社 —— 社務所は別—— 建築等には，先づ見ないといっていい。それで禪寺のも古い所にないのでみると，恐らく黃檗の影響ではないかと思はれるのである。古いところで圓窓の用ひてある例を强いて探せば，鎌倉時

代石燈の火袋位のものである。周圍に蓮瓣を刻んだもの，即ち滿開蓮花の子房をくり抜いて圓窓にしたもの，例へば元德三年在銘の談山神社石燈火袋窓の如きものは，飛鳥時代にはどうか知らぬが，少なくとも奈良時代以降存在したと思はれるが，實例は鎌倉以前にまだ見出されてゐないのだから仕方がない。併しながら例へ鎌倉からにせよ，其時代の建築物には用ひてあるといふ事を，まだ見てもきいてもゐぬ。

私の知つてゐる圓窓を用ひた建築の最古の例は，愛知縣中島郡大和村の妙興寺鐘樓についてゐるもので（本誌第15輯第5號特別附錄第22頁第36圖參照），見かけは隨分古い樣である。鐘樓は室町時代のところがあると思はれるから，若し其時のものとすれば當然黃檗建築の影響なんかいけなくなるが，あの寺は京都花園妙心寺の末寺で臨濟宗だから，實はもう少し調べぬとはっきりいへない。

上述の通り建築に用ひられた圓窓の起原は，我國の古建築を一通りみたところでは，どうも新しい樣な氣がする。何れにしても其應用は，江戶時代に入りて流行を極め，住宅建築や茶室建築に入り込んできて隨所利用せられ，さうして現在に及んだのである。だからそれだけの事を頭に置いて此場合の夫れをみる時は，かういふ窓がこんな所へ無造作に用ひられてゐるのかと考へると，此建物はさう古いものではないといふ見當がつくであらう。

格子窓。格子窓は古くからある。飛鳥以降社寺建築に用ひられてゐる連子窓を簡單にすればこれになる。鎌倉の圓覺寺舍利殿の花頭窓內に用ひてある格子は，今のは材料が變ってゐるやうであるが，當初からやはりあの通りであったとすれば，鎌倉からあの種のは存在したのである。けれどもこの樣にきゃしゃになったのは，これも亦住宅や茶室等の建築が發達してからである事勿論である。

花頭窓。花頭窓に就いては，既に先年正傳寺の記事中に記したから（本誌第14輯第8號特別附錄第8—9頁參照），ここには略するが，今でもあの時と同じ樣に，サラセン建築が部分的に影響したのだと思ってゐる。此窓等は新しい割に純な形をもってゐるのは，ものがかういふ風だから，態態かうしたのかも知れぬ。

木瓜型。格子窓の上の，幾分弧狀をなしてゐるところの內外に，木瓜型がつけてある。下見板も欄子も皆この輪廓のところでとまってゐる。この形も亦至極新しいもので，桃山以前に其有無を知らぬ。鎌倉時代だといはれてゐる繪卷物のうちに，此形の窓をつけた吊燈籠がかいてあるが，私はただ寫眞でみたばかりだから，果してそれがたしかに鎌倉かどうか判らぬ。假にさうとしても，それは僅に唯一の例で，他には殆んどないといってよろしい。其內に入れてある牡丹唐草は，中央に花があり，其左右に相稱的に葉が唐草狀をなして出てゐる。尤もこれは外部だけで，內側の方は輪廓だけにしてある（第13圖）。

次に此牡丹に就いて考へてみる。此種の牡丹は鎌倉時代の唐樣須彌壇の幅狹き長い羽目板の裝飾として初めて用ひられたものの如く，また同時代の墓股內の彫刻として少なからず實例を見出し得るのである。勿論其以降にある事いふ迄もない。丁度この樣なのは桃山時代へくると，棧唐戶の吹寄棧の間——それは幅の狹い細長い入子板の部であるが——に用ひられるのである。一例をあぐれば，日光東照宮唐門の入子板や，同廻廊蟇股內の彫刻

に二三のものを探すのは，まことに容易なことである。さうしていふ迄もなく，時代によって葉の形等は少しづつ異なってゐるのであるが，今この場合のは桃山から江戸へかけての式，即ち最も新しい式をよくうけついでゐる。とかいたところで，かういふ事に常に氣をつけてゐなければ判るまいと思ふ。實は多くの例を圖示して解說せぬ以上，徹底せぬがそれは此際どうも止むを得ない。

そこでとにかくここに三種類の窓が用ひてあり，まるで窓の展覽會の如き觀がある。何もこれ程にしないでもよささうなもので，殊に第 14 圖の樣にみた場合，大分うるさい感がある。一層の事花頭をやめにし，東方の格子窓を西方まですっと通したらばどうかと思ふ。併しまたかくの如くいろいろの窓を用ひ，さうしてまた木瓜型の內に牡丹唐草を入れたところなど，時代の新しい事をよく物語ってゐるといへるのである。

此袖屋の內側が，また頗る氣のきいた取扱をしてゐる。東側の方は外側と同じものをただ內側からみたと思へばよろしい。ところが西側の方は第 15·16 圖に見えてゐる通り，花頭窓の內側には兩引の柳障子がたててあり，夫れを一ぱいに引あけると第 12 圖の如く，縱桟でうまく止る樣にしてある。さうして此縱桟はすっと太くして補强材となり，猿頬面の樣な大きな切面がとってある。

*　　*　　*　　*　　*

上　層。

上層は正方形で一間一面。柱眞眞 9.8。床は疊敷で四疊半。茶室に見る如く周圍に一疊の疊を循環の順序におき，中央に半疊が入れてある。四方共紙貼障子四枚建。其周圍に幅 2.0 の樽椽があり，椽勾欄を備ふ（第 3·31·32·33 圖）。ところが平素は建物の破損を防ぐ目的で，四方に簾を全部下げてあるから，遠景は上層軸部總て黃色い壁の樣に見える（第 2 圖）。だからほんとうの樣子は，そのすだれを全部とり去らなければ判らないのである（第 3 圖）。

室內は天井をはらず化粧屋根裏であるが，それがまた頗る奇拔な意匠から成ってゐる。室が正方形だから，天井も亦正方形なのは當然として，扨て其中央には大きな十六瓣の花形を，四木片を合せてつくり，其內部をくりぬいた樣にして，そのうちに十二支の文字をかき，更に其中心に，南北の方向（子——午）に磁針をゑがき，磁石の樣に見せ，あとは四方に化粧隅木を架渡し，其間に放射形に化粧棰を配して木舞裏にしてある。總て木割は纖細であるのに，中央の磁石形の飾りは大に失してゐるから，釣合からいふと，これはもう少し小さい方が，いふ迄もなく形はいいのである。二階へ上ってみると，餘りに大きな磁石が天井のまん中にくっついてゐるので，少なからず驚ろかされる（第 34·35 圖）。これは石川丈山の意匠だらうである。殆んど他に類例のない獨創的の考へであらう。

此座敷の周圍に椽があり，其端に椽勾欄がある。略式擬寶珠勾欄で，地覆と架木とだけで平桁を缺いてゐる。さうして枡束もなく，何の形にしたのか知らぬが，皷をたてに切った樣な形で，上下に半圓形があり，其間の胴に當るところは束にしてある（第31·32·33 圖）。寶珠柱は唐樣の夫れから變化したものとみるべく，あの種の開花蓮の下にさがった

花瓣が葉化して菊の葉の様な形になり，上を向いてゐる未だ開かぬ花瓣即ち蕾の部分は，菊の夫れが少し尖りすぎたのか，又は態態かうしたのか，何れにしてもこれも亦，新しい時代にならぬと，かかる變形のものはできないのである。

*　　*　　*　　*　　*

ここでまた禪寺の三門の上層のことを少しかかねばならなくなった。古來より一般佛寺建築に於いて，門が二階になってゐるとき，即ち「樓門」の場合には，上層はほんの體裁だけについてゐるので，まるで上る設備はしてない。法隆寺の中門を初め，あらゆる實例は皆さうなってゐる。然るに三門の場合はさうではなく，上層には須彌壇をつくり，釋迦とか觀音とかいふ佛像を安置し，要すれば脇侍を添え，其左右に十六羅漢——稀れに建長寺の如く小さい多數の（500？）を並べたのもある——をおき，毎年一定の日にそこで儀式をするのである。だからさういふ時都合のいい様に疊を敷いたりしてゐるのもある。

此意味をとって四疊半の座敷にしたのがこれである。三門では後ろの方は勿論，兩側面の半分は壁で，正面と兩側面の前半は兩開——時に中央の間のみ兩折兩開——桟唐戸を吊込んであるが，ここでは座敷にしたのだから，壁はまるでなく，紙貼障子もまるで腰がなく下迄紙をはってあるから，小じんまりした數寄屋風の建築で，座敷にゐるのと同じく，甚だ落ついた氣分になれるのである。

*　　*　　*　　*　　*

屋根。屋根は入母屋の起破風で，下層同様柿葺である（第３圖）。懸魚はつまらない猪目懸魚だが，この拙さ加減は下層の繪様肘木や虹梁や蟇股等とよく一致してゐる。併しながら其妻飾は一種特別で，これは何といふのか名も分らぬ。花頭型・格狭間型・懸魚型等，先づその様な名でもつけたらば何とかなりさうなもの。さうして其上の方は，ある幅さの板が縦にはってあるだけで，目板は打ってない（第４・５圖）。大棟は瓦棟で，肌獘斗・獘斗・輪違・獘斗・雁振の順序につみ，兩端には鬼板と拝みに無地巴とが用ひてある（第３・４・５圖）。

門　廊。

以上で中央の主要な部分の記載を終つたから，次に兩方にある方一間の小さい建物に及ぼすことにする。この小さい建物から階段で二階に昇る様にしてある（第３・５・６・７・８・９・１０圖）。圖版及びその解説に記したのをよく讀めば，直に判る位に簡單なものであるが，これも亦，禪宗の三門の左右についてゐる「門廊」一に「山廊」と呼んでゐる二間二面又は三間二間の小建築の意をとったものであることいふ迄もない。ここでは何といってゐるか，別に名もないやうであるが，無名では困るから「門廊」といっておく事にした。洵にうまく其精神をとって應用したものである。

此も亦方一間切妻造起破風で，左右は白壁に格子窓（第３・６・７圖），さうして前後即ち南と北とは，唐破風とも虹梁とも考へられる形の木を柱の間に突張らしてある。中央には無いが，左右浪形曲線をなしてゐるあたりに「茨」がつくってある。これは唐破風の破風板の夫れとも見えるし，又虹梁の袖のところを少し變化させたとも，何れとも考へていいものである（第８・１０圖）。

三門には常に門廊がついてゐるとは限らないで，略式なのは門の柱門に階段をただ一ケ所設けてある（鎌倉圓覺·建長寺其他實例あり）。併しながら大規模のものでは，前記の如く二間二面（大德寺·妙心寺等）又は三間二面（南禪寺·增上寺等）で，北側から入り，右又は左を向いて階段を昇る様にしてあるが，傍花閣のは何分にも小さいから，入口に扉も何もなく，南のは南，北のは北から直に階段を昇る様にしてある（第9·10圖）。

階段は兩方に親柱をたて，昇勾欄をつけであるが，昇勾欄には常に籔桁が地覆の代用をなしてゐるから，この場合にも勿論地覆はなく，平桁は上層の椽勾欄同様ここにもなく，ただ架木があるばかりで，親柱も勾欄の束も，すべて上層同様である（第9·33圖）。

階段昇り口の丁度上のところに，北方は敦盛，南方は熊谷の額を掲げてある。今のは後の模寫で，ほんものは金剛力士と同じくしまってある。裏に「狩野永納筆」とかいてあるが，勿論後に書き加へたもの。永納筆か何か知らぬが，隨分ひどく剝落してゐて，敦盛の額等は背負ってゐる母衣だけが漸く殘ってゐる有様である。だから知らずに見れば，何をかいたのかまるで判斷がつかぬ位で，今時の人がみたら開きかけた落下傘位にとるかも知れぬ。但し額の輪廓——制札型の額であるが——に打ってある飾金具は至極新しく，どうしても江戶時代のものであるやうである。けれどもそれを除けば，額だけは桃山式とみられる。だから若し此飾金具が當初のものとすれば，狩野永納といふ傳は尊重しても惡くはない。

*　　*　　*　　*　　*

此建物は元治元年に兵燹にかかったさうである。其後根穀邸はいろいろな目にあひ，ある時は鐵道の役人の宿舍にした事もあったさうであるが，心なき人人のために大分いためられたであらう。明治年間の再建としては，傍花閣が餘りよくでき過ぎてゐるが，これは元の形によったものと思はれる。私がきいたところでは

明治二十五年七月二十八日	棟梁杉野惣兵衛建之
建具類	竹中清兵衛製
屋根裏其他	八木八郎兵衛·鹿野吉次郎兩人此に當る
瓦	寺本甚兵衛製造

だそうである。

*　　*　　*　　*　　*

一言にして批評をすれば，この建物はまことによくできてゐる。例へそれが前設計により，それを踏襲したもので，杉野惣兵衛棟梁の意匠は入ってゐぬにしても，ともかくもこれだけ上手に唐様寺院建築の要素を取り入れて，住宅式建築をつくり上げた手際は，敬服にたゑぬのである。

公園か何かに建ってゐるのだと，誰れでも知ってゐるであらうが，場所が場所だけに，殆んどみる人がなく今日に及んでゐるものと思ふ。仍てここに恐らく二つとあるまい此珍らしい建築を紹介したのである。　（昭和八年一月十二日稿了）



上。第1圖　傍花閣上層椽より園林堂をみる
（昭和七年十一月六日）

下。第2圖　園林堂より傍花閣をみる
（昭和七年十一月六日）

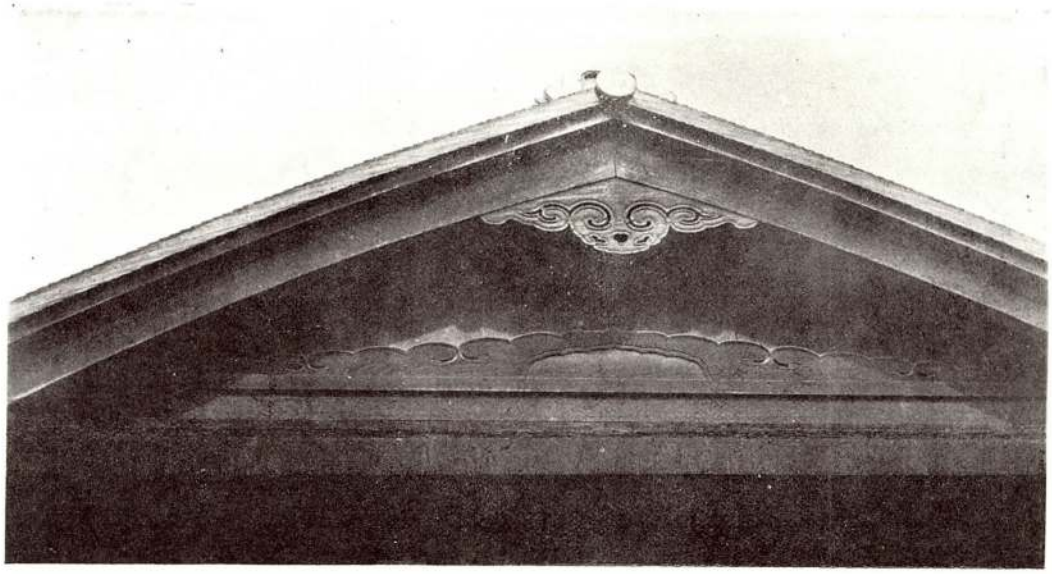


十一月六日は午前九時頃より雨が大分にひどく降つた。これは午後一時頃，雨と霧との中でとつた寫眞であるが，其割に可なりでてゐるから，とり直すのも無駄だと思つて，これを用ふる事にしたのである。傍花閣と園林堂とは，かくの如く東面して一直線上に配置されてゐるのである。上圖の右方にあるは土藏造の二階家で，高倉といふ名稱は此建物からでたのだといふ事だが，眞僞は知らぬ。後方の二階造りは風月樓。

第３圖　傍花閣正面　（昭和七年十二月八日）



禪宗の謂はゆる「三門」に住宅建築を取り入れ，簡素にしてきゃしゃな一間一戸柿葺入母屋造の樓門を造り，左右に「門廊」に相當する方一間切妻造起破風の建物を添え，上層に登るための階段を設け，上層は方一間で疊敷（四疊半）とし，四方に明障子を建て，天井をはらす化粧屋根裏とし，特殊の意匠を施してある（第27·28圖）。蓋し禪宗建築と住宅風との巧妙なる折衷建築である。



上。**第4圖**　傍花閣南妻詳細

（昭和七年十二月八日）

下。**第5圖**　同　　南側面

（昭和七年十一月四日）

何分樹木が澤山殖えてあるので，それ等に防げられて，ほんとうの側面から寫眞がとれなかったので，少しく東へよった南から寫したのがこれである。前圖左方の門廊に當る建物は左方に見え，階段上の屋根に僅かの「起り」があり，門の屋根にも亦「起り」のある極めて輕快な建物だといふことが判るであらう。上圖は其妻飾を近くみたところで，前包の上に須覆があり，其上に懸魚を押しつぶした様な特殊の裝飾がつけてあるのは珍らしい。



第6圖　傍花閣南側門廊を東南よりみる



（昭和七年十二月二十二日）

十二月末になつて漸く木葉が落ちるのと、四回目で漸く好晴であつたため、この寫眞ができた。右上に少し見えてゐる入母屋は、第4・第5圖にでてゐるそれの一部である。



上。第7圖　北側「門廊」を西南よりみる

（昭和七年十一月六日）

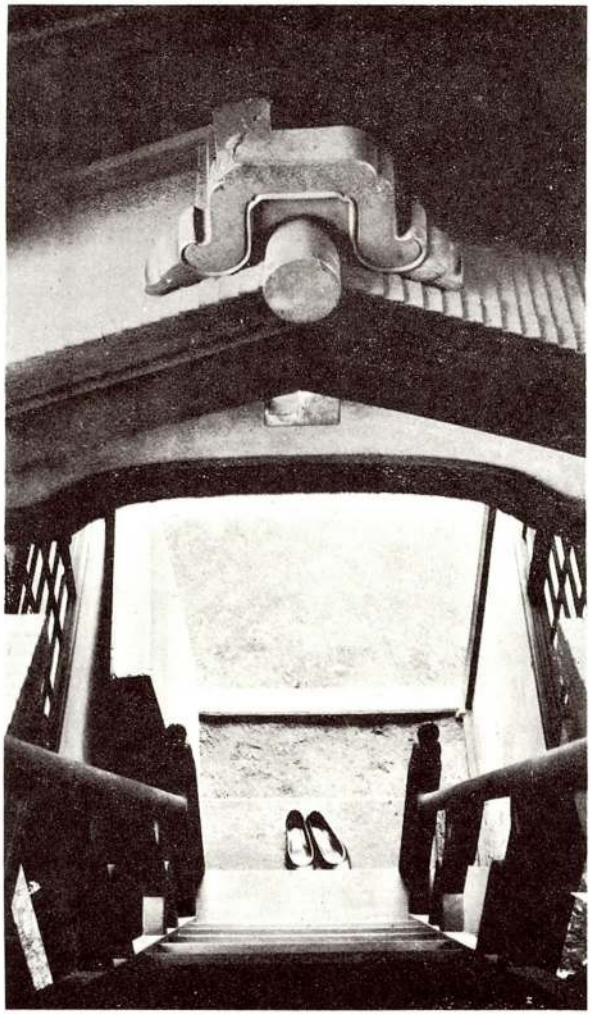
禪寺の三門なら，「山廊」とか「門廊」とかいふ名で呼んでゐるが，此場合には何といふのか，誰れも知らぬ。其等でこれはあれをうまく應用したに止るからである。名なしでは困るから，前圖にも記した通り「門廊」としておいたのである。

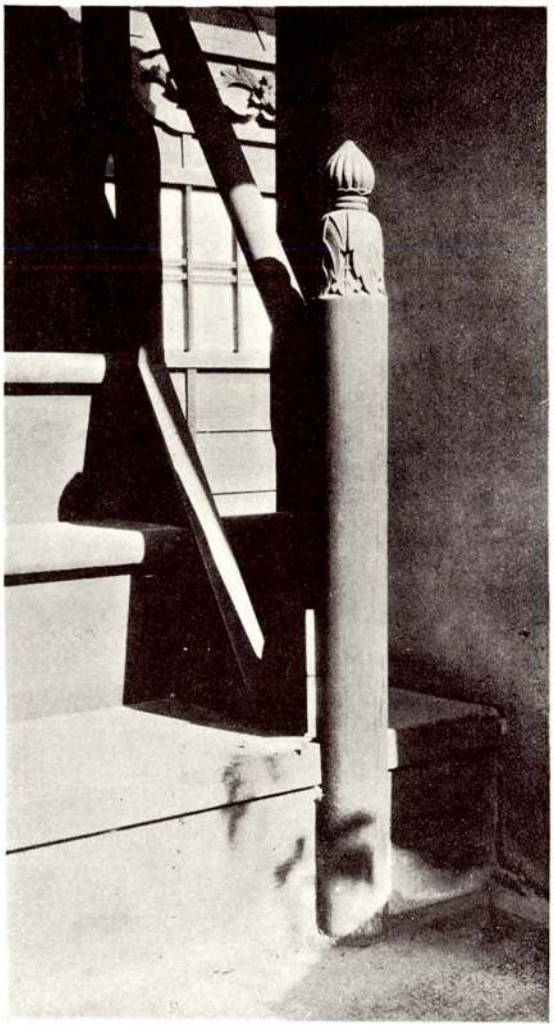
左右は白壁に高窓。前後は唐破風から考へついた様な形にし，柿葺瓦棟起破風のきゃしゃな建物。此方には「敦盛」の額が揭げてある。原物は剝落其極に達し，背負つてゐる母衣ほか見えないが，模寫だから夫れ程でもない。

下。第8圖　北側「門廊」を上層椽よりみる

（昭和七年十一月六日）

上層椽に寫眞機をたて，下を向けてとつたのが即此。「門廊」は內部床を土間とし，そこから禪寺の三門同様階段で昇降する様にしてある。階段は唐様風親柱附の簡單なる勾欄を備ふ（第31·32·33圖參照）。「門廊」の屋根は拜みに「無地巴」をおき，鬼板を備へたる瓦棟にしてある。住宅風にするためか破風の拜みに懸魚を缺いてゐる。





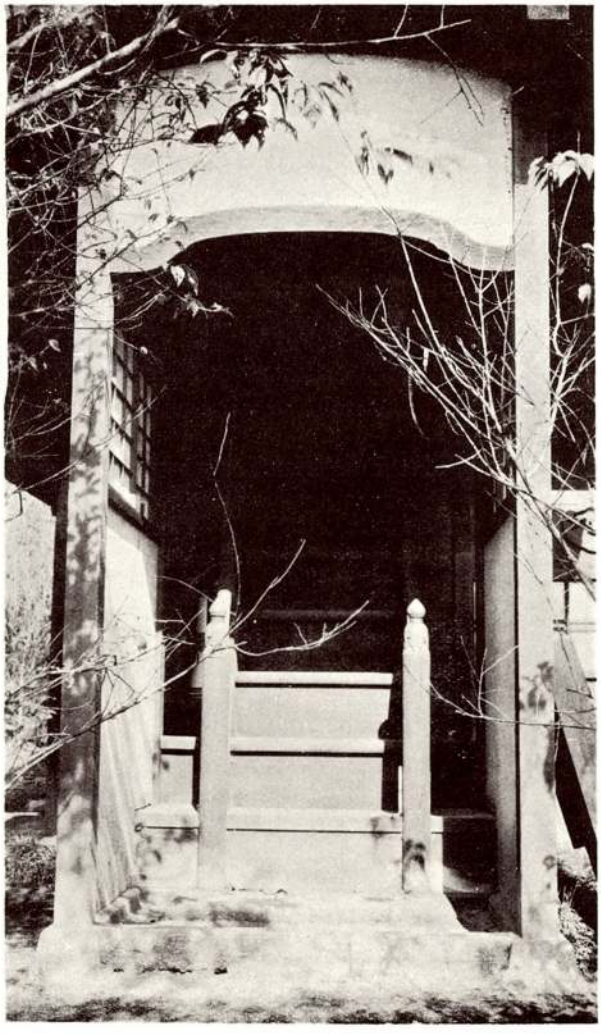
上。第9圖　東側「門廊」內階段親柱及昇勾欄の一部をみる
（親柱左方に立るは曲尺の約五寸（六吋）
•昭和七年十一月四日）

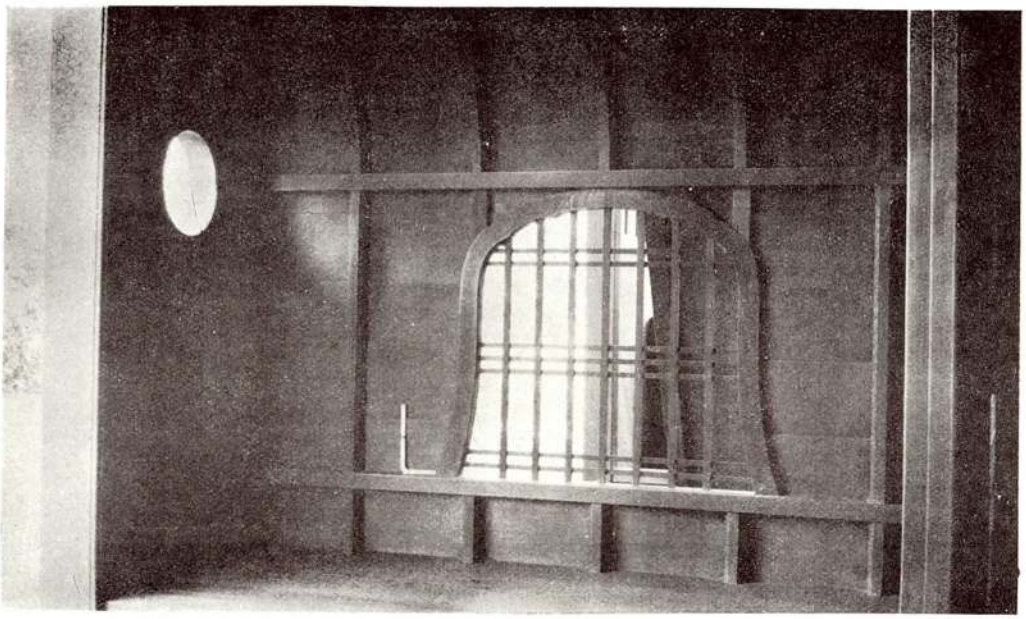
親柱の柱頭は，下を向いた菊の葉の様な形をしてゐて，其上は八重の蕾を有する蓮蕾か菊蕾となり，間を紐二本で括つた形であるが，これは唐様の開花蓮の柱頭から變化したものである。

上の蕾を思ひ切つてもう少しつぶし，菊蕾の如くにしたのが高野山奥院石欄の親柱にあるが，これは餘程考へてかうしたのであらう。

下。第10圖　東側「門廊」東面
（右側親柱左方に立てるは曲尺の約五寸（六吋）
•昭和七年十一月四日）

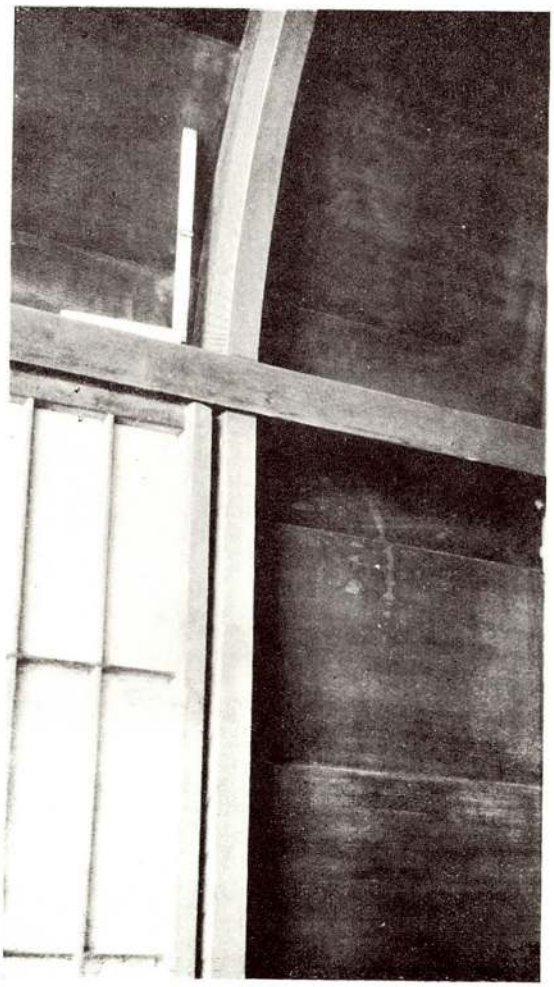
前圖の階段昇り口を東方からみたところで，「門廊」の兩方の四角な柱の間に用ひてある欄に當る材は，兩方に茨を有する波形曲線をなしてゐるから，若し茨が中央に下向きにもう一つあれば，正に唐破風と同じものだし，このままでもさうと思へるが，また虹梁を少しく變形させて，新意匠を施したとも考へられる。何れにしてもうまい考へである。兩側格子窓の內側には，引違紙貼障子をたててある。



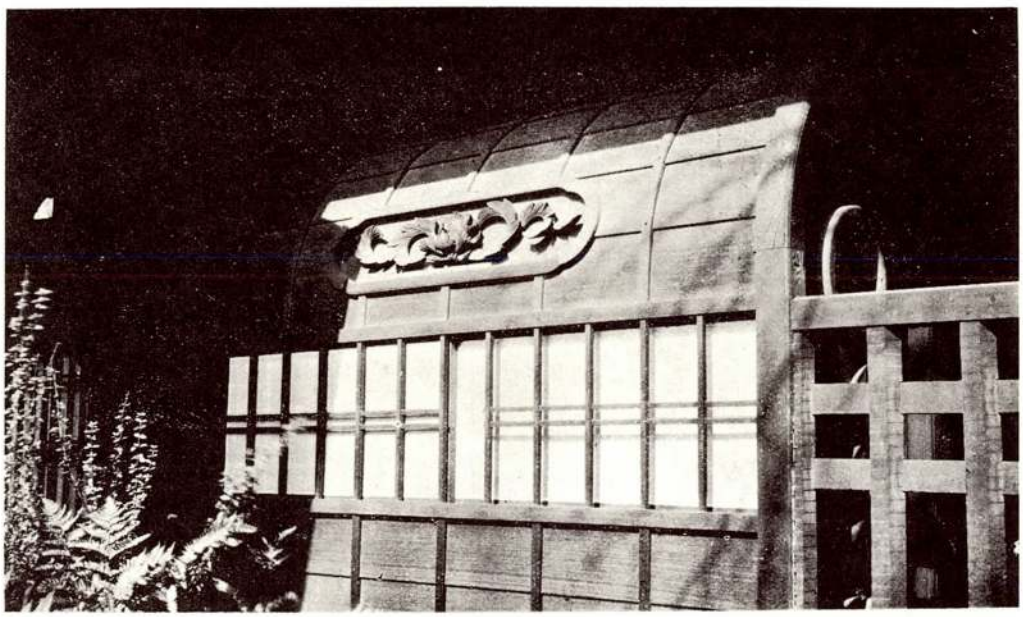


上。第11圖　北側附屬袖屋花頭窓を内部よりみる
（左方窓臺上に立てるは曲尺の約五寸(六吋)
•昭和七年十一月四日）

下。第12圖　同　の雨引櫛障子を開いたところ
（鴨居上に立てるは曲尺の約五寸(六吋)
•昭和七年十一月六日）

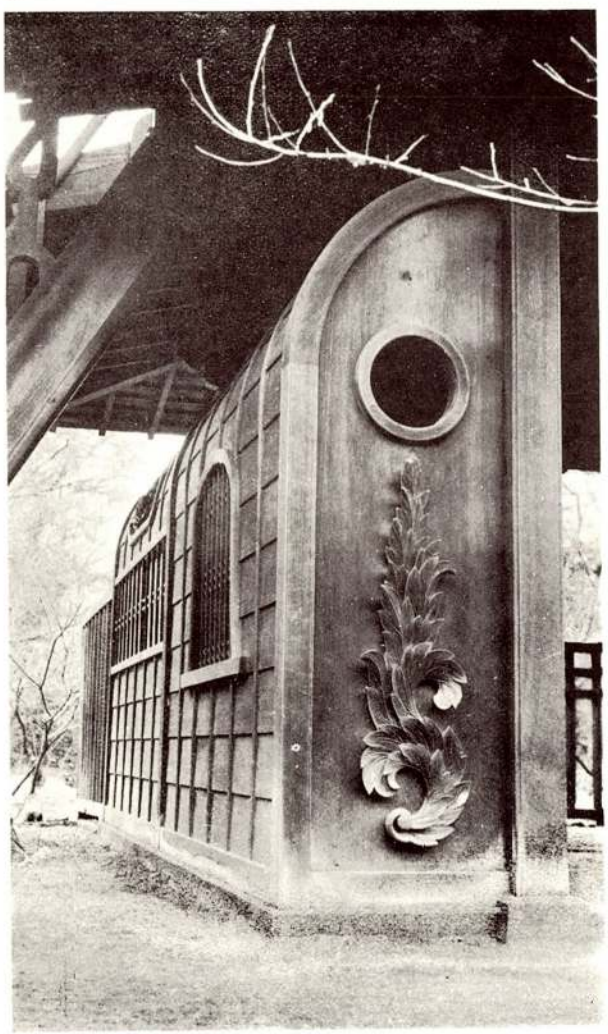


花頭窓は外部からでは，どうしても正面からとれない。きりとて摺物から圖につくるだけのものでもない。故に内部から寫したが，半分ばかりはどうしても此の「門廊」にかくれてはつきりしないが，先づ體裁はこんなもので，圓窓はまるで月がでた様だから，甚だ効果がある。猿頬面をとった縦桟に障子の框があたるところ，鴨居(一筋)上の曲線形面取の桟等,中中うまくできてゐる。



上。第13圖　南側附屬袖屋東端一部
（昭和七年十一月四日）

下。第14圖　北側附屬袖屋を南西方よりみる
（昭和七年十一月六日）



此門の北側及南側には，控柱と控柱との間，二間に亙り圖の如き附屬の袖屋を造ってある。此袖屋は京坂地方に珍らしく下見板をはり，適當の間隔に籬子を打ってある。さうして本柱より東には上圖の如き格子窓をつくり，內側に引違紙貼障子をたて，西の間には花頭窓を開き，內側には棧のあらき柳障子をたつ(第12·13·15圖)。さうして東西兩端は板をはり，上に圓窓，下に唐草の浮彫を取りつく。格子窓の上外側には牡丹唐草を木瓜形に入る。

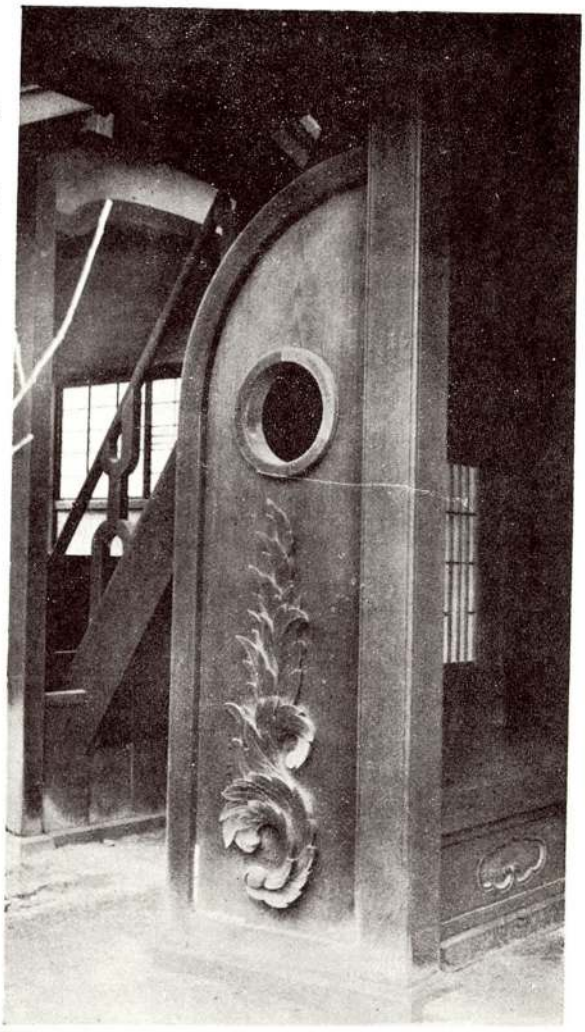
上。第15圖　北側附屬袖屋を東南方よりみる

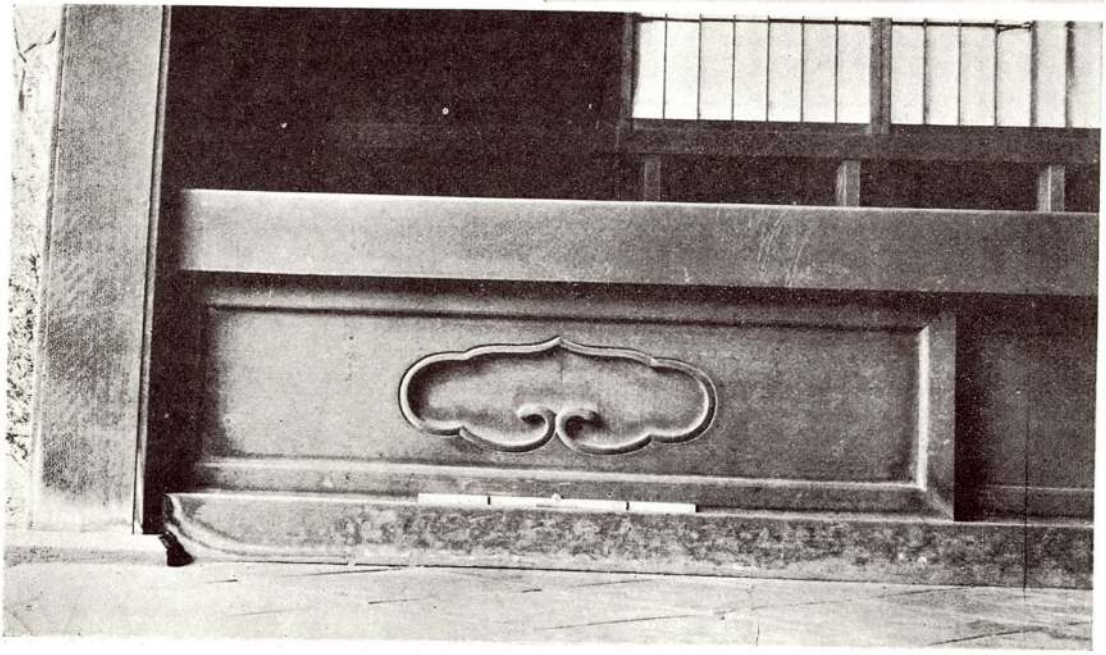
（昭和七年十一月六日）

下。第16圖　同　　内部

（昭和七年十一月六日）

前圖の袖屋を東南方から，即ち內側が少し見える様に寫したのが上圖で，几帳面を控柱の右方に少しくでてゐる柳障子は，前圖の花頭窓の內方にたててあるもので，其下の方は腰かけの様に板をはり，上下框の間の羽目板にあたるところは，格狹間入引違板戸にして，內に何かものを入れる事ができる様にしてある。上圖にもそれが少し見えてゐるが，下圖には格狹間を正面から見せておいた。其下框上に平たくあるは曲尺の約一尺(一呎)。右上に下部の方が少しく見えてゐるのは花頭窓後ろの引違柳障子。





第17圖　傍花閣東西南側扉脇羽目板彫刻及金剛力士臺

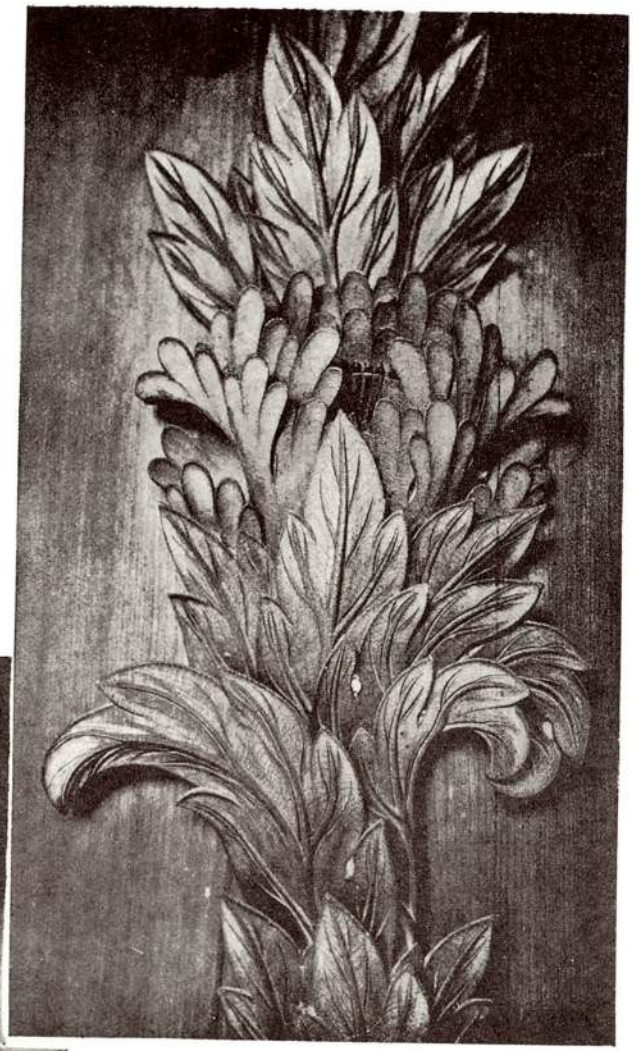


（羽目板左下に立てるは曲尺約五寸（六吋）・昭和七年十一月六日）

東面扉兩脇の羽目板にも亦、牡丹唐草の浮彫がつけてあるが、外側――第10圖等に示したる――のに比べると大分に大きく、且つ花も蕾もつけてゐる。その左方網代ばりの羽目板の臺は、元と陶製の金剛力士がおいてあつたが、今は破損と盜難とを恐れてしまつてある。禪宗三門の形式をとりながら、金剛力士をおいたところが興味のある點である。

上。第18圖　東面北側牡丹唐草一部詳細
（昭和七年十一月六日）

下。第19圖　同全形及北方金剛力士臺・北側東方窓
（臺上に立てるは曲尺の約五寸（六吋）
・昭和七年十一月六日）



下圖は前圖に示した反對側の牡丹，即ち扉北方の夫れをみせたので，外側との同じく唐草其物も中心線に對し，左右相稱にしてある。此唐草は割合に巧で，殊に中央の邊にある花は，まことに上等の出來（下へ）



（上より）であること，上圖に部分を大きくだした寫眞に就てみるべきである。

其右の臺の上には，左右に相對しておいた金剛力士の一がたってゐる筈であるが，いろいろのものが紛失して困るとかで，倉庫の內へしまつてあるさうである。其脇は格子窓になつて居り（第10・11・19圖），內側に引違紙貼障子をたて橫の方からも採光してゐる。ここに於いて上の圖い附屬納屋は，うまく考へたものだといふ事が判るであらう。

第20圖　傍花閣東面南側臺上安置の金剛力士



（傍に立てるは曲尺の約五寸（六吋）・昭和三年[illegible]月二十二日）

臺と臺上の金剛力士の大さと比較せよ。禪宗の三門には金剛力士をおかぬものであるが、この場合特に型を破り、陶製小形のをおいたのであらう。



第21圖　同　北側臺上安置の金剛力士

（傍に立てるは曲尺の約五寸（六吋）・昭和十年十二月二十二日）

東側附屬袖屋の格子窓は、主として金剛力士を照すために役立つてゐることが判る。どこからどこまでうまく考へたものである。





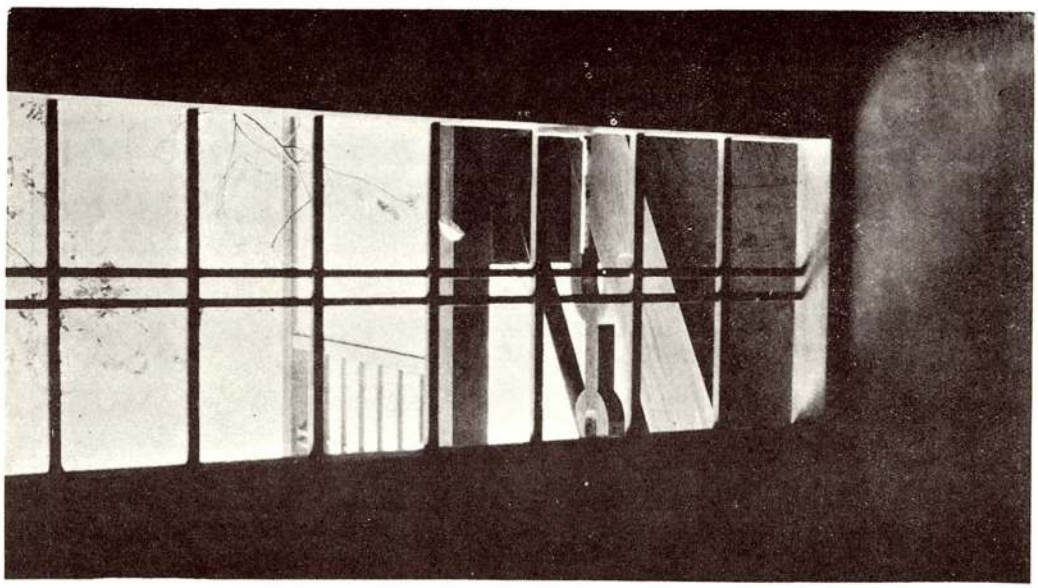
上右。第23圖　同　側面
上左。第22圖　南側金剛力士正面





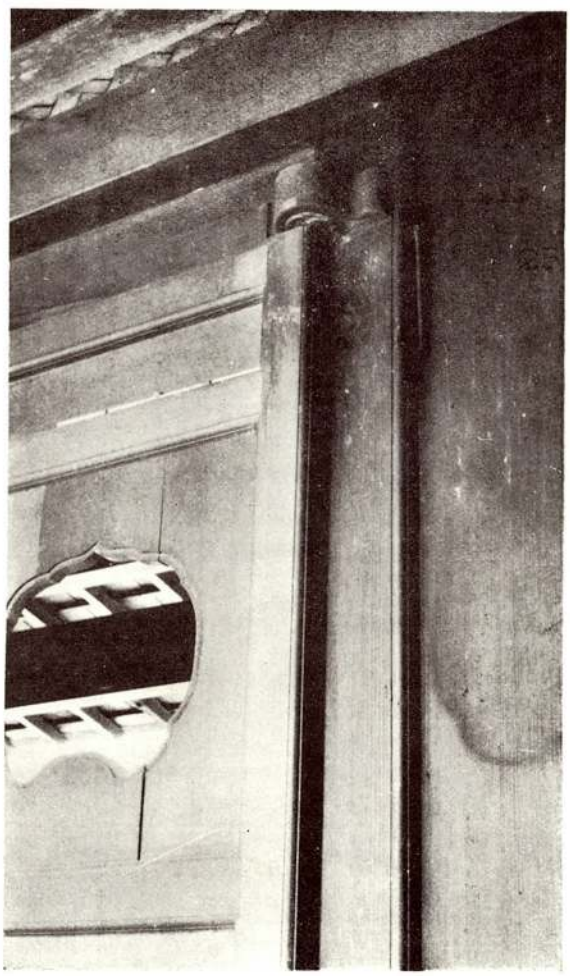
下右。第25圖　同　背面
下左。第24圖　北側金剛力士正面

（四圖共左方に立てる一曲尺の約五寸（六吋）・昭和七年十二月二十二日）



上。第26圖　附屬袖屋北側格子窓を東南方よりみる
（窓臺上に立てるは曲尺の約五寸（六吋）
•昭和七年十一月六日）

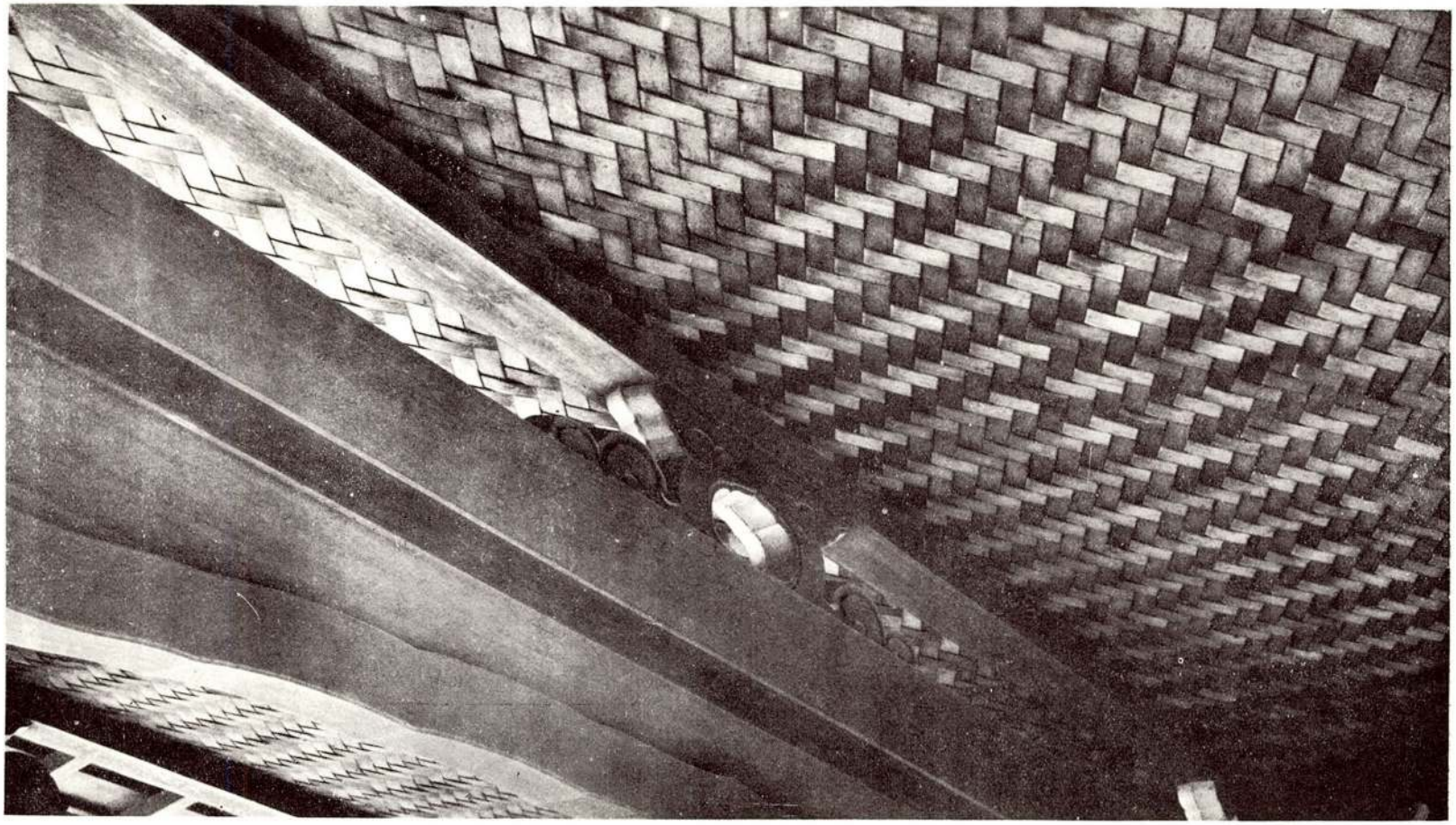
下。第27圖　傍花閣下層扉一部及扉上藁座
（昭和七年十一月四日）



上圖は障子をはづして內側からみたところで，第10圖でみる通り此窓はすっと長いのだが，其一部分が見えるだけである。其棟い格子の間から，北側「門廊」・階段欄杆・昇勾欄の一部が見える。

下圖は扉西面――即ち裏面――南端の吊元の一部を見せたもので，表は一枚板だが裏には横桟を打ち，又軸の上部は藁座に入れてある。

第28圖　下層天井部分　（昭和七年十一月六日）



下層天井の中央部を東南方よりみたところ。いくら意匠がよくとも，さすが時代は爭はれない。といふのは控柱間の虹梁上及び此寫眞に見えてゐる蟇股で，如何とも致し難いのである。天井は總て網代ばり，扉は疎棰木摺裏。出入口上は楣とせず，花頭型をなしてゐる。





上。第29圖　北側「門廊」屋根及階段覆屋根・勾欄架木一部

下。第30圖　同　全形及階段覆屋一部

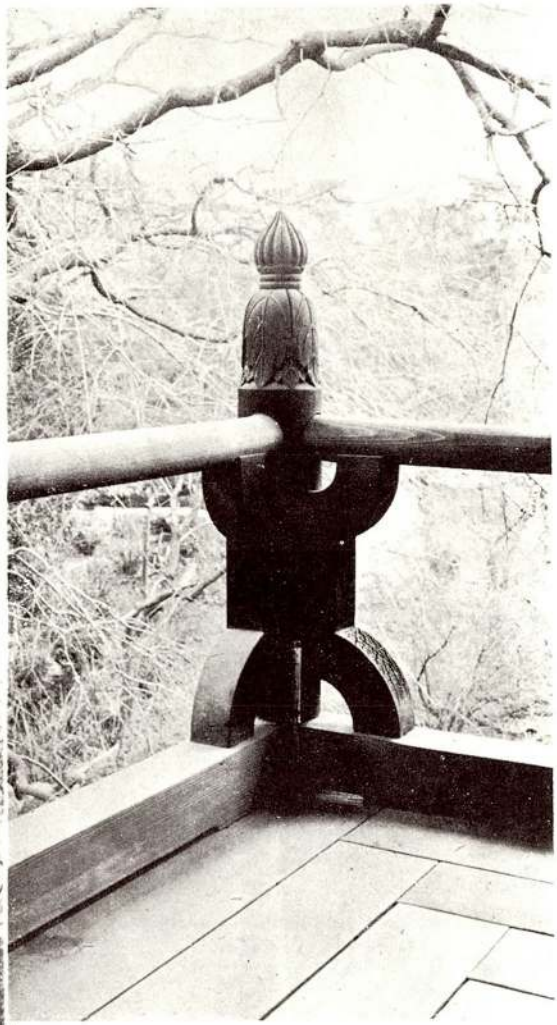
（上下圖共昭和七年十一月六日）

第3・第6・第8圖等に見えてゐる「門廊」の屋根を上からみたところで，其大棟は肌駄斗の上に駄斗が二枚と紐附の雁振と鬼板と拝無地巴とからできてゐることがよく判るであらう。拝みの疏瓦は瓦當が一平面で，巴文も何もついてゐぬが，それでも「無地巴」といふ名で呼ばれる位，疏瓦の瓦當には巴文をつけるものと心得てゐる位に，平安以降巴が流行したのである。

上。第31圖　上層勾欄東南隅を内側よりみる
（親柱に添ひて立てるは曲尺の約五寸（六吋）
•昭和七年十一月六日）

下。第32圖　同　　を西南方よりみる
（尺度右同斷•昭和七年十一月四日）

上層の親柱も，亦第8·9圖に掲げた下層のと全く同意匠で，ただせいが低いだけの事。勾欄は地覆と架木のみで，平桁を欠き，束も亦普通の場合の如く，枓束又は蓮葉束ではなくて，内部を刳抜いた圓を二つ割にして上下につけ，其間を結びつけた様な，何を現はしたのか（下へ）





（上より）知らぬが，昇勾欄の夫れと共に，一種特別の形をなしてゐる。これも亦つい他でみたことのないものである。地覆下端に水くりのあるのは當然の注意である。

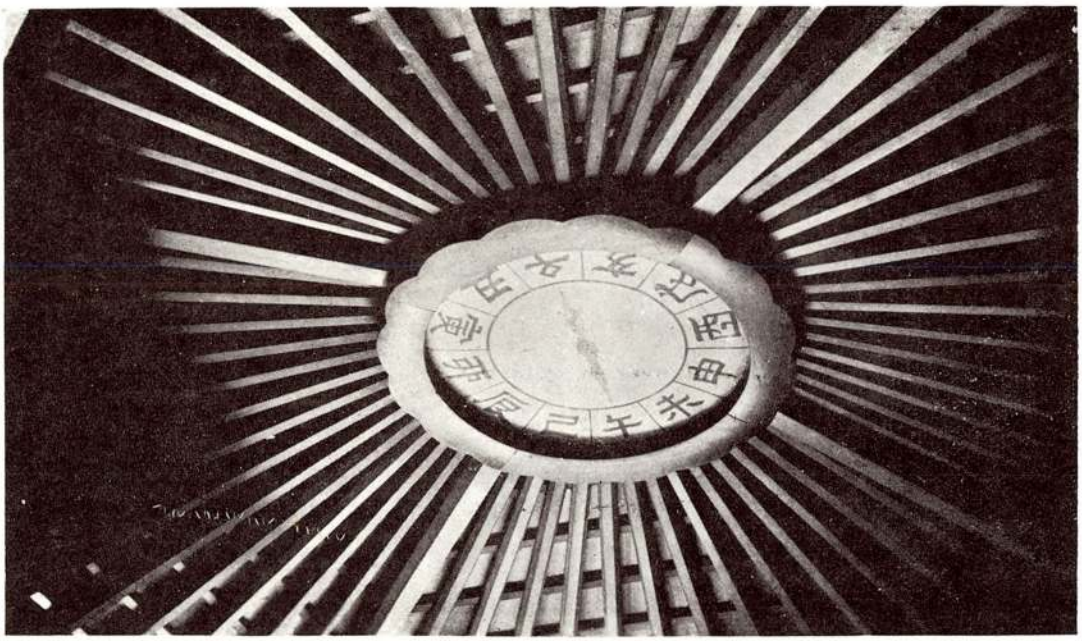
椽は謂はゆる「椽椽」（クレエン）で，隅の納りは上圖の如くである。椽幅も甚だ狹く，内法僅に約二尺で，勾欄もきゃしゃだから，四方にたててある四枚の腰のない紙貼障子とまことによく調和がとれてゐる。但し障子を保護するため平素は全部簾で覆ふてある。

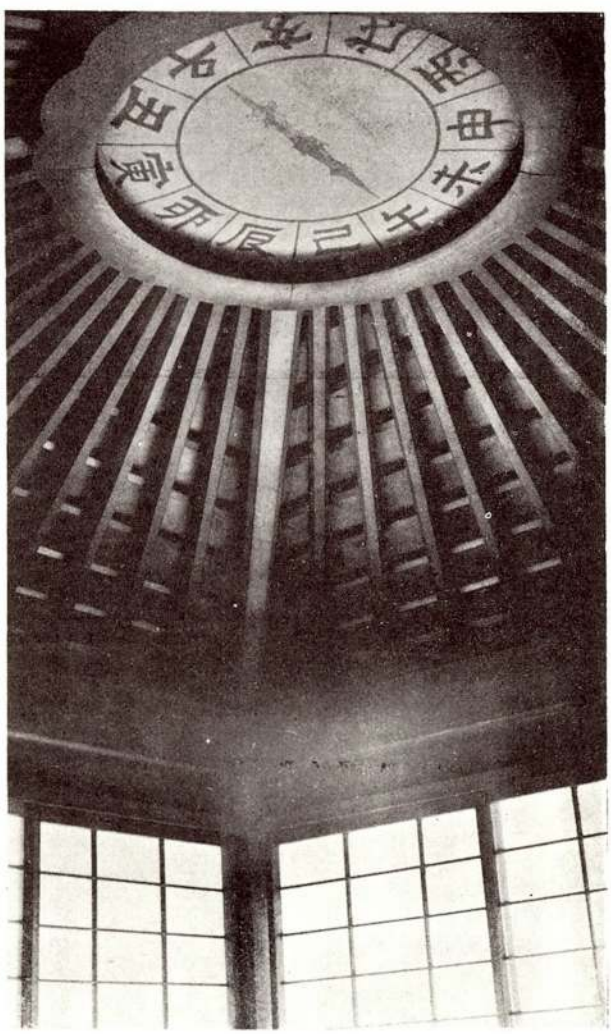
第33圖　上層北側椽勾欄及階段昇勾欄



北側の上層椽・勾欄・昇勾欄の一部を東方よりみたところ　一種の美觀を縱にしてゐる。右隅の三角形は階段覆屋の一部。遠景に見ゆる籬の内は園林堂。

（昭和七年十一月六日）





上。第34圖　傍花閣上層化粧屋根裏中心飾

下。第35圖　同　　及軸部一部

（上下圖共昭和七年十二月八日）

上層化粧屋根裏の磁石形中心飾は，石川丈山の意匠によつたものといふ傳である。四隅に化粧隅木を架渡し，あとは總て扇棰木舞裏にしてある。上層は正方形で，床には中心に正方形ができる様に疊を敷いてある。室が四疊半である以上，天井も亦正方形であるから，放射形に配置された猿頬面取の化粧隅木及棰は，頗る美觀を呈してゐる。類例のない珍らしい手法である。

現代建築に於ける美的基準

城戸久

1

よしんば數千坪に餘る大ビルデングであらうとも、或はとるに足らぬ小店舗に過ぎなくとも、現代都市の街頭を形成する幾多の新建築物は最早過去の建築美學では明に理解しがたくなつて來た。過去における建築規範は現代の建築家にとつては何等の價値を有しなくなつた。

過去の社會人は過去の美學を持ち、過去の建築美基準を持つて居つた。だが現代は產業資本主義の時代であり、金融資本主義の時代でもある　新しい時代は新しい建築を常に要求して居る。そしてこの產業建築に於ける新形態は必然的に我々に建築價値批判の、或は建築美基準の新尺度の確立を要求するのである。茲に許されるならば、我々はこの小論に於てこの新建築價値批判の一尺度に就て少しく考察を加へて見たいと思ふ。

2

近代の美學は人間の美意識を自然科學的な立場から、心理學的方面より、或は生理學的方面より、又は生理的心理學的方面より說明づけやうとする傾向であるのを我々は讀むことを得た。然し人間が事物を如何に感覺し、如何に意識したかの問題は寧ろ異なつた立場から觀察されねばならぬと思はれる　何故ならダーウィンは「人間の起原」の中で述べて居るが如く、美的なものに關する觀念が異人種間に於ては勿論、同一人種に於ても國土の異なるに從つて區々であるからである。即ち「美的なものに關する觀念は----と彼は言ふ。-----少くとも人間に於て一定の性質を持つてゐない。實にこの觀念は、種族の異なるに從つて雜多である。そして一人種間に於てすら國土の異なるに從つて同一ではないのだ。蠻人の大多數が熱愛する厭はしい裝飾と、厭はしい音樂に依つて察するに彼等の美的觀念は例へば或る下級な鳥類に於けるよりも發達して居ないと言ひ得るかも知れぬ。」例へばオーストラリヤの土人とヨーロツパ人とが同じくベートーベエンのシンフオニーを聞き、若しくはラフアエルのマドンナを見たとすれば兩者の感覺する心理的過程は、兩者の自然的存在は同等だから、同等の樣式で行はれねばならぬ筈である。この限り問題は自然科學的に解決されよう。然しながら彼等の感覺は非常に異つて居るのである。從つてその相違は自然科學的生物學的には說明されがたい點である。

ダーウイン自身我々の探索は他の方面に向けなければならぬと言ひ「文明人にあつては然し乍ら此等の感覺は複雜な觀念と思想の連鎖とに密接に結びついて居る」と甚だ重要な指示をして居る。この指示は我々に美の觀念は生物學より社會學へ送り込むのであり、文明人——否全人類に渉つての美感は多くの複雜な觀念と聯合して居る事情は明かに社會原因に制約されて居るからであり、社會的存在乃至歷史的存在の如何に依るものであるからである。

我々はダーウインの「人間の由來」に依つて少くとも人間の美感は各人が如何なる趣味の所有者であろうとも、個々人は社會的存在として又は歷史的存在として非常に錯雜せる觀念の結合であり、この複雜なる觀念は畢竟するに與へられたる社會の生產力の狀態とその經濟に依つて創られることを信じねばならぬのである。從つて同一の社會狀態にあり、同一の經濟狀態にある人種乃至民族は同一の美意識を持つに至るであらうことは理論的に肯定されねばならず、更に進んで進步せる經濟狀態社會狀態にある人種の美意識はそれより退步せる經濟狀態、社會狀態を有する人種の美意識變化の未來を暗示するものであると言ひ得る。この意味に於て我々は明治維新の經濟革命に遭遇してより今日の我々日本民族の持つ美意識の變化——建築美の變化、服裝美の變化——を理解せねばならない。

我々のこの美的感覺の再認識は少くとも現代建築美の問題に對して過去の建築規範は何等の價値をも有しないことを教へると同時に、社會の物質的基礎と上部構造としての現代建築との接觸を要求し、併せて現代の經濟的社會的條件に基礎を置いた新しい建築美批判の基準を與へるのである。そしてそれは過去の建築美批判の基準が徒らに觀念論的な抽象論であつたのに反し、現代に於ては科學的な社會的な問題に移ることを我々に教へるのである。

3

現代は產業資本主義の時代であり、更に飛躍の段階を經て金融資本主義の時代である。產業的中心としての大都市の不斷の成長は都市住民の數の增加をうながし、此等住民の運動の增進と建設の量的進步はやがて建設事業に於ける質的變化をもたらし、交通の成長を伴ひ、今日見る大都市の形態を形成せしめた。そして建築ほどこの急激な社會的經濟的關係の變化に順應してそれ等の變化を反應せしめたものは外にはない。繪畫と舞踊が新しい型式の下に培はれて居ると雖も、建築ほどこの社會的經濟的關係の變化、即ち產業資本主義若くは金融資本主義の發生に對して、單に外形的な問題ばかりでなく、內容的な問題に於ても、此等の現實の要求を滿足せしめ、且つ又その轉換を間接的に助長せしめたものはない。

經濟的發達とは畢竟するにそれは技術の發達即ち發明と發見の系列に外ならない。かつては人力に依つた力織機が大動力に依る紡織機になるまで——家內工業が大工業に移るに

つれ、必然的に要求されるものは、かゝる物質的生産の發生所たる建設物即ち發電所であり、工場であり、貯藏所で、次で來るものは此等生産の運輸に直接交涉を有する橋梁、停留場の建設であつた。そして第二にはかゝる物質的生産をして組織的科學的ならしむる統制本部たり機關たる建設物――銀行、事務所――がある。そして恐らく現代産業資本主義時代の下にある總ての建築物はこの二者――産業建築、金融建築――の何れをも出ないであらう。鐵筋混凝土構造法の發明と技術の發達と更に金屬工業の大工業化に依る建築材料の大量生産とは資本主義社會の要求する凡ゆる建築物の構築をして可能ならしむると同時に、又進んでは技術の進步發達は經濟的狀態をより多く進步變革せしめるに役立ちつゝある。そしてかく現代社會は常に建築技術により高度な發達を常に期待しつゞけて居るのである。

我々はかくの如き經濟機構と密接な關係を有する現代建築を、過去の異なれる經濟狀態の下に於ける美的尺度で價値づけることの如何に愚なことであるかを知らねばならない。と同時に又かくの如き社會的、經濟的必要に依り生じた現代建築の價値尺度をば「藝術的美的なもの」と「實用的なもの」との二つの方向より求めやうとする近き過去の建築理論の誤謬であることに氣付く必要がある。現代社會には既に藝術的建築と工學的建設との別はあり得ない。只あるのは社會の物質的基礎としての上部建築としてあらゆる建設物があるのみである。從つて過去にしばしば問題となつた「藝術的建築」と「實用的建築」との接觸に關する論爭は無駄な骨折に過ぎなく、我々の現代建築の價値尺度は同時に美的尺度をも決定するものであらねばならない。

4

然らば我々はかゝる現代建築の價値尺度乃至は美的基準を何處に求め、探究しやうとするのか。それはやがて資本主義の新しい發展段階は現代建築に何を要求しつゝあるのか、又現代建築家は何に依つて制約されつゝあるのかの究明に外ならない。

現代資本主義は常に幾多の生産部門を各獨立獨箇に、その資本の集中化に心懸け生産に從事しやうとする傾向を示して居る。その結果は一個の生産部門に於てトラスト、カルテルの組織を形成し、現代建築は少くとも不知不識の間に又は意識的に此等の集中資本に制約されねばならない。そしてこの集中資本は又地理的に生産區域に依つて集中せられんとする傾向を持つて居る。從つて又建築はこの資本の集中區域に於て最も著しくその要求に滿足せしめねばならない。換言すれば現代建築は資本の集中區域(大都市)に於て、それ等の集中資本の要求するあらゆる要求條件を滿足せるものにあらねばならない。そしてその最大要求は生産に依る利益獲得の最も容易なる可能性を滿足せしむることであり、更に最も單純なる生産の方法に依る最も增大なる生産を得ることを要求する。この結果は生産の個々の過程の機械化と合理化と規格化を必然的に形成せしめる。現代建築はその何れもそ

の最大最要なる價値尺度を茲に求めねばならない。例へば一種の産業建築と見做し得べき百貨店の建築に就て見れば、百貨店企業の建築に要求する處のものは最少の資本（最少の建築費）を以つて最大の利得を獲得することであり、これはその床面積利用價値の最大率とその高度の經濟的最高限界を建築技術に求めて居る。從つて平面形態の如何と斷面形態の如何とが同一の資本(建築費)の下に於て、その建築物の價値を決定することになる。即ち利得を獲得する有効床面積と通路其他に使用する非有効床面積との比の最大率を得ることであり、此れが爲には昇降機の利用を極度に尊重せねばならず、又ひいては昇降機の改良發達をうながさねばならない。更にその高度の問題に就いては我國に於ては一定の限界を超えることを許されない。然し現在資本集中都市に於ける百貨店の總てはその最大限度にまで到達して居る事實より見るも、その經濟的高度の限界ははるかに制限された限界を超過して居ることを示めして居る。そしてこれは單に百貨店建築の問題には止まらない。あらゆる産業建築に於て現代建築家の最大任務はその平面計畫に於て最大の利用率を與へその斷面に於て經濟的高度の限界を保つことである。一個の産業建築が如何に現代に於て建築的に價値ありや否やの問題は最早や外觀の構成や裝飾の美醜にては定まらない。それは與へられたる資本の與へられたる集中區域に於ける要求をその平面と斷面計畫の間に於て滿足せしめたか否かに依るものである。

かくの如き資本の要求する根本條件は既に總ての建築の形態を自ら決定するものでありその後に於ては建築家は如何に地域の經濟的利用を滿足せしめるか、そして又如何に經濟的にその形態を被覆するかの問題だけにしか過ぎない。前者に於ては日照、周圍との交通關係その他の條件が地域中の經濟的最良位置を決定するであらうし、後者に於ては建築材料の撰擇の可否とその經濟的利用の如何と建築工程の速力增進方法採用の如何に依ることが多い。そして日照その他の問題は既に現代の建築學が科學的な解決方法を示して居り、建築材料工業の大工業化は鋼鐵製窓枠、プレート硝子、合金屬、絶緣材料の大量生産化をうながし、建築構造體被覆の經濟的要件を滿足せしむるに至り、技術の進歩と建築機械の利用は建築工程の速力增進の問題を解決するに至つて居る。そしてかゝる大工業化せる被覆材料の經濟的利用は必然的に現代建築の外觀を決定するのである。

かくの如き發達せる諸種の技術の利用に依り、複雜なる機能を滿足せしめたる現代建築の外觀には、最早や過去の手工業的被覆材料を以つて覆はれたる樣式的建築の複雜性は求められない。只あるのは統一された材料の坦々たる平面であり、材料の組合に依る色と面と型の單純なる構成の力である。何故なれば、マーツアが述べて居るが如く「我々がものゝ形態と呼んでる居る處のもの、即ちコンストラクションとそれを結び、かつ補つて居る部分の凡ての結合が示してゐるところのものは、生産勞働の手段の一般的狀態に於ても技術の狀態に於てもその制約性を持つて居り、勞働の手段がより複雜であり、技術の發展がより高度であり、複雜な機能が與へられた對象を完成すればする程そのコンストラクション

はより發達した形態を示し、その形態はより「豊富に内容的になるであろうが、決してより複雑にはならないからである。」そしてかく生じた單純な建築形態は同時に經濟狀態の變換過程にある現代社會の建築美基準を形成しつゝあるとも言ひ得る。然し茲に問題は建築家が如何に資本の要求する建築形態を構成し、如何に此等の大量生産材料を利用するかにあり、これはなほも建築家の頭腦と技倆に依る建築家の自由意志であるが、新しい建築材料は現代建築構成の積極的要求に依つて生れたものであり、決して建築家の個人的美的意識を滿足せしめる爲生れたものではないことである。從つてこの經濟的發達の過渡期に際し、經濟的狀態の發達を基礎とせる建築技術の進歩と新材料の出現を惡用することに依り、過去の建築美基準と妥協せんとするローマン的構成主義や、傳統的建築樣式を單純合理化せんとする藝術的形式主義や、或は與へられたる建築の局部的な機能を抽象化しやうとする機能主義等は單なる個人的好奇的な遊戲性に過ぎなく社會的存在としての建築の本流では決してあり得ないのである。

建築は常に社會的經濟的必要として現代に要求されつゝあるものであり、一個の建築物は單なる資本の要求を滿足せしめるばかりでなく、社會的經濟的發展のある段階に於けるある集中資本の、或る集中區域の要求を滿足せしめねばならぬ。そしてこれは現代建築の價値批判乃至は美的基準の問題に於て我々の最も重要とする根本義であらねばならない。

5

我々の理論はあまりに淺薄な一元論であるかも知れない、然し現代產業資本主義の時代にあつて、少くとも現代建築の美的基準乃至は價値批判の問題に就て語ろうとするならば、明かに遠き近き凡ゆる過去の傳統的建築美基準を克服して、此等建築の基礎を形成せる社會的制約の探究を根本とせねばならぬと信ずるからである。そして、その結果は最初に述べた如く社會的經濟的狀態の發展段階に伴ひ、我々の美的基準が必然的に變化せねばならぬと同時に、建築價値の尺度も變化すべきであるを知ることが出來る。只我々はこの小論に於て經濟的轉換期にある現代社會の制約を受けつゝある現代建築の價値批判の基準のアウトラインを單に現代社會の現段階に關する限りに於て求めやうとしたに過ぎない。

(1933•1•16)

昭　和　新　建　築

黒　田　鵬　心

×

明治時代となつて歐米の建築が輸入せられ、所謂西洋建築が我が國に興つてから、大正時代を經て、今は昭和時代となり、其間六十有七年、歐米の模倣は一貫して續いてゐるが、これを4期に分つ事が出來る。

第1期は明治 30 年迄で、其前半期は外人技師（其內には建築技師の外、土木技師もあつた）が洋風建築を作り、また我が國の大工や棟梁が折衷建築を作つた時期で、暗黑時代であり、後半期は外人建築家とこれに學んだ我が新しい建築家が西洋建築を模倣した時期で、暗黑時代は脫してゐるが、まだ皮相の模倣に過ぎなかつた。

第2期は明治の末年迄で、我が建築家の技術が發達し、西洋建築を消化し、善い意味の歐米模倣が行はれた時期である。

第3期は大正時代で、材料、構造が著しく進歩すると共に十分西洋建築を消化し、又別に國民的自覺に基いて新樣式を拓かんとした時期である。

第4期は昭和時代で、歐羅巴に興つた新樣式を輸入しつゝある時代である。

明治の初年から現在までを一時代とする事は果して妥當であらうか。私の考へでは明治大正時代を一時代として之を3期に分ち、昭和時代は猶將來に續いて、少くとも十數年を經て新しい一時代を作る事になるのであらうと思ふ。

×

時代の區分はともあれ、明治、大正、昭和を通ずる 67 年間を4期に分つてみると、材料、構造、樣式に於いて四大變化をなしてゐる。

第1期の材料は云ふ迄もなく木で、樣式は洋風では主としてルネツサンス、折衷式もルネツサンスを從來の日本建築に加味したもので、燒けた內務省などは其一例であつた。しかし其末葉には煉瓦と石とが用ひられた。それには樣式もルネツサンスを主として歷史的（ヒストリカル）の西洋樣式が用ひられた。燒けた東大工科大學本館、東京府廳、日本銀行、海軍省、司法省、大審院などは其主な例である。

第2期になると始めて鐵が用ひられた。それは 35 年竣工の三井銀行本店が最初で、帝國圖書館、赤阪離宮、丸善株式會社、帝國劇場なども皆鐵骨を用ひ、煉瓦又は石を以つて壁躰を造つた。樣式上は矢張ルネツサンスが主で、稀にクラシカルなものやゴシツクなどが用ひられた。

第3期は大正時代で、此期に始めて鐵骨煉瓦の外に鐵筋混凝土の新材料、新構造が輸入された。其最初の例は、大正2年に竣工した三井二號館であつた。其後三越本店、住友銀行東京支店、日本工業倶樂部、三菱銀行本店、東京海上ビル、丸ビル、郵船ビル等續々鐵骨鐵筋混凝土の建築が出來た。而して此の新材料による建物は5階乃至8階のものとなり非常に大きくなると同時に、樣式に於いて四角な實用本位の無趣味なものが多くなつた。それは米國に於けるビヂネスを主としたオフイス建築を模したもので、四角な尨大な建築が、平たい壁面に窓を開いた丈けで殆んど無裝飾であつた。しかしとにかく大きいのでは、從來木造や煉瓦造で3階位であつたのが、7階、8階となつたのであるから、田舍者を驚かすには十分であつた。

×

第4期は昭和となつてからで、昭和時代の初期をなすものである。これは今やうやく昭和8年に入つたばかりで、正味は7年にも滿たないのであるが、前の明治、大正時代とは大に違つた傾向が見える。材料や構造としては、大正時代から行はれた鐵骨鐵筋混凝土が建築の主體となつてゐる事に變りはないが、副たる材料として先づ著しく重要になつて來たのは硝子である　從來とても窓には硝子を使ふのが普通であつたが、窓が漸次大きくなり、甚しいのは壁の大部分を窓とし、硝子を用ひたものがある。さうなると窓と云ふよりも硝子の壁と云つた方が適當である。東京朝日新聞社や白木屋などは其好例で、名古屋の仁壽生命支店もさうであつた樣に記憶する。外國でも伯林のシエルハウス、ブレスラウのルドルフ•ペラルスドルフ商會、巴里のリユ•バラールに在る工場、紐育のスターレツト•リハイ•ビルデイングなどは好例である。

而して硝子が壁體の一部となる結果として内部は非常に明るくなるが、外觀も透明な白色となり光澤を有するので、煉瓦や石やテコツコなどとは全く違つた一種の明るい感じを現はすことになる。從つて硝子以外の壁體を張る材料も平たい滑々したものが調和する事になり、銀色のメタルを張つた朝日ビルなどは最も新しいやり方で成功してゐると思ふ。黑く光つたのなどもコントラストで面白いが、建物の大部を黑くする事は、朝日會館の例でもわかるが、都市建築としてはよくない。

其他昭和時代となつて新しく使はれ始めた材料は種々あるだらうと思ふが、それは專門家に任せて、私はたゞ硝子の進出が表現に關係し、從つて樣式にも關係あるものとして擧げるに止めた。

×

何時の時代にも其の先驅となるものは、既に前の時代の末に現はれるのを常とする。東京中央電信局が我が國分離派の建築家山田守君の設計で出來たのは大正15年であつた。それはパラボラ形の屋根を連續し、垂直に現はした大小の線は、大正時代のオフイス、ビルデイングに行はれた四角な建築とは全く違つた形で、昭和新建築のトツプを切つたもの

であつた。ついで翌年竣工した石本喜久治君設計の東京朝日新聞社は、平面（プラン）に於いて角に曲線を用ひ、立面（エレベーション）では横の線を強調し、船の如き表現を持つた。これは明かにメンデルゾーン氏の表現派を學んだものである。次で昭和3年に竣工した武藏野館、同4年に出來た東京齒科醫學專門學校、昭和7年に增築の落成した白木屋本店などは皆この表現派を學んだもので外にも日本橋の山叶商會とか外の小建築に應用されたものを時々見かける。

此の新樣式は勿論メンデルゾーン氏から始められたものであるが、今では巴里あたりでも流行し、前に擧げたリユ•ド•ラバールの工場を始めとし、リユ•ド•ベルサイユのアパート、アヴエニユ•ド•シヤンゼリゼーのメーゾン•ド•フランスなどは著しいものである。獨逸では前にあげた伯林のシエルハウス、ハンブルグのドイツチランド•ハウス、スツツトガルト市の百貨店ブロイニンゲル、墺太利ではウヰーンの變壓所、瑞典ではストツクホルムのアパートメント、英國では倫敦のグロスヴナーロードのコースタール停車場など、各國に行はれてゐる。

同潤會經營のアパートメント•ハウスも昭和2年に出來た靑山神宮表參道のものを始めとし澁谷代官山のものなども、住宅形式としては全く新しい集合住宅で、建築の樣式も相當新しいものである。これがより一層新しいものはル•コルビジエ氏の主張してゐる純粹派であるが、其系統のものも住宅には堀口捨己君の設計で二三實現されてゐる。公共建築にはあまり見かけないが、東京驛前の昭和7年竣工の東京中央郵便局や御茶之水停車場などは、其流れのものだと思ふ。御茶之水驛は小驛に過ぎないけれども、不必要な裝飾は一切省かれてゐる點で氣持がよい。（正面の恰好には多少異見を持つてゐるが）。これを左右に高塔を有する東京驛と比べると、同じ停車場の建築としての相違の著しさに驚かされる。東京中央郵便局も白と硝子の單純な建築で、何の裝飾もないが、一種の美を持つてゐる。

×

メンデルゾーン流の建築が横の線を强調してゐるのに反して、縱の線を强調したものが現はれた。それは大正14年に竣工した帝國大學の大講堂（安田講堂）や、同大學に出來た復興の諸講堂及圖書館等に現はれ、又昭和3年竣工の東京市公會堂（市政調査會）にも縱の線が强調されてゐる。これも我が國建築家の獨創になるものではなく、フリツツ•ヘーゲルによつて1923年（大正12年）に建てられたハムブルグのチーレ•ハウスに極端な垂直線が用ひられてゐるが、其以前にも既に1896年から1940年迄に增築された伯林の百貨店ウエルトハイムに縱の線の强調が現はれてゐる。このウエルトハイムの建築樣式は、ゴシツク式からヒントを得たもので、我が國の帝大講堂なども同樣であるが、チーレ•ハウスは同じく縱線を用ひても餘程表現派の感じが出てゐる。勿論ゴシツク式からヒントを得たと云つても、ネオ・ゴシツクと云ふやうなものではなく、心持は新しくなつて居り、横と縱との差、水平と垂直との相違はあつても、新しい樣式には違ひない。

此の縱の線を强調したものに昭和7年の末竣工した數寄屋橋外の菊正ビルがある。これ

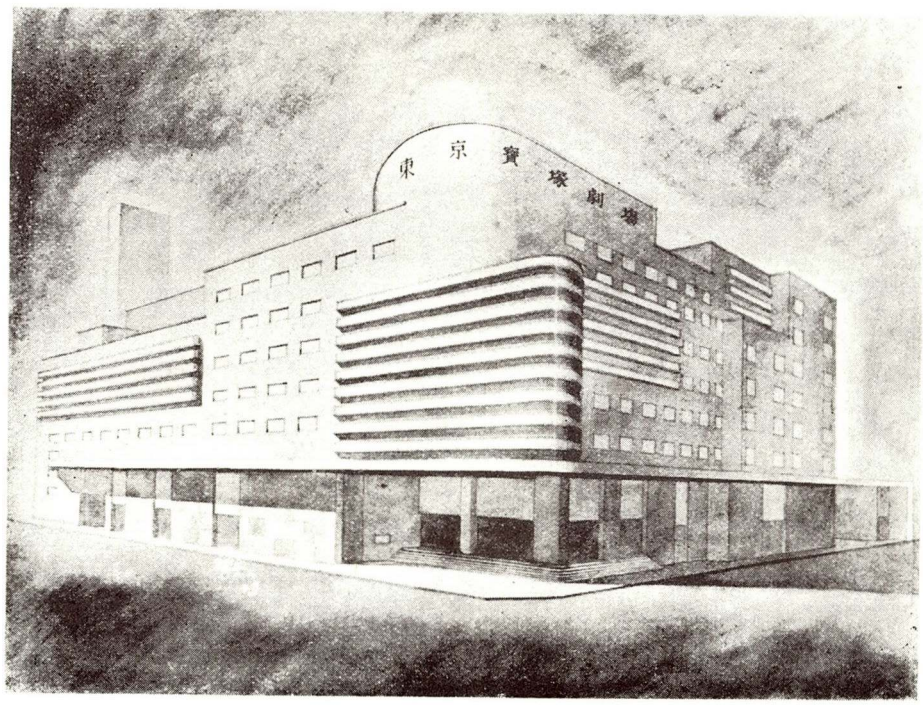
は可なり極端に縦の線を強調し殊にそれが白煉瓦で間の壁は赤煉瓦と硝子とであるらか一層縦の線がはつきり現はれてゐる。これなどは前記帝大の講堂や公會堂などと比べると、すつと新味のある建築である。

×

昭和時代となつて僅かに7年であるが斯く新しい建築が續々現はれつつある。殊に茲に擧げたのは主として東京で私が見た狹い範圍のものに過ぎないから全國的に見たならば、新しい建築はもつと澤山出來てゐると思ふ。東京の帝國ホテルの隣に基礎工事中の、東京寶塚劇場なども大分新しい樣である。內幸町に建てられるJOAKの放送局はどんな設計であらうか。それは文化的重大使命を持つ新時代の建築として、樣式、設備とも尖端を行つて貰ひたいと思ふ。昨年倫敦に出來た放送局も蒲鉾形の敷地に彎曲した平面を持つた一寸新味ある形の建築で、殊に內部は新しく出來てゐるらしい。

今日は主として新樣式の昭和新建築について些か述べたのであるが、此の間にも西洋のクラシツク乃至ルネツサンス式、又は日本風を採つたものが出來てゐる。例へば正金銀行東京支店、三井銀行本店等を始めとし、正に竣工せんとしてゐる高島屋東京店（日本生命館）建築中の明治生命保險會社などは其好例である。新派と舊派の存在は何時の世に何處の國にも存在するものであるからこれも亦當然の事である。

（8・1・13・於東京）



都　市　の　印　象

津　田　　鑿

ワシントン

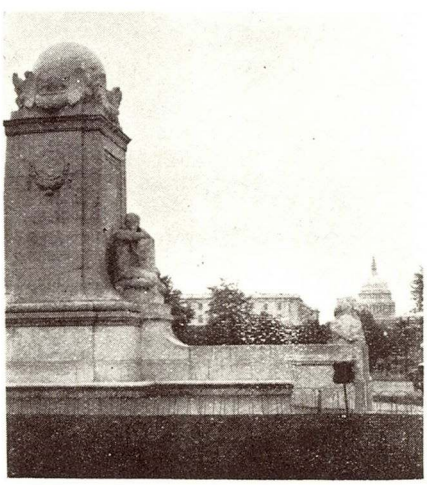
アメリカの印象は國が廣い丈け其の都市都市夫々特別の感じが異なり商業的にはニューヨーク、工業的にはシカゴ、政治の中心は首府のワシントンに指を屈せずばなるまい。

丘上に國會議事堂を置き、此處より放射線に道路を造つた。凡ての都市計畫は巴里に御手本を取り、路巾も廣く且つ樹木を多く植込んだ綠の町は、世界第一位と稱して決して愧かしくない。ニウーヨーク、シカゴ商工業的の都市は其の性質上より、雜踏は當然の事で喧騒であり、人の歩るき具合も一向落ち付きがない。從つて人々は只忙がしく立働くに過ぎない所に比較すれば、ワシントンは無暗と落ち付いた閑靜な處、流石米國最高府のある瀟洒な場所、電車も丁度京都の様に靜かに鈴をならして行き過ぎる車掌も運轉手も紳士然として居るような感じがする。

樹木と庭園に圍まれて立つ建物は惡るかろう筈もなく、且つワシントンに限つた事でないが亞米利加の建築は全體としてよく傳統を守つて進んで行く、決して突飛な形態をした特に近來獨逸に見るようなものは先づ少ない事は一層床かしく、一律に調和して居る。但し設備は大に尖端を切つて居る事は周知のことである。交通整理は中々行き屆いて實行され、空自動車は 35 度に停止する位置及び運轉には處により一定の通過すべき道路の方向を白線を以て指示して事故を防いで居る。

建國の慈父と仰ぐワシントン、次ではリンカーン等の記念的の建造物が巍然と雲間に聳ゆ偉人の面影を茲に偲ばして居る。

ホワイトハウス評判ほど大きな建物ではないが、白ペンキを塗つた瀟洒極まるもので、議事堂は如何にもアメリカらしい建物で、中央のドラムを持つ本館と左右均等に兩院がある。外側の壁が汚れると時々白く塗り替るらるゝ點は餘りに簡單である。道を隔てたコングレス圖書館には藏書の豐富に驚き、建築は善美を盡した誇りのものであろう。ユニオン停車場南から之の

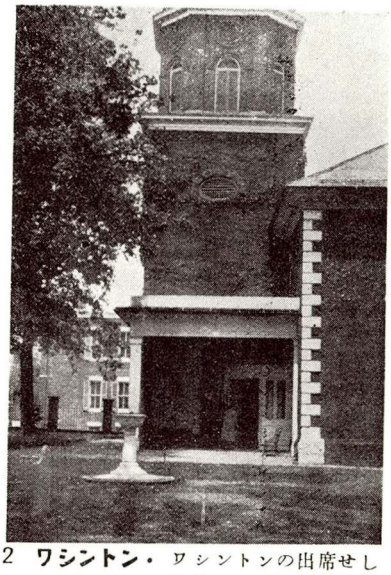


1　ワシントン・停車場前より議事堂を望む

附近は之のキヤピトルを中心に集合的に我が霞ヶ關と同様種々建設物の計畫あるにも不拘、十數年來財界不況の爲めか更に其の實蹟が擧つて居らぬが、草茫々たる敷地を其の儘に殘して急がずあわてず、平然と濟まして居るのは一寸臆測し難いをゝきな點である。

先年我國より送られた大和櫻は立派に育つて本國以上の花を咲かして春を飾り、ホドマツク河は湖のように横たわり流れの極めて緩るやかなどをおしても大陸的の河である。

國の歷史が新らしい爲め、古い工藝美術品に乏しい事はアメリカ全體を通じての惱である。何んでも早く錆を附け苔を生じて誇りたいのであるが、是れ計りはそう問屋で卸して呉れぬ。



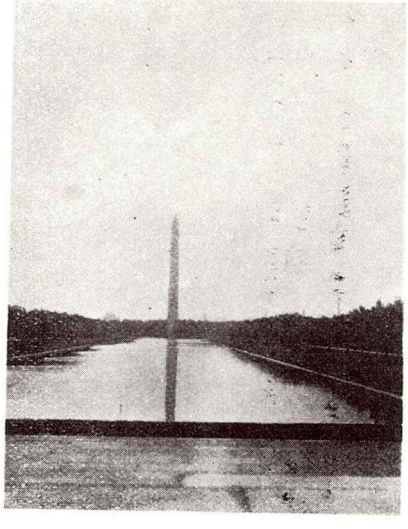
2 **ワシントン・** ワシントンの出席せし教會

博物館の陳列品も世界的金にあかしてよく蒐集されて居る。

我國から維新當時、國外に流れ出した美術品は蓋し夥たゞしい數に上る事であろう。此等のものを陳列してある內に研究の不充分のものを時々見受け、流汗的のものがある。最も此れは決してアメリカに限つた事ではないが……

技術者として嬉しい事は、案內者のメガホンから齒切れのよい聲で、設計者は誰で何んと云ふ建物、其の落成年月等の說明は懇切叮嚀である。最も左甚五郎眠り猫と云ふ挌かも知れぬが、他の町では一寸耳にせぬ事である。

3 **ワシントン・** 紀念碑



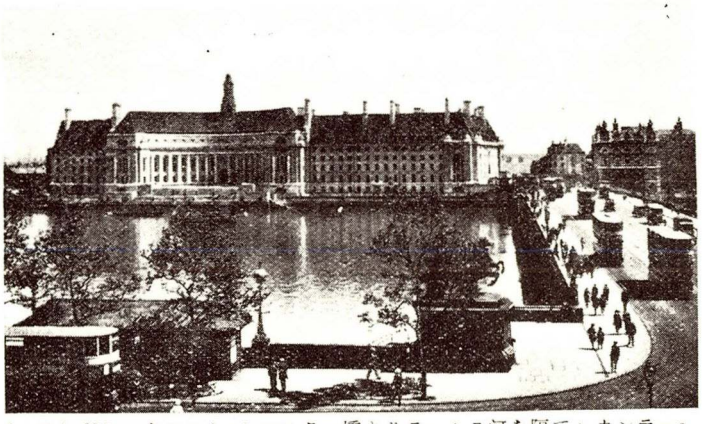
造幣局を見學して、あれ丈けの紙幣が日々間斷なく造らるゝ必要があるかに驚く事であろう、流石は弗の國である。

ホドマツク平原の都ワシントンは、感じのよい都アメリカ特有の人種的差別もなく、來るものを心良く迎へ、去るものを喜こばして歸して居る。南船北馬の旅人には勞れた頭を休ませる處である

ロンドン

いつも霧の深いロンドンをはずして居る爲め、印象を述ぶる資格はないかも知れぬが……

山も野も綠に包まれた五月は、憧がれのロンドンで一年を通じて最もよき氣候に惠まれ、自然と



4 **ロンドン**・ウエスト・ミンスター橋よりテームス河を隔てゝカンテー・ホールを望む

觀察にはのんびりと好印象を與へらるる。

日拔きの町々に電車がないのは難有く、最も場末或は邪魔にならぬ處には運轉して居る電車の代り役は乘合自動車、しかも二階附きで四通八達、どこに行くも便利に交通機關として充分間にあふ。

古い街丈けあつて、震災前の東京宜敷く、曲りくねつた突き當りの横町も可なり見受けるが、住宅としてのハムステツトは麹町と云ふ格で中流向き、ケンウードの附近其他には高等住宅が見られ、郊外には續々と新らしき各種の住宅が新築されつつある。

古ぼけた町、割合に狹い街道に綠の少ないのは何んとなく物足らぬ、市區改正は中々思ふ樣に行はれぬ事情があるらしい。

建物の軒なみはさまで高くないが、落付いた形態を備へて冬の煤煙には一とたまりもなく、新らしい建物の壁は大抵灰色を通り越して黑ずんで仕舞ふ。其れが一層建物に錆を附けると云ふ事になる。

歐洲の他市に見るような眼先の變つた現代式の建物は、殆んど數ふるに足る位である。之れは國民性の然らしむる處でなんと云ふても偉い點である。

テームス河の情緒は殆んど隅田川と同じ樣子、之の兩岸に建つ建造物や舊蹟は中々數多いものである。

ハイドパークは思ひ切つた大きなものである。あれがなかつたなれば、ロンドン兒はニウーヨークのセントラルパークと同樣定めし息苦しい生活を餘儀なくする事であろう。

5 **ロンドン**・小住宅



公園の附近に中流以上の住宅があるが規模は極めてちいさいもので出來る丈け簡易に用を辨じ、適當の郊外に各自思ひの儘に別邸がある事はなんと云ふても富の程度と桁に相違がある。ロンドンの巡査は慈父の如くである、六尺ゆたかの體格の持主で愛嬌たつぷり、容貌は其の人

の德である。

禮儀の正しい事は、學校の教育方針にも紳士を造る處と云ふ位であれば、往來で人の足を踏んでも踏まれた方で謝罪をする位でアメリまるとはまるで反對である。

6 **ロンドン**・歐洲大戰戰死者の紀念碑



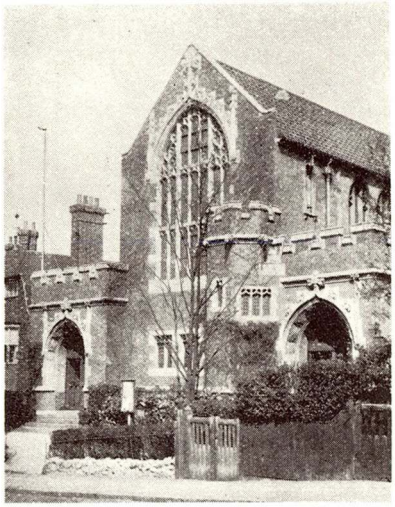
生活に要する物質は自給に不足する爲め多くの輸入品に待たねばならぬ點、何かの場合非常に不利の立場にあるが、反對にどの港に行つてもユニオンジヤツクを掲げた船舶の多いのと、兎に角、英語が普通一般世界共通語になつて居る其の勢力は流石に偉大なものと云はねばならぬ。都心のバンクの附近の混雜はえらいもので、地下道を造つて向側に渡つて居る丈けでも如何に雜踏するかの想像に難くない。時代の要求は英蘭銀行も遂に改增築を餘儀なくしたが、之の建築には相當賛否兩說があつたそうで、之れは因襲の久しい處には餘儀なき事であろう。

デイリーテレグラフ新聞社及び工事中なりしデリー・エキスプレスは恐ろしい現代式の形態に造られたもので、尖端を走る新聞社としては成功であろうが、ロンドン兒は喜ばぬであろう。

亞米利加の資本を投じて營業して居るセルフリツヂ百貨店は、前回4分ノ1であつたが、先年既に全部出來上り盛んに安價に商賣をするので一部の人に評判はよいが、あるものは英國製でなく、米國から輸入品でうつかり買つて馬鹿を見る事は笑ひ話しの一つである。

大英博物館は後部に建增しをした。又マダム・タツソーは先年の燒失後其の跡に立派な本建築が出來上り、昔日の比でない、餘り入口が堂々として居る爲めまご附く位である。例の蠟人形細工の中には若槻全權があつたのは大に心强かつた。アイデヤル・ホームの建物は、黑色の藥掛けタイル張り、上部軒と窓の附近に金箔を若干使用してあるのは、どうも此地には不向きで、營業政策上から來たものではあろうが、考ゑものである。黑猫煙草會社は商品の關係からエジプト式を採用した建物ではあるが、結果は一向面白くない、却つて周圍と不調和の爲め悪い印象を表はすようである。

歐洲大戰々死者の記念碑は、車道の眞中に建設され道行く人々は脫帽敬禮、勇士の靈を弔ふて居るが、建設當時は交通事故が絶えなかつたそうで、さもあらん事で、道路の中央に邪魔なものを建てる當局は少し認識が不足であつたようで、他にいくらも適當の場所があるように考へらるる。古いものはなるべく大切にしよう、使用し得るものはいよいよ毀れる迄、祖先のものは子孫になるべく來歷を附け加へて讓ろう、之れが國民性で、今日處に依つては未だ電灯の恩惠に浴さず、せいぜい瓦斯で我慢して居る處もある位で、種々の設備



7 **ロンドン**・ハムステツドにある教會

の遅れて居る點は、一向無頓着、一例は 1931 年5月漸く一部に自動式電話交換が採用せらるるようになると、始めは何處も同じ事ではあるが、今迄の習慣上から不便の聲高く、東京では既に前年より一部に使用して居ると話せば眼を丸くする位である。

地下鐵は非常に複雜して、交叉點の三重する場所は可なりの深さに堀り下げられ、停車場も自然簡單でない。昇降用エスカレーター又はエレベーター使用の進歩した場所があり、瓦斯燈を未だ難有がつて居る同じ人種が棲息する都かと疑ぐりたくなる。

ゴシツク建築は英國が一番何となくしつくり合つて居るようである。良く環境と一致する爲め、又洗練もされる、英國とゴシツク建築は他の都市より一層懐かし味がある。

オツクスホードサーカスの四つ辻の建物を統一したものには頗る敬服した、各間口の大さは異なつて居るが、形式が、四隅同一で、しかも曲線形のプランは一層角地面の建物を美化する街路と建物の對照の好標本である。

又リゼント・ストリートの曲線の町も殆んど一個の建物で埋まつて、其の統一の美は甚だ麗しい。停車場は數ケ所に分けられ、餘りに感心した設備はないが、ビクトリヤ・ステーションは到着前に切符を車掌に渡し停車と同時に列車の殆んど横迄タクシイの乘込み得らるゝは便利である。

名所舊蹟に就いては數限りなく、博物館、美術館に世界的の藏品は羨やましい點がある事は既に周知の事である。

8 **ロンドン**・ ホワイトホール衛兵と頑丈な鐵扉



儀式張つた處、忙がしそうに走り歩るかない人々、取付きは無愛嬌であるが、話し出せば極めて親切威張つて居るのではないが重味がある。自尊心は可なり強く其れで押通される國民である。

派手な服裝の代りに地味で高尚を貴ぶ氣風は自然と凡ての物に表はれ、建築然り室内裝飾調度品其他に表はるゝ事で致し方のない事であろう。

ロンドンの名物の一つに今日未だ各建物に石炭ストーブを使用する爲め、煙突の數夥しく、屋上に無數の蛸壺は朦々と煙を吐く冬期の壯觀は、到底他の都市に見られぬありさまで、霧と煤煙に苦しめらるる人は春陽5月を待ちこがれる事は當然である。

巴　　里

9　巴里・凱旋門



リヨンの停車場に夜の列車は到着した。僅かながら案内を知つて居るので聊か心強く、前回は出口を正面と左側とを間違え、折角打ち合せがして・あつた清原氏と行き違ひになり、チンプンカンプン面喰ひながら兎も角同氏のアドレスを思ひ出しタクシイを命ずると番地入りの地圖を出して見てウヒーと走り出し、約 25 分同氏の宅に到着未知の佛人令閨に只メルシイの連發、すうすうしくも朝食を御馳走になり、コーヒをすすつて居るときに清原氏は歸宅され、停車場出口の間違ひを大笑した事があつたので、今回は一直線に正面に向ひホテルオバロー迄と車を命ずると合點と計りに車は動き出したが、何んとなく方向がをかしい、どうも反對の路を迂曲して居るような氣がするので、再度の注意をすると心得て居ると確答する、其の内かねて見覺えのルーブル博物館のセーヌ河に面する並木通りに出で之れならば大丈夫と安心して居ると、近道をするような風をして逆に廻りだした、コヤツ吾輩をいよいよ田舍者と見くびつて居るなと考へながらほどなく凱旋門を潜り右に折れ目的のホテルに到着、夜中の割増金と無暗にメーターを動かすべく廻り道をした賃金を要求され、不快と、夜半の巴里第一歩は、斯の如く二回迄悪い印象であつた。

誰れでも云ふ通り巴里には交通整理は不得要領自然の儘に任かしてあるが、却つて結果は悪くない。ひどく事故も餘り起らないとの事を耳にしたが、交通巡査も呑氣にかまえて、少し位の事は吾れ關せずとのようにも見ゆるが、取引所附近の混雜する處では、相當巡査にしかられて居る運轉手がある。外國の巡査にしては餘りにかんしやく筋を立てて居るのは職務に忠實過ぎる人と敬服した。

凱旋門を近よつてよくよく見て居ると、成るほど立派な建物で、都心を示す唯一の目標的記念物、遠方より見るべきものであると云ふ事が判然とする、其れは軒蛇腹と中央部に當るアーチを受ける長押の間は近い處では其の巾が少しあり過ぎ重いような感じがして餘り良い格好でないと自分は速斷した。併し5町7町或は 10 町とへだたつて遠望すると、そんな細部に關係なく一塊となつては確かに良き形態として、讃詞を呈するに躊躇せぬであろう　御馴染のノートルダム寺院、オペラハウス、ルーブルパーテオン、セクレツカ寺院エープル塔、セーヌ河に架けられた無數の橋、市役所を始め多くの建物がある。何れも之



10 巴里・新建築

れ等は近世式のものでなく、只昔の面影を立派に遺して居ると云ふに止まる。

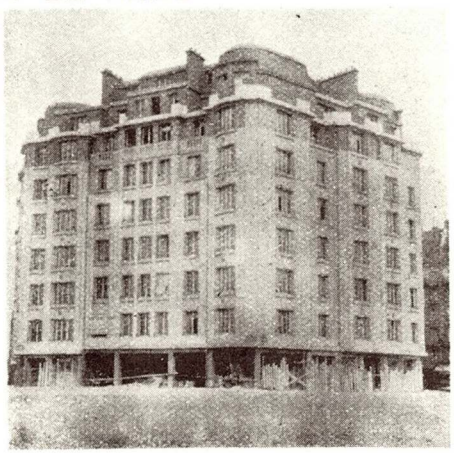
取引所の前通りにある近世式のブウルバール・ド・ラ・マデレーヌの靴屋は、1階の店舗の部分丈け改造されたもの、之の例は至る處に相當見る事が出來る。如何に商略上建物の改造の必要なるかを窺ふ事が出來る。之れは獨り巴里にのみ限らない、マルセーユも中々盛んなものでベルリンでも同樣である。

アールニウボーの發祥地丈けあつて、例のメトロの入口には今日尚其の時代を語るに足る鐵製昇降口がある。今日では、既に遺物に近いが、當時としては群を抜いた一新軸を誇つた意匠で定めし人眼を惹いたものであろうと思はるる。

新建築としては、數多く、何れも直線式でゴタゴタの裝飾は勿論ないが、柱の形は簡單ながら殘されて、窓の外高欄を張り出し、直線に丸又は八角形の手摺を用ひたものが所々に見受けらるる。大入口全體を金物枠で嵌込む方法も面白く、獨逸の直線式の行き方とは、又どこか異なる手法が國民性に窺はれる。施工は少々亂法で鐵筋コンクリート構造の骨組が出來た計り、內部は手の附けようもない程度のときに、外部は大理石が張り附けらるる5階建の建物が一ケ月後で約半分程外觀が整頓するのは可なりの速度である。機械力も利用さるるが、足塲は日本流が多く、最も階數、之の程度なれば却つて經濟である爲めでもあろうが……

共同住宅は歐洲各地共通に必要を認められたる趨勢であろう。ブーローニーユの森附近舊城壁を取毀した跡に、大規模のものが續々と建設されつつある。

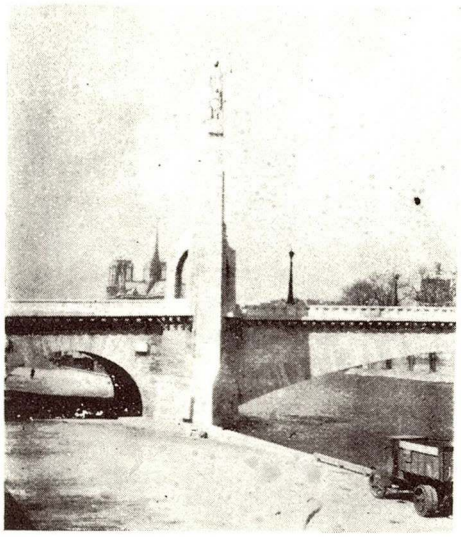
11 巴里・共同住宅



電車はロンドンと異なり、街の眞中を縱橫に走つて居る。地下鐵も又盛んである。大形バスも便利で、大戰直後の樣ではないが、待合はす停留塲で備付けの番號札を一枚取つて置けば混雜の際順序よく乘る事が出來る。併し今日は其れ程の雜踏はない樣である。

放射線道路は有名なものであるが、地理不案內と言語の通ぜぬものには發案者ほどの利益がない。都心を示す凱旋門の位置が尚少し

く高地、即ちワシントンの如き丘上にあれば格別なれども、殆んど平地に近い爲め、一つ出發點を見定め誤れば加速的にさつぱり目的物に近寄る事は不可能で、行けば行く程まご付く事は多くの人々が異口同音旅人の恨みの種である。但し言語と地理に通じたものは反對に便利であろうが……



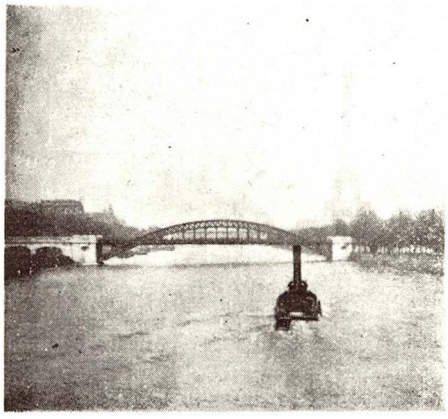
12 巴里・セーヌ河に架けられたる新らしき橋

セーヌ河、大都會と河はどこにも離す事の出來ない關係がある。特に之の河は巴里の町をさざえの如くのたくつて居る。餘りに曲りくねつた河で、其の點スプレ・テームス、隅田川などの様におとなしくない。大河の水は世界を通じて大抵濁つたものと相場は一定して居る通り餘り綺麗でない。著名な立派な橋梁の數多い事は、他市に一寸見られぬ。ローマタイバー河に架せられたるセントアンゼロ橋を模したと謂はるるアレキサンダー第三世橋は、御手本以上の立派なもので、河を往復する達磨船は優雅な姿を靜かに動かして居る。

巴里名物は勿論オペラ、カフエー、工藝美術品であるが、之れ以外犬の糞の多數に轉がつて居るのは又意外である。舗裝された街道に尚更眼立つ、尤も時を定めて、掃除人夫は水栓よりほとばしる散水で洗滌してはをるが、跡から跡から遠慮なく汚物を殘して犬は飛廻る。夜半燈火薄き處では應々踏付ける事がある。之のときはよくしたもので、緣喜がよいと一般に餘り氣にしないらしい。

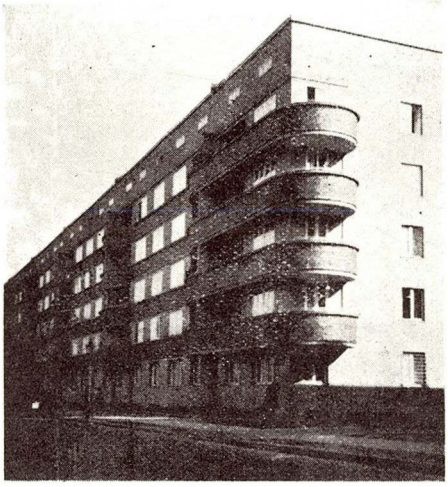
革命前後の遺跡は歷史を語るに重大視さるる。參考資料の陳列所又は志士の集會したる地下室、殺人用の極めてむごたらしき道具、何々公幽閉の場所、其他轉た當時を追想するに足るものがある。

13 巴里・セーヌ河とエーフル塔



エーフル塔は、如何にまけぎらいの亞米利加が今日迄其の眞似をせぬ處を見ると確かに成功したもので、建設當時よくあれ丈けの計畫を實行したものである。且つ歐洲大戰には非常に役立つた事は、既に周知の事で、博覽會開催の如きも其の遺物は斯く有益に利用したい事である。十年前は未だ何かに附いて皇帝ナポレオン崇拜であつたが、今日は其れ程でもない事は、世の變遷を物語る何かの感じが窺はれるようである。

14 ベルリン・新らしき共同住宅



大學村の建設は有意義な事で、各國から淨財による會館が建築さるゝ、我國よりは薩摩氏一個人の寄附により立派な建物が出來上り多くの同胞が同氏に感謝の辭を捧ぐる次第である。世界各地に殖民地を有する佛國は、1931年殖民地博覽會を開催した。殖民地統治上相當の成績を擧げつゝある事は喜こばしき事である。コンゴールトの廣場サンゼリゼー並木道ブーローニーユの森等はうらやましいものである。世界の流行を創造する丈け、又其れに對する努力をおしまぬ處に商賣の上手とこつがあるらしい。そして中々勤勉である。建築に表はれたる近代相は前に述べし如く簡易を撰むようであるが、要求せらるゝ商略的の建物には、遺憾なく華濃なる手法を用ひて、寧ろ新味をそゝるべく極端に豫想外の構圖を形成する爲め、多少落付きのない欠點がある事は致し方ない事と深く印象に止まる。

ベ ル リ ン

藏田大兄をたよつて、ヘーグのガタガタホテルを早朝に出發、停車場にかけつけると今やスチームを客車に注入して居る處であつた。まもなく規定通りに發車した列車は、午後四時頃早くもツオーの停車場に到着した。同乘の獨逸の一青年君は、親切にも私の切符を見て次の驛迄有効になつて居るが、ヤンソン夫人の宿に行くにはツオーの停車場が一番便利であると教へられて下車する事になり、非常に嬉しかつた。

ツオーの停車場は新橋程度の小驛であるが、中々重要な處だそうで、きちんとした規則づくめの獨逸の第一歩は前記の好青年の手引きで甚だ良い印象を殘した。

ヤンソン夫人宅アパートに着、自動式エレベーターは番人が世話をやいて呉れる、正直に白狀すれば、巴里のアパートを見學に行き、同上のエレベーターで、又其の以前カンノのホテルでまご付いた建築屋が自動式エレベーター位をまご付くとは少々申譯ない話しであるが、不馴れは致し方なく、最も10年前米國で藤山氏訪問の際既に同氏の宅には使用せられてあつたが、取扱ひ方が少し異なると、一寸氣をくれがするとでも逃げるか……

ベルリン着は3月の中旬であつた、外氣は零度以下2度より5度を示し可なり寒かつた反對に室内は暖房の裝置がある爲め非常に溫かい。日中の光線は中々強く紫外線を多量に含んで居る様な氣がした。軒なみは5—6階を普通としてよく揃ふて居る、特に街の四つ角には、何々プラツツと云ふて、空地を造り、植木や芝の植込んだ場所の多いのは心持ちが悪くない。電車は町を走つて居る、乘合自動車もある、地下鐵は最もよく整頓して郊外

に向つて都心から放射連絡して居り、新らしいせいでもあろうが、停車場なぞは中々清潔で氣のきいたものである。

町の綠樹も相當にある、少し早いようなれどもカフエーはそろそろ初夏を迎へるべく椅子の塗り直しや日除けの手入れを始めた店があるのを見受けた。建物は何れもがつちりとして居る、百貨店カールシユターやアメリカ館の如き現代の新建築も決して悪るくないが、古いものに、中々垂涎的のものがある。明治時代に、青島に勝手氣儘に伸々と建てられた形式、其の時分一口によく獨逸式だと叫聲を上げたものが轉がつて居ると思ふと、20年の變遷は驚嘆すべき事で、新建築は勿論時代の要求する簡易一點張りの形態に建築材料、特に金物と硝子は中々研究の上應用され、國産トラバチンを外部に使用し始めて居る。



15 **ベルリン**・ノイエス・ムゼーム入口とドヲムの廣場

博物館は戰後、よくあれ丈け管理された苦心に敬意を表はさずばなるまい。ノイエス・ムーゼの新陳列は、バビロンの城壁の一部其の儘の移轉をなし、又ベルガモンの殿堂も實物の一部を其儘蒐集整理したものである。是れが感激すべき事で、國家多事の際之の餘裕は如何に底力の強い國であるかゞ窺はれる。

乞食と云ふ程でもないが、失業者は相當にあるようであるが、手ぶらで物を乞はぬ處が獨逸流、何かを賣る形式になつて居る、只金錢をねだるのとは少し國民性に異なる點がある。

廢兵の數が未だ目立つて居る。之れは世界を敵とした大戰の跡仕末として同情に耐へない次第である。

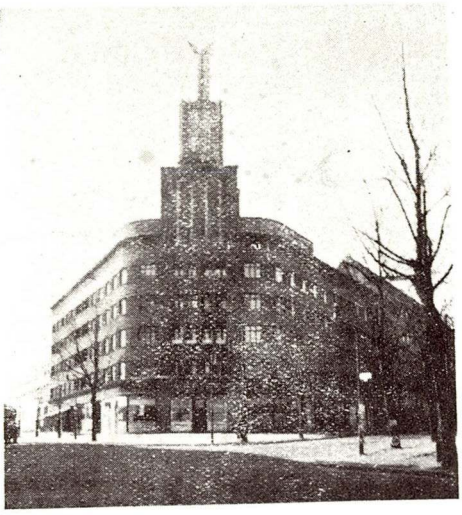
餘り廣くない動物園に要領よく珍らしい多くの種類を規則正しく飼はれて居る、其の方法など充分參考とするに足る。

16 **ベルリン**・凱旋門



スプレー河、此れはセーヌと兄弟格、其れに流れ込む支流は舟運の便を與へて居る達磨船は、巴里と趣きは少し異なるが、頑丈な形をして浮んで居る。ドラムの廣場の附近はどれも歷史的の建物でめぐらして居る。そうして何かの集合にはあの廣さは必要の處丁度政爭運動の集會に出遇つた。其處を飛び越してウンター・デーン・リンデン通りから凱旋

17 ベルリン・新味ある建物



門を入り議事堂、戰勝記念碑を過ぎ、皇帝道路から一望限りない大規模の綠の森は、誰れの眼にもよく手入れが行き屆いて居ると驚嘆される事であらう。

獨逸人は外國語を知つて居りながら話さぬ人種と謂はれて居る。特に大戰で英佛其他の敵國の國語に對しては尙更である。併し今日はそんな吝氣の事を云ふては居られぬ。國の爲め又各自の爲めにもそこで大衆的國際語の英語を話すと書いてある。商店或は遊覽自動車には英佛語をあやつる車掌同乘と云ふ具合に、一錢でも此の國に入り込んだ人からは財布の底を輕くさせるように協力一致努力して居る。

交通機關の發達も前に述べたようであるが、路面電車から乘合バスには一回の無料又は割引賃金增で連絡がある等は便利である。

土を愛する都市の人々、實際に建てつめられた敷地に土の香あるべき理由がない場末の少しの空地でもあれば、必ず週末小屋が建てならんで、花を植ゑ野菜を造り、土に親しむ事に特別愛着心の强い國民である。郊外の至る處には大意張りで多くの週末小屋を見る事は、他の都市に一寸ない現象で、ロンドン郊外でも日曜日の畑いぢりや土手に花壇を造つて樂しむのを見受くるが、小屋迄造つて出掛ける程の大仕掛けなものでない。土の價は安いようで又貴く高いものである。

獨逸人は研究心に强く、婦人は極めて勤勉であるとは、話しより實際に見てなる程と感ずるのである。

建物の足場に日本流の丸太を組上げる代りに、適當の間隔に長丸太を二つ割にした長梯子を建て、其の横棧に足場板を渡して 4—5 階の軒迄には手頃の足場が造られ、伸縮自在に間に合ふ。ロンドンで使用して居る鐵のパイプの足場より遙かに經濟的であるようである。

世界の不況は、メンテルゾン氏設計のコロンブス・ハウス建築場に立派な板圍ひ丈けで工事は中止であつたのは甚だ淋しい感じがした。

新建築は追日雜誌其他に發表せられ、陸と海を渡つて來る通りであるが、雜誌に表はれる程決してゴロ付いては居らぬ　あれば可なりに目立つ。其れよりも共同住宅は、到る處に盛んに建築され凄まじい勢である。どうしてあの財源を得らるゝか……

巴里に比較して町は清潔である、無暗に犬の糞を踏み付ける心配はない。之れ丈けでも氣持ちがよい。ビール飲用で人々は肥つて居ると云ふが、實際やせがたより丸々とした容

貌を多く見受ける。戰後の獨逸は決して疲弊して居らぬ、再起は近く疑ひなしと人々の話しをよく耳にしたものであつたが、自分の訪問した昭和6年3月末時分は、既に少しく苦境を脫するに骨の折れる様子で、いくら働らいても賠償金を造り列國に吸ひ上げられては到底やり切れぬ、働らくも一寸考へものだと云ふ位の様子はあつたように感じた。果せるか9月に至り、經濟的行詰、銀行の破綻より現今に及んで賠償金支拂延期等々の問題が湧き上つて來た。併しながら此れをうまく切り抜けた曉は、確かに恐るべきは獨逸で、其のねばり強いのは國民性の然らしむるのである。滯在中見學其他案內を辱したる藏田大兄に特に深謝の意を表はす次第である。

18 **ローマ**・公園にある噴水の脚部



ロ　ー　マ

今日、古代美術を多く其儘見る事の出來るのは伊太利で、羅馬帝國の隆盛なりし日殆んど世界中をかき廻し、長靴の形をした半島の工藝美術は到る處に遺物として保存せらるゝ有樣である。

ローマの町を歩いて、新らしい建造物の一部に時々古色蒼然たる建物の壁又は柱などを大切に保存しながら、其儘殘して取込んである事を見受ける。くづれかゝつた何かの建物の殘骸を邪魔もの扱ひにせず大切にする處は嬉しい。辻の馬車屋、雨の降る日は車體をぬらさぬように大形のこうもり傘をさしかけて客を待つて居る公園などでひときは目立つのは乳母の服裝の美しい事で、肥滿し切つた婦人が多く單色の衣服帽子、肩掛等の調和極めて派手に、子供は私の様に丈夫に育て上げますとでも云ふような格好である。

兵士の服裝は中々氣取つたものである。其の內鶏の羽を帽子の上にのせ長劍を摑んで少しながめのまんとをふらふらさして歩るく姿は中々



19 **ローマ**・公園にて乳母

20 **ローマ**葡萄酒荷車



優美な兵隊さんである。

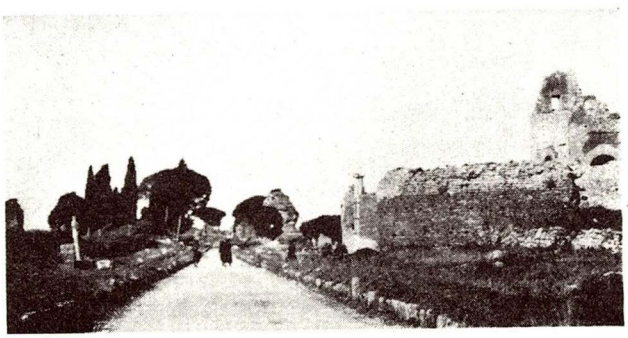
ローマは一日に出來たのでなかろう。人間を可なり安く見積つて、野天劇場、浴場水路等大仕掛けの工事に使役し隨分人を苦しめた。其れ等の史蹟は今日まのあたりに見る事が出來、當時を回想する種である。大理石の産出は、建築彫刻の材料に如何に豊富なるかを示し、噴水の多いのも又有名である。

町は所謂七つの丘に建てられたと謂ふ程あつて現在の市中には昔の2階に當る處を1階とした例がある。發掘整理して又此處に一つの名物が加はり、パラチノ丘の下セウエルス帝の凱旋門の地盤が昔のローマで、之の層を始めのローマ現在の地盤を第二のローマの地盤と稱して居る。

ムツソリーニーの獨裁政治でありながら結果は非常によく、例の黒シヤツは兵士と巡査の中間に位するようなもので、德川時代の達男とでもと云ふ格か、中々勢力がある。10年前には浮浪人が多く、下等社會は餘り感心した生活狀態でなかつたが、現在は向上して昔日の惡習はないようである。愛宕山位の處に頑張つて、世界最少の獨立國なんて意張り散らして居る羅馬法皇は偉いもので、獻金があり過ぎ財政は馬鹿に裕になる一方で、遂に獨立をした。急いで新貨幣の鑄造やら郵便切手の製造に丁度寧日なしと云ふ時であつた、面白い處である。此處の坊さん達は法衣をまとい、大意張りに下山、近所のカフエーを荒すと云ふ評判で、鎌倉のある寺の托鉢が、大船驛でサンドイツチをほほばるより一層評判を惡くする事であろう。

建築、繪畫、工藝美術品の禮讃に至つては到底書き盡せない多くのものがある。それは凡てに源泉であるからで……

羅馬法皇が常て訪問者に尋ねられた通り、3日間滯在する人より1ケ月間滯在する人はローマを解せぬ人、1年の人は尚更、結局は3日の人が一番ローマ通であるよし、味ふべき言葉である。



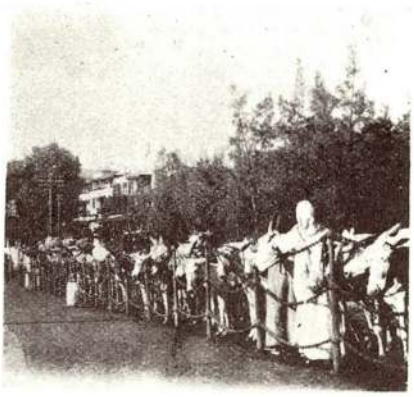
21 **ローマ**・アッピアの舊道と建物の殘骸

葡萄酒を運ぶ荷馬車が中々風流である。極彩色をした車と母衣をかけ、夜半に村から早朝に町に入り夫々酒を送り込み、午後村に歸る時分、馭

者は大抵車上に居眠りをする。馬は默々と車を曳いて自分の里に歸つて行く、何んとも云ひ表し難い風情である。

マカロニーは伊太利の名物である。なくてはならぬもの、又魚類も我國とよく似たものがある。愛國心の強いダンヌチヤの如き人物が飛出すのも又相似た點である。

22 カイロ・貸駱駝と驢馬の群



餘りに廣くもない町、都心の混雜も知れたものである。エジフト、ギリシヤが一刀彫りの甘味あるとすれば、羅馬は清水燒か九谷燒と云ふ處、無暗に手が込み過ぎ、華麗ではあるが少々氣かいあだつぽい處があるように思はるる　細工の餘りに過ぎた結果傳統を追ふた美術を集めて居る國、又之れ等を守つて行く處、古色蒼然たる都、併し政治は新らしい。

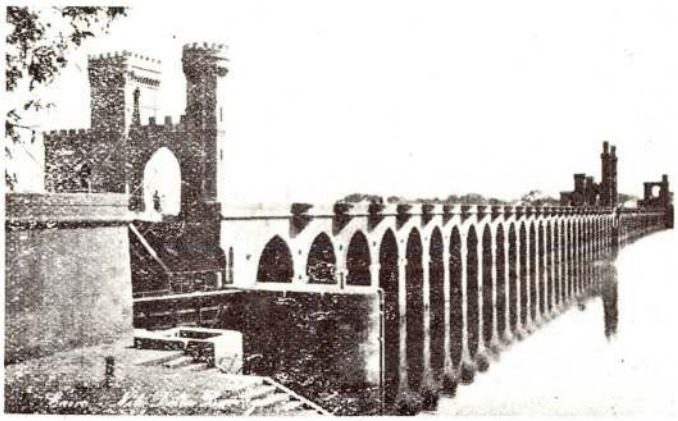
カ　イ　ロ

エジフト名物のひどい砂塵をあびながら、雄大無比の古代造營された遺物として最も著名なるピラミツトを遙かに眺めながら、カイロの停車場に着いたのは1月の始め、いくら暑い場所でも流石に未だ白服の必要もなく冬服で、丁度肌障りの具合は惡るくない。寧ろ夜は多少ひやりとする位であつた。

ギゼのピラミツトは數多き中で最も大きなもの、此の見學で、始めての旅人にはなるべく金を絞り上げるように仕組まれて居るには無駄を通り越して馬鹿らしく、財布の底を叩かれる事になるのをあとから氣がつく。

ピラミツトに近くなると凡ての乘物の終點がある。此所で驢馬、駱駝が美しい飾鞍を置いて數百頭鼻面を揃えて野呂馬の客を待つて居る。無理に切符をつかまされ、どれかに餘儀なく乘せられ、馬方或は駱駝曳き共の喧騒の內に登り坂を進むと、僅々1町半位で、既にピラミツトの麓の東側に到着するので馬鹿にあつけない。積石の一部にある入口より地下室の見學に行く人、或は3尺角の石塊を積重ねたる一つ宛を越しつゝ頂上迄御苦勞樣にもよじ登る人もある　更に約半丁を進むと、謎の持主なるスヒンクスが3個のピラミツトを脊にして砂中にうすくまり、でこぼこだらけ、殆んど欠け損じた顏面は、幾世霜を強い光線に照り付けられながら何んの不平もなく、又或る時は射的の目標に使用され、又ある時は地下に瞑する王樣に夢を送る等其の眼色は澄み渡るエジフトの空をにらんで何んとなく神秘である。

駱駝に乘つて記念の撮影をする人、附近をぶら付く人々、永くとも2時間早ければ1時間でも見學は終る。足の運びは少しをそくとも、砂漠の徒歩も又一興、必ずしも乘物の必



23　カイロ・ダムの橋

要はない。里程一度前記の何かに乗つたが、最後理由のないチツプを強要する。馬に食物をやるとか、自分がピンピンして居りながら病氣であるとか、尚又ぞろぞろつき廻る乞食、斯くして旅人に不愉快を味はしめるエジフトの人々は決して心持ちのよいものでない。多くの旅客は頗る悪い印象を殘して行く事は大に考へものである。

ピラミツトの内部は何れも國王の墳墓、幾千年の昔磨き上げた一本石の花崗石で造つた寢棺、之れを如何なる道具で彫つて棺にしたか。其の上には又更に同じ一枚石の蓋はどうして造つたか。オベリスク、象形文字等三千年五千年前の工藝美術はギリシヤ、ローマより又滋味があり、すつと價値の貴いものをよく保存されてある。且つツーターカーメンの發堀品は、更にエジフト文化の粹を裏書きするものである。

世界の文化はナイル河畔に始まつたとせらるゝ此の貴重な發祥地も、統治者當を得ざりし爲め榮枯衰勢、變遷に變遷を經て現今に至つて居るが、最近漸く世界の水平線上に浮びあがるべく、大に目覺めて來た事はエジフトの前途の爲めに益々多幸あれと祈る次第である。

24　カイロ・モスク



馬來の人とエジフトの人との比較をする事は、必要がある様に思はるる。馬來は一部に吾人の祖先として既に認められて居るが、エジフト人も中流以上の内には容貌、品格のよい點、其他に於いて何んとなく吾等と同じ血を持つて居るような氣がする　中流以下の人には、こすからい性質が欠點であるが、之れが輕蔑を受ける原因で、窃かに同國の爲めにをしむ次第である。

カイロの町は三つに區別する事が出來る。停車場の附近を新らしいカイロと云ひ、他を昔のカイロと稱し、又別に町の東南に現今新市街を造りつゝある。之れはよりよき新市街とする目的で、まとまつた暁には實に立派なものとなる筈で、着々

と街の建設に努力して居る。特に新建築は其の國粋を發揮しつゝある事は大に注目を要する。

ナイル河は驚くべき大河である。上流にダムを設けて水の調節を計つて水害を未然に防いで居る大仕掛なもので、ダムの工事を司どる事務所では、ナイル河其他に施工されたダムの模型を一室に陳列し、河川管理として成績を擧げつゝある立派なものである。カイロの町には多くのモスクが聳えてをる。アラビヤ建築の色彩形態中々に捨てがたい。頭から衣をかぶつたアラブが駱駝をうまく乘りこなして行く姿或は白い衣のすそ永く驢馬にまたがり小走りに過ぎるありさまは物珍らしい風情である。



25 カイロ・目醒めたるエジプトを表徴せる像

或る時代、勝手に理屈を附けて持去られた埃及古代の工藝品の殘つたものは、今日良く整理されて保存さる、どうせイミテーションとは知りながらも、博物館に陳列してあるものと寸分疑のない程似た垂涎的のものが、相當の高價で賣品として市中にある。大抵墳墓を發堀したもので、古代の工藝品を生活の資とするべく歴代の王様は自分の墓を後日さらし物にするように造つた譯でもなかろうに、破毀的に發堀の時代ありし事は戰慄すべき事で、現今無暗と發堀を禁じて居る事は意義のある事である。

カイロの郊外には研究に數十日を要する古蹟が散在する。何れも建築に關係多いもので熱帶の朝と夕暮、云ひしれぬ大自然の壯觀を味ひつゝ見學に費す時は、只いつまでも果しなき遠き昔を追想し能ぬ事のみである。

どろどろに紫色をしたコーヒーの舌障りは、素燒の壺に貯へられる自然と、氷の様に冷え切りたる水を飲んで始めてかをり床かしきを覺ゆるのである。ナイルの三角帆船は、壯觀で帆柱は孟宗竹、何處から持つて來るものか直徑6寸大のもの中々強そうである。

乾燥し切つたエジプトの氣候は、流石ミイラが譯もなく出來る事を悟り得る。綠樹は降雨の少ない關係上多く水邊に限り、砂漠地の常として僅少なれども、續々と至る處に殖林さるゝ爲め、昔日と面目を一新して居る。人の力も自然を征服する可能性ある事を深く感ずる。

商務官として滯在の右手寛太郎氏に面會、熱心の執務振りには只感激の次第、同氏の健康を祈る次第である。

職工住宅素人設計懸賞當選圖案

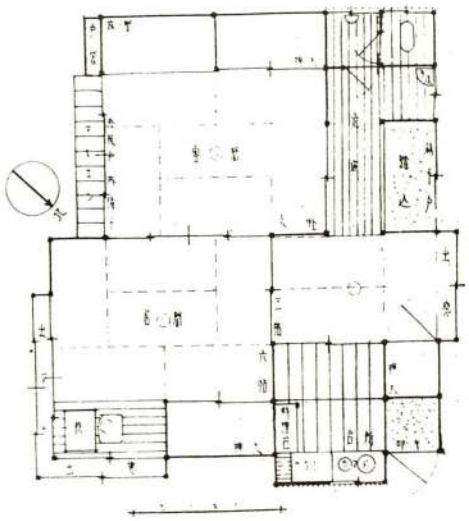
この懸賞募集は財團法人同潤會が先般職工住宅建設の參考に資するため東京及び神奈川兩府縣下に於ける主要工場 2600、それ等工場勞働者 15 萬人に對して募集されたものである。應募圖案は 1,151 通の多數に及び 106 名が入賞された、茲には 1 等から 3 等までの當選圖案を紹介することにした、因に審査員は次の諸氏であつた。

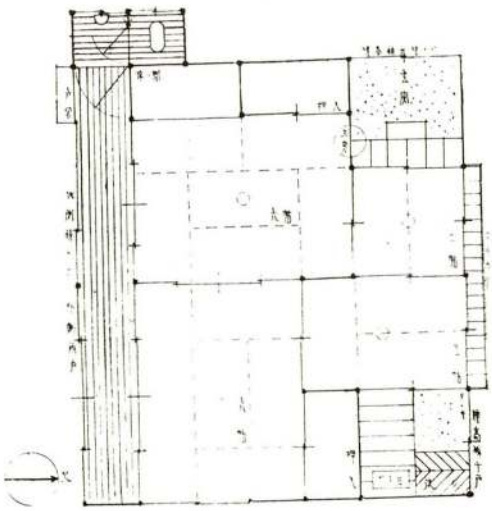
	賀川豊彦氏
社會局技師	中村寛氏
東京女高師講師	山本拙郎氏
社會局醫療課長	古瀬安俊氏
工學博士	笠原敏郎氏
工學博士	內田祥三氏
同潤會參事	藤田圓一氏

延坪 13 坪

1 等　森　林之助君

森君は陸軍造兵廠東京工廠の機械工で 24 歳

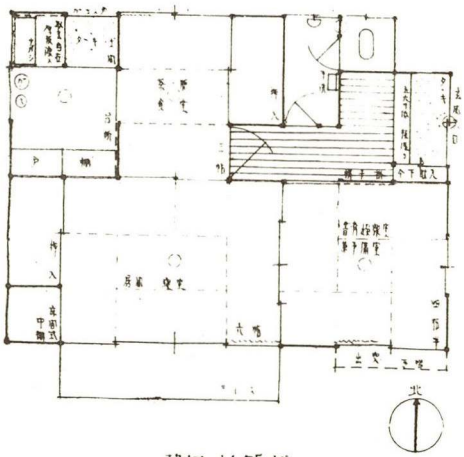




2 等 1 席　小田政義君

小田君は小西六本店工場の塗工で 36 歳

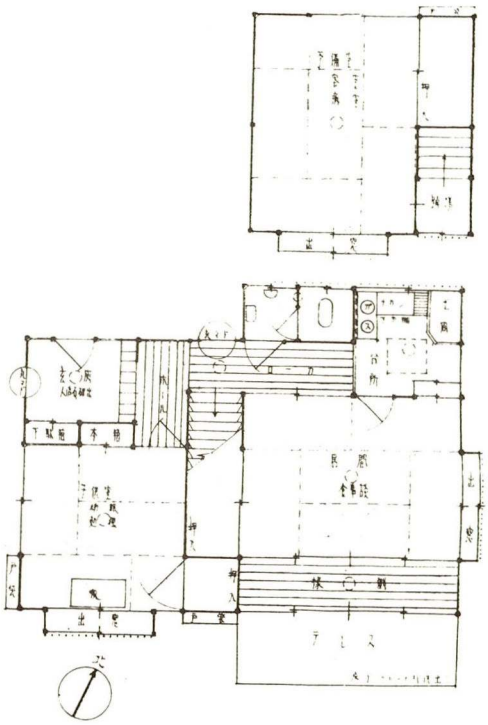
延坪 14.25 坪



建坪 11.75 坪

2等2席　杉山善千代君

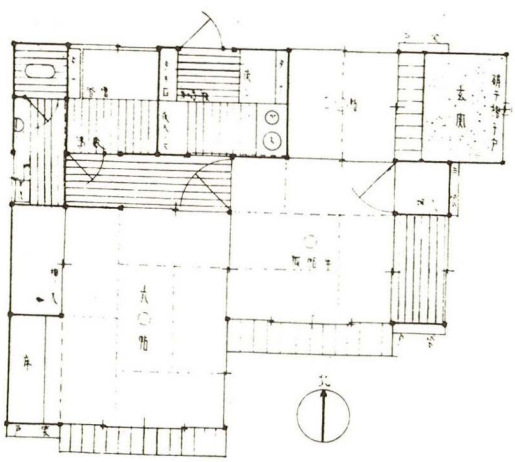
杉山君は日本電氣
會社の圖工 25 歳



延坪 15 坪

3等1席　武藤三郎君

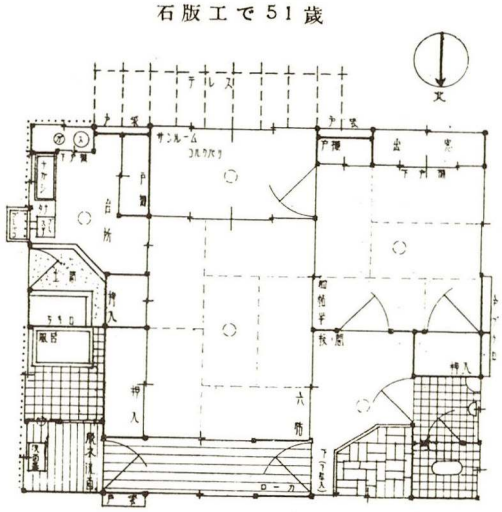
武藤君は文祥堂の
石版工で 51 歳



延坪 12.5 坪

3等2席　北島恒明君

北島君は加藤製函所の
印刷工工で 26 歳



延坪 14 坪

3等3席　中村主稅君

中村君は東京瓦斯電氣
工業會社の圖工で27歳

談話室

水

T S 生

ベニスは水の都、陸の代りに水の上を道路と心得る處隨つて上水、下水の設備はどうなつて居るか、あれで若しキヤネルに神田川よろしく臭氣芬々として汚物が遠慮なく流れて居つたら定めて殺風景な事であらうと考へて見た。又若し犬や猫、はては土左衛門が浮んで居りはしまいかとも想像しても見た。そんな譯で狹い横町を可なり御苦勞様にうろ付いて見たが結局つまらぬ臆測は無駄であつた。やはりどうしても文明國昔は昔、今は二等國なんて決して惡口を無暗に云ふものでないと氣が附いた。家毎にある2本の大きな鐵管それは一つは給水管で一つは汚水排泄管である建物から水中に深く埋設されて、何れは沖の方迄汚物は押し流され、給水は陸から連絡して居るのであらう。さまで澄んだ水の色ではないが隅田川よりは少し綺麗で河面の清潔掃除はよく行き届いて居る。流石は水郷。

不潔な支那の割合に蘇洲の水路は極めて美しい

芍藥と鱶

登陽城

近來セメントの急結劑やボード類には色々な名稱で呼ばれて而も似て否なものが隨分どつさり出來てきた。建築材料界の著しい進歩だと言へばそれまでかも知れないが、中には商業道德を疑はれそうなものもあつて、可なり選擇に迷はされるものだ。

勿論こう云つたことは建築材料界だけの話ではない。洋服屋に切地を見せて貰らつても、切れ地の名前を聞いて見ると、まるで出鱈目の口から出まかせの様な名前を並べる。少し嬲られて居る様な氣がする。いづれも多少は違うんだらうが迷惑ではある。

藥の名にいたつては雄の雄たるものだ。ウキスキーの名前かと思つたら風引きの藥だつたり、多分化粧品だらうと思つて居ると皮膚病の藥だつたりする。

規格統一と同時に名稱の統一も考へて貰ひたいものだ。世の中が進歩するとそれに比例して千般萬般に渉つて複雜になつて來るから或る程度迄は止むを得ないかも知れないが、放置されると際限がないから、それだけ名稱の統一も必要だ。

尤も昔だつて名稱の不明瞭と云ふことはあつた立てば芍藥、坐れば牡丹と人は云ふ。立つてゐる姿と坐つて居る姿とは全然違ふ譯だが、牡丹と芍藥とはどれだけ違うか一寸考へさされる。凡そ物知り男に牡丹と芍藥との相違を聞いて見ると色々考へては說明して呉れる。葉の色が違うとか、花に濃艶と清楚の別があるとか、花の香が違うとか、葉の周圍のぎざぎざの數が違うとか色々あるやうだ。が結局牡丹と芍藥の區別は花や葉だけを見ては仲々困難なものである。立てば芍藥坐れば牡丹、この言葉を造つた昔の人は勿論認識不足だが、この言葉を用ひて訝まない今の人も隨分認識不足だ。

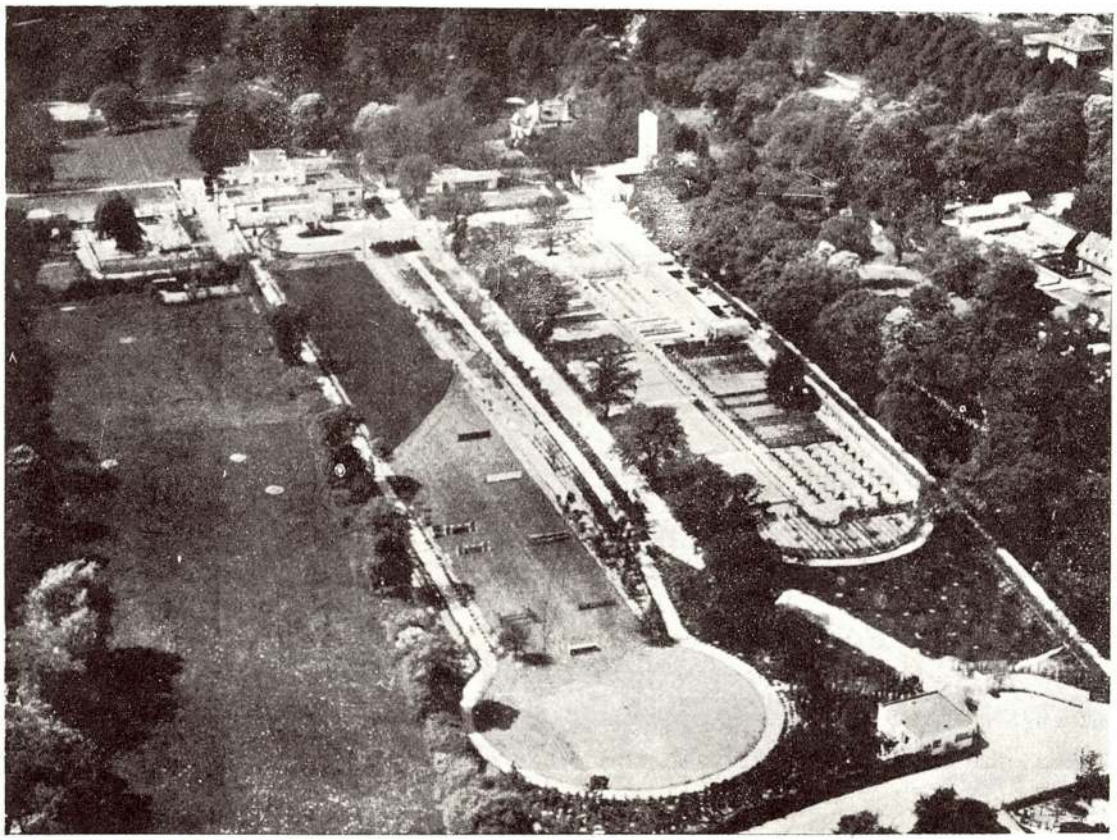
鰈と比目魚とどれだけ違う。矢張眼が一方に集つて居るとか、兩面にあるとか、平たいとか、少し細長いとか、色が違うとか色々議論があるものだ。が自信があると保險つきの返答に接することは先づない。

鱶と鮫の相異に到つては、牡丹や鰈よりもなじみが少ない爲か、確かに違うと思ふんだが、さて何處が違ふんだらうと云ふ場合が多い。

結局の所世の中の人は區別のないものを區別したり、よしんば相違があつても素人が知つて居る必要のないもの迄も別の名で呼んでみたりする。一向有難うない事象だ。

錠と錠前とは屢混同されて居るが、兩者の間には劃然たる區別があると云ふことを最近教へられた。一體どれだけ違うか考へて見て呉れ給へ。

談話室は暫く修繕中でしたが今月からまた開きます。御暇の時に話を御寄せ願ひます。建築論結構、感想結構、協會改革案結構、社會世相感結構、ゴシップ、和歌俳句、漫畵、漫文一切大歡迎いたします。が餘り長いと他の皆様は迷惑されますから400字詰原稿紙2枚位の程度で御願ひいたします。(編輯子)

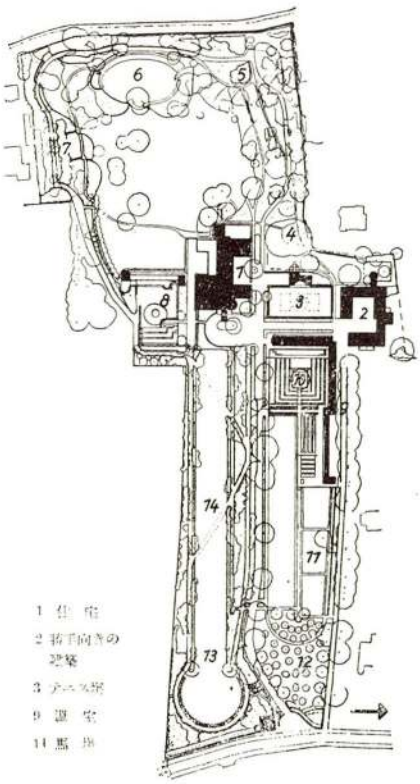


俯瞰圖

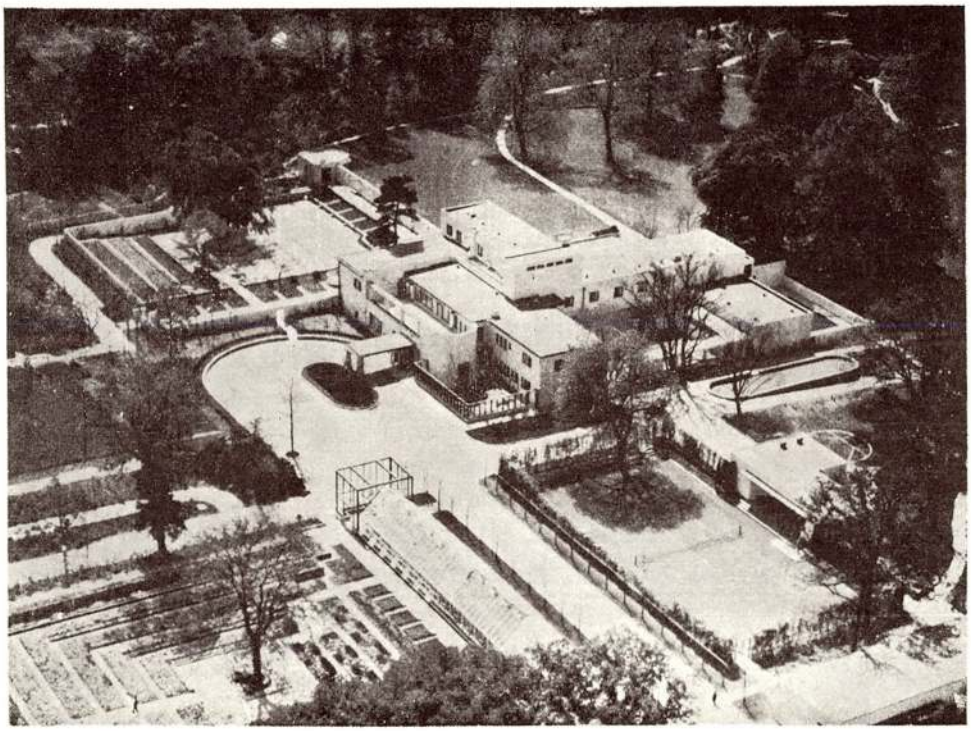
此の建築は環境の美、建築主の理解等種々好都合な條件で設計する事が出來て、エルゼツセルの新しい時代に對する住宅設計を殆んど理想的に實現する事が出來た。

全建築群は門からの通路にそふて、門番小屋、温室、勝手設備部（馬小屋、養鶏園、自動車庫、洗濯場、暖房機關室、夫婦者の使用人の住宅等）及び住宅がならんでゐる。

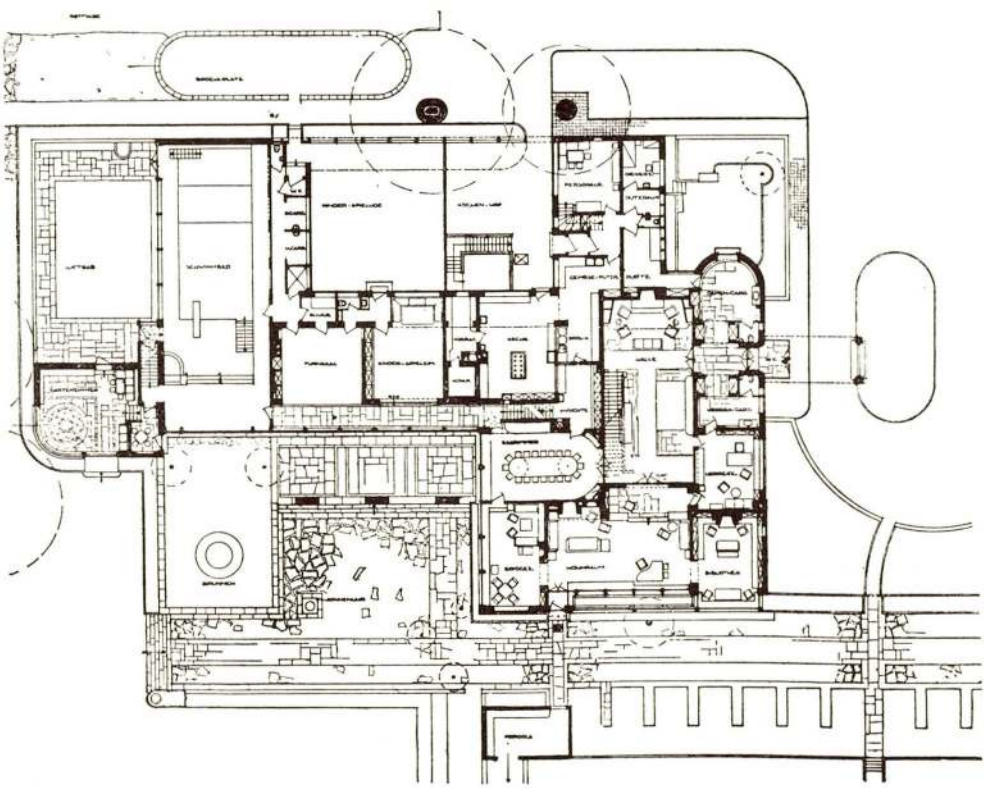
住宅の主屋の1階は應接室及び社交室で西側の突出部にはプールをもつた遊戯場と運動場があり、北側の突出部には臺所其他勝手向きの部屋がある。2階には社交室に近く主人夫妻の居間及び寝室があり、遊戯場と運動場の上が子供の寝室になつてゐて勝手の上に東西に窓をもつた雇人の部屋が取つてある。一部3階となつてゐる所は客の寝室をとつてある。



配置圖

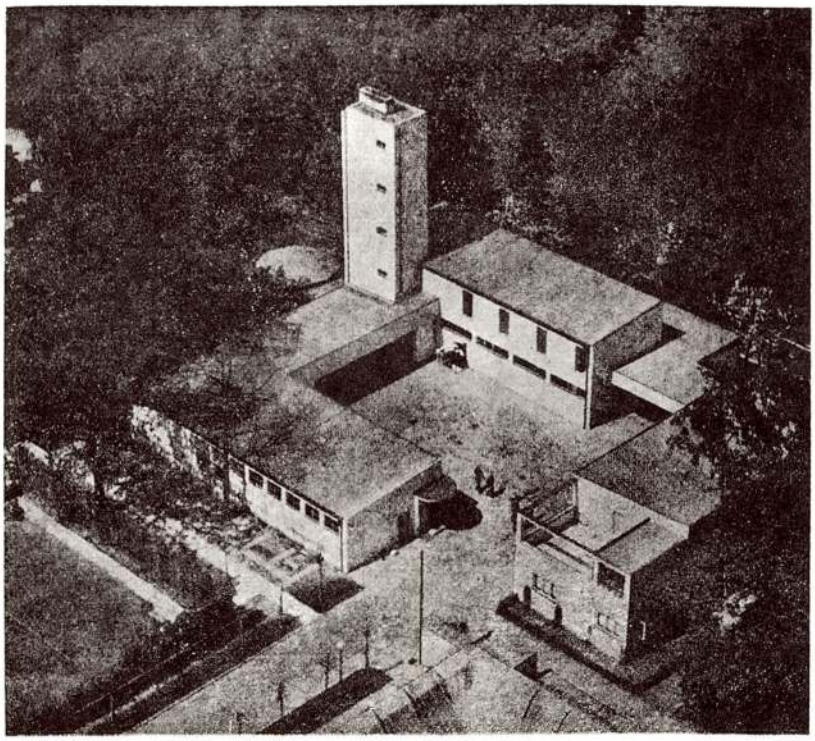


主 要 住 宅

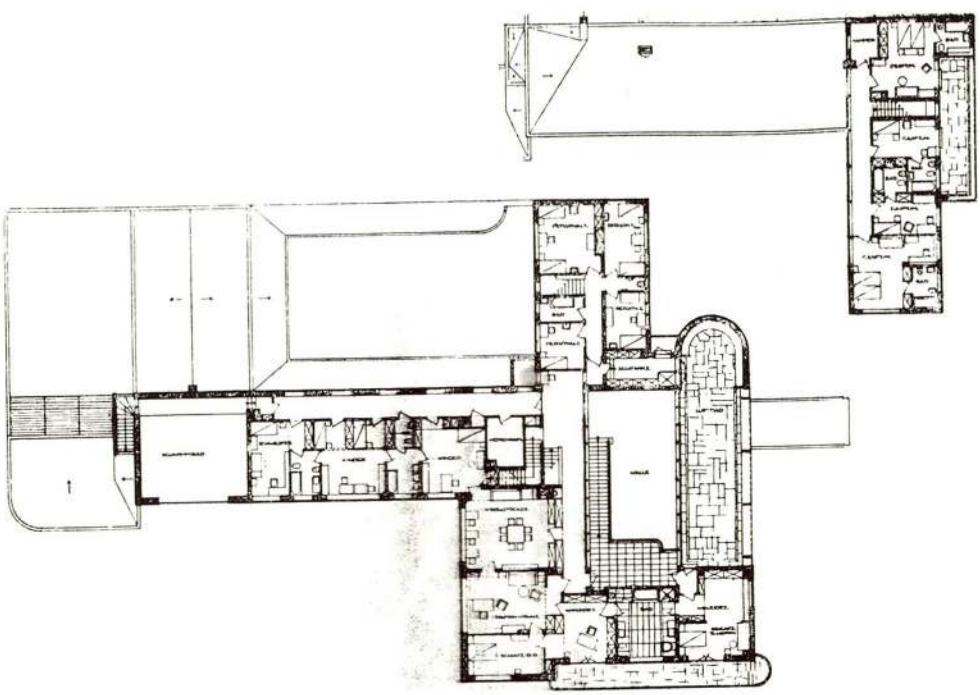


第 1 階 平 面 圖

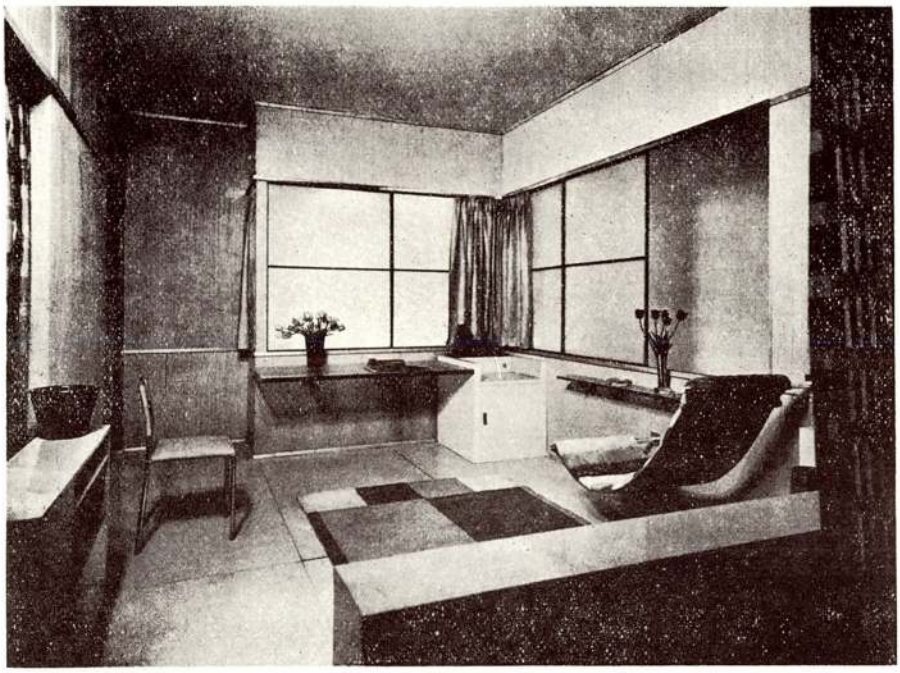
運動設備、園藝設備はほとんどあらゆるものを含み一々ここで說明する事が出來ないが衛生其他の設備に於ても、コークス及び石油燃燒用の溫水及び蒸氣暖房換氣設備、井戸を備へた變電所、水槽と防凍設備、6m×12½m のプール、非常報知器電動窓、エレベーター、冷房設備、電力による種々の臺所設備、電氣洗濯器、タンクと車體押揚器を備へた自動車庫等がある（Baukunst より・本多）



勝手向きの建物（左は自動車庫、洗濯室、自動車洗場、中央は水塔及馬小屋、右は雇人住宅）



第 2・3 階 平 面 圖

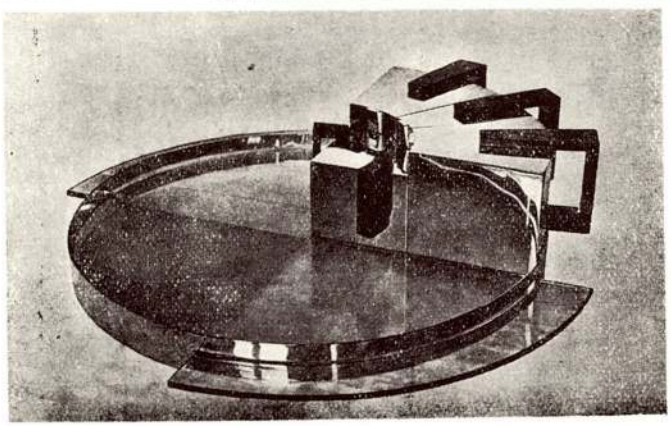


室の一隅
第12回藝術家サロン出品
DJO-BOURGEOIS氏作



硝子・輝金屬黒檀製茶器
第12回藝術家サロン出品
BORIS J. LACROX氏作

居間
ケルン國際裝飾博覽會出品
HOWE; LESCAZES兩氏作

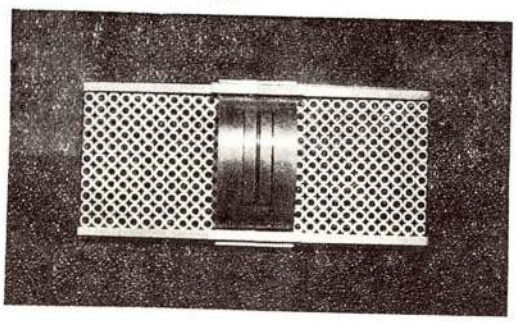




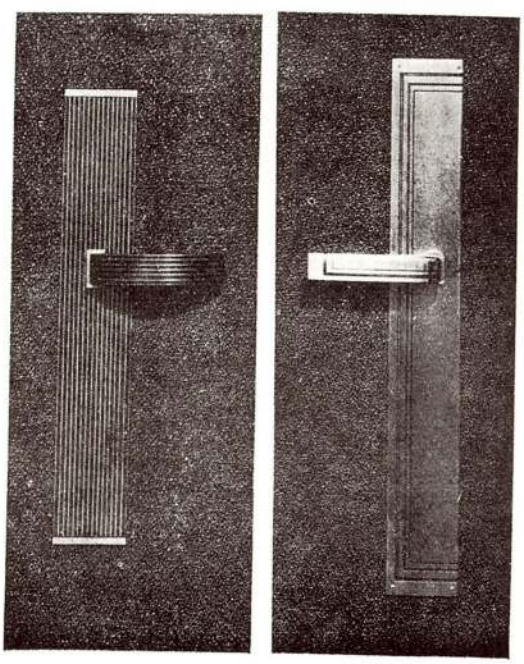
打　出　錫　品
第12回藝術家サロン出品
MAURICE DAURAT 氏作

籐　椅　子
第3回現代藝術家聯合展覽會出品
L. SOGNOT, CH. ALIX 兩氏作

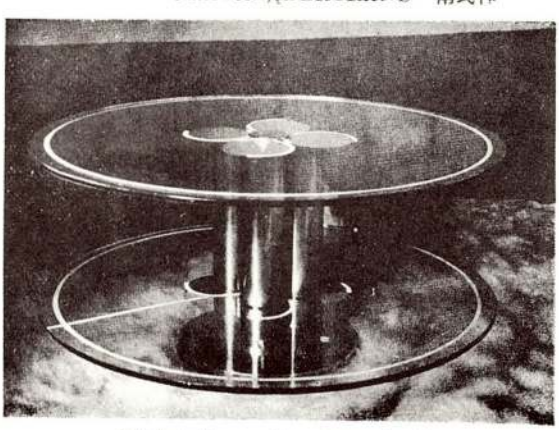
裝　飾　的　錠　前
第12回藝術家サロン出品
LOUIS GIGOU 氏作



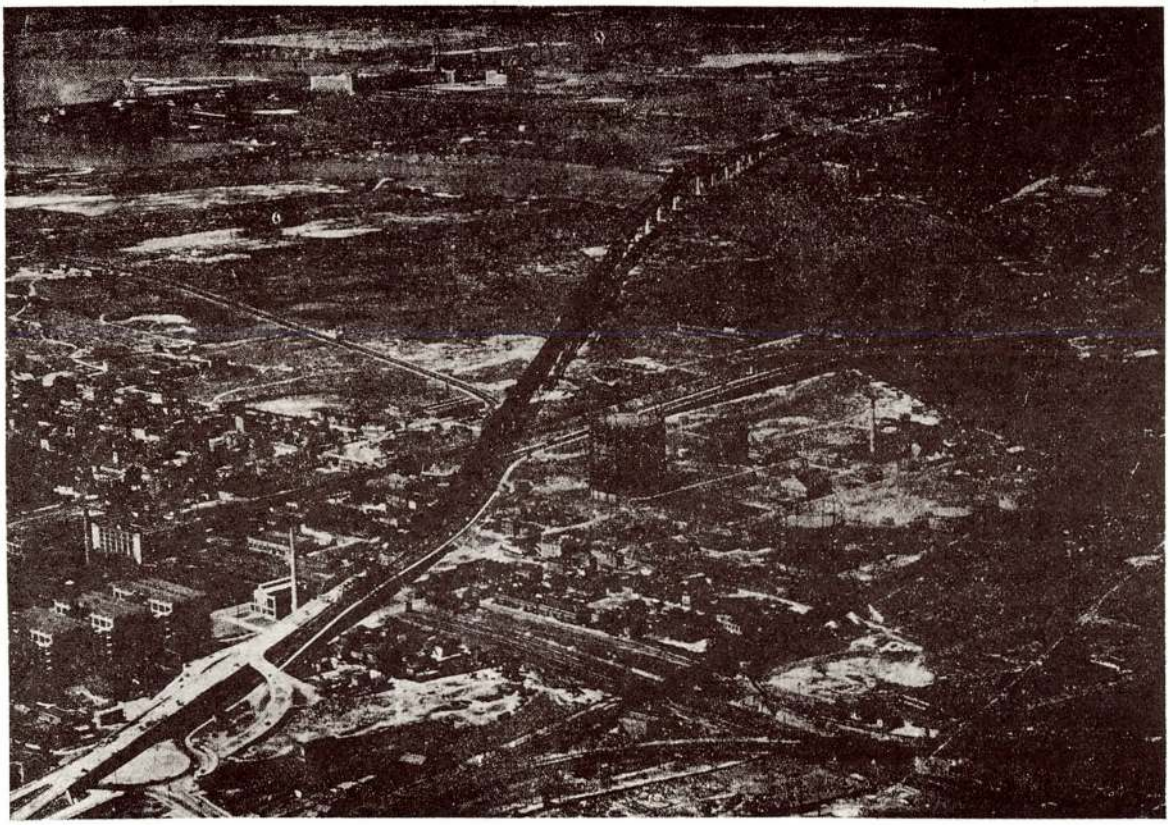




金屬・硝子製卓子
第3回現代藝術家聯合展覽會作品
RAVAL, BERTRAND 兩氏作



（Art et Decoration より・吉田）



おびたゞしき失業者に滿ちてゐるアメリカの非常時（The American Ciey 誌はこれを Critical time としてゐる）に際して失業者救濟のため土木事業が各州に於て計畫されてゐる。

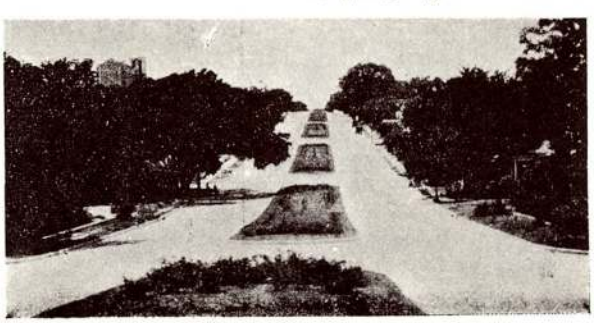
ニュージヤーシー州ジヤーシー市ユアーク市間18C0,00C弗新高架道路 ── ニュージヤーシー州道路委員に依り計畫されたる公衆福利を齎すこの大計畫に於て、數千の人々が直接には現場に於て、間接には材料を供給する工場に於てこの非常時に職を與へられたこの道路の立體的なるに注目されたい、

テキサス州オースチイン市に於ては1928年起債せられたる4,250,000弗の公債により道路改良、下水、公園、運動場、學校消防署等の建設が計畫された、この中2,000,C00弗は道路改良に使用せられたが勿論土地所有者にも相當量の金額を負擔せしめたのである。

改良されたる道路は産業道路を主とされたが住居地に於ける道路も亦考慮された。

鋪裝の½以上は Warenite-Bitulithic Pavement でありその入札價格は次の如きものである。

	2″ W-B-on 5″ Concrete Base	2″W-B on 5″ Concrete Base
1929年4月19日	2.05弗	2.20弗
1930年4月17日	1.80弗	1.95弗 （何れも1平方呎につき）
1931年2月25日	1.70弗	1.85弗
1931年10月23日	1.45弗	——



主要なる道路は南議事堂通東第12街東第14通より第19通東第15通街である、

上圖はニュージヤーシー州新高架道路

下圖はテキサス州オースチイン市東第15街の代表的並木道（Boulevard)の鋪裝

（The American City より・内藤）

會　報

役　員　會

常　務　會

時　　昭和8年2月6日午後6時—同8時30分
所　　建築協會別室
出席者　理事　片岡、池田、竹腰　監事　松室、主記　阪口、丹藤、伴野、富士岡　主計　浦、清水、八木　編輯　今林、中林、堀田
議　事　1. 2月例會に關する件
1. 終身賛助員大林義雄氏を大阪商工會議所議員に選擧援助するの件
1. 評議員會開催に關する件
1. 大阪鐵道株式會社より住宅博覽會開催申込の件
1. 常設、記念事業委員增員の件
1. 會誌寄贈の件
1. 職業別電話名簿購入の件
1. 會員詮衡
報　告　1. 常設委員會經過報告
1. 特設委員會經過報告
1. 記念事業委員會經過報告
1. 會誌3月號編輯報告
1. 『土木建築請負工事入札に當りては豫定價額に斟酌を加へられたき』件建議に付援助方依頼の件
1. 同潤會より職工住宅素人設計當選圖案（1等、2等、3等）送付の件

常　務　會

時　　昭和8年2月13日午後7時—同9時40分
所　　建築協會別室
出席者　理事　片岡、池田、竹腰　監事　德政、松室　主記　阪口、丹藤、伴野　主計　浦、清水、八木　編輯　今林、中村、堀田
議　事　1. 定款改正案に關する件
1. 其他

評　議　員　會

時　　昭和8年2月13日午後6時—同6時50分
所　　建築倶樂部
出席者　評議員　秋田、池田、石川、今林、岩崎、浦、大原、岡部、岡本、落藤、片岡、川口、河合、河盛、小西、阪口、作間、清水、鈴木、竹腰、高岡、高松、中村、中山、永澤、丹藤、伴野、堀田、松井、八木
監事　德政、松室
議案第1號
大阪商工會議所一級議員候補者として株式會社大林組（代表者大林義雄氏）を擁立推薦するの件

會員動靜

入　會　者

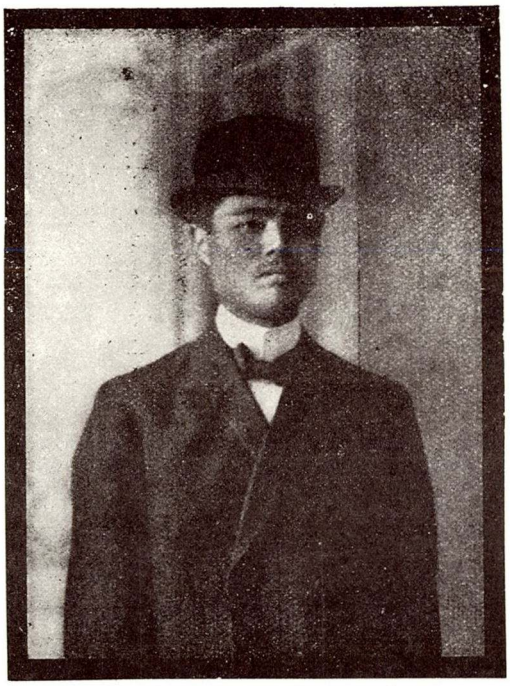
會　員
石川禎一郎君　東區石町1ノ8
同　（地方在住）
日高　重雄君　愛知縣知多郡常滑町山方65（伊奈製陶株式會社建築陶器設計部）
特別賛助員
鎌田禎次郎君　天王寺區上汐町3ノ44
普通賛助員
平田　廣次君　此花區四貫島葭町2（横田工務所）
木村　壽德君　此花區玉川町3ノ7

退　會　者

會　員
小寺　彌一君　　山田　畝平君
特別賛助員
高橋忠二郎君
普通賛助員
川瀬　忠夫君　福本　米治君　福井　勇君
喜多　福松君　佐竹　義雄君

轉勤轉居

會　員
野村　一郎君　北區堂島濱通2ノ15
野儀久四郎君　港區東田中町4ノ73ノ1
松岡　織江君　堺市松屋大和川通2ノ45
地方會員
岡野　金作君　滋賀縣滋賀郡石山町鳥居川100
前田　耕二君　和歌山縣海草郡川永村大字川遠



會員　故　園部文雄氏肖照

本會の元理事長であり監事であつた園部文雄氏は7年12月18日昇天されました、洵に痛惜に禁へません、こゝに生前大へんお親しかつた高木、高橋兩氏の追悼記を載せて謹んで追憶のよすがとします。またわが會員であり滿洲建築協會の會長であつた小野木孝治氏も園部氏と同じ日12月18日逝去されました、こゝに謹んで哀悼いたします。小野木氏に就いては松室重光氏から親しく次の文を頂たゞきました。

親友園部君を悼む

先年病痾の爲め大阪市技師の公職を棄て鄉里和歌山縣園部にて療養中であつた園部君の訃報が舊臘中突然報ぜられた。

曩に同君が引退後間も無く貞淑なる令室を喪はれ淋しく四人の愛兒と共に御兩親の下で再起の希望を棄てず只管靜養を努めて居られたが、それも今は空しくなつた。多くの遺兒を老いたる御兩親に托して逝かれた同君の胸中を想ふと誠にお氣の毒に堪えない。同君の性格は一言にすれば純情直行の人とも言ふべきか、數々の美點を持つて居られたが、眞面目で物事に熱心で責任感の强い人であつた。

和歌山縣立德義中學を經て明治40年第三高等學校第二部甲類に入學同43年更に進んで東京帝國大學工科大學建築學科に移り、大正2年優秀なる成績を以て卒業と共に直に陸軍第一師團經理部に奉職せられた、大正4年には青島守備軍經理部に移られ同5年4月大阪砲兵工廠に業務囑託となり同年5月陸軍技師に任ぜられ高等官七等に叙せられた。

同8年に再び青島守備附となつたが、翌年には內地に戻り第16師團附となり同11年8月迄勤續——官等も高等官5等と迄累進されたが、同9月には大阪市技師として同市役所へ轉勤さるゝこととなつた。

ここでは市場の建築に從事して居つたが、昭和2年9月には大阪市長より市場建築の研究調査の爲め歐米各國に出張を命ぜられた。同君は此頃既に多少健康を害つて居られたやうであつたが、旅行中少なからぬ無理をされた事が今度の禍の最大因をなした事は誠に遺憾の點である。

歸朝後病狀惡化の傾向ありたる爲め、同4年3月休職となり、同6年4月遂に退職し專ら療養に手を盡されて居つたが其頃令室が急逝された事は精神的に同君の病氣に惡影響を與へた事は否まれない。

同君が死の少し前に級友鈴木氏に寄せられたる手簡によるに既に生死の觀念を超越して只時事問題を提へて考究し國家の前途を想ひ、病苦も忘れ只管靜養中なる由記してあつた、未だ未だ元氣で死に直面せる人の書簡とも考へられないものであつたが病勢は急激に惡化して終に長逝さるに到つた事は誠に殘念至極である。（高木源之助記）

園部さんのことども

大正5年の頃でありましたか建築雑誌に青島を獨逸が經營した詳細な研究が數ケ月に亘つて載せられました、それが園部さんの名を記憶した初めであります。其夏の休暇に私は――大學の三年でした――青島に參りまして、宮本さん中村塚さん植木さん等に種々と御厄介になりましたが園部さんには歸國中で御會ひ出來ませんでした。その翌年、私も學校を出て大阪に歸つて來ました、大正會が出來たその當時のことです、多分その頃のことゝ思ひます、初めて御會ひしました。それから5.6年私も留守いたしましたが、歸つてから不思議な緣で親族に繋がり、種々の機會に御目にかゝりました。園部さんは洋行から歸られて間もなく市役所も引かれ病褥に就かれて數年の間、世の中を横目で眺め乍ら皮肉な觀察を漏らされてゐましたが建築協會に對しては絕へず關心を持つてゐられた樣でした。偶見舞に上つた時はいつも話は協會のことのみでありました。理事として、理事長として監事として永い間協會に盡して來られたのですから無理もありません。病氣の初期に當りましても役所の仕事の外に、協會の方は理事長として隨分激務があつた樣であります、特に協會が法人組織に更る際で、その改正委員として役員として努力があり且時あだかも關東震災の時に當り色々の畫策があつた由であります。それ等の心勞が病氣の重つた一の原因であつたとは自身も認めてゐられた樣でした。私が協會の仕事に直接關係しだしましてから始終鞭韃していたゞいたのも園部さんでした。雜誌のことはいつも喜んで貰ひましたのは何によりの喜びでありました。昨11月の末亡くなられる半月程前荊妻が伺つた時にも、協會の話や雜誌の話があつた末に、來年少し體がよくなれば大阪に出て新らしい建物も見て歩きたいとの望もあつたとやら、それも今は果敢い夢となつてしまひました。協會の功勞者としての園部さんのことを書くつもりが私事の思ひ出ばかりになつてしまひました。私は園部さんを思ふ時いつも、北紀の山影の村、老いたる祖父母のもとに、父なく母なく、寂しい四人の遺兒の將來に幸あれと祈るのであります。（高橋榮治記）



會員　故　小野木孝治氏肖照

小野木君の面影

明治 3? 年東京帝國大學工科大學の建築科を出で海軍に入りて其技師となる。當時の軍部は軍人全盛非戰製員を觀ること頗る輕く中々技術的計畫意圖の受容尊重せらるゝ事困難なり、茲に先づ人生行路の險を踏みたり。明治36年臺灣總督府に入る後藤新平氏を主腦としたる新殖民地の新政治施設の一部を分擔し其材腕を振ふ、明治40 年滿鐵入社時の滿鐵は有爲の材幹を集め意氣衝天の慨あり君此間に處して技術經國の一部を擔任し此等の人々の空想理想談論批判に執拳し其技術精神を發揮し豪放にして細心巧みに多くの建築を成就し依て同胞發展の基礎を築く。此間歐米に遊び滿鐵建築課長、滿洲建築協會々長、大連市會議員となり更に南滿洲工業專門學校建築科長の職を兼ね、建築界の發展に努力したり大正12年罷めて共同建築事務所を經營したりしが昭和5 年、之より退き、滿洲土木建築協會顧問たり、舊腦12月18日突然急逝せり享年五九（松室重光記）

日本建築協會役員及委員

（昭和八年）

社團法人

役員

會長　安實造　吾光郎　信雄　三一助　二二郎　治雄郎　治藏　三郎　實郎　助知　男則郎　吉二郎　郎安良郎　生夫二次　尾造吉　治郎信　郎雄郎　一雄三一二郎　郎忠助　清二正　夫三一　道武

副會長　片池　竹德松　阪鳥　丹伴富　浦清八　今高中　堀秋井　石今池　岩浦大　岡岡落　川河片　小阪作　新清末　鈴竹高　高鳥中　中中永　丹伴富　藤藤堀　牧松增　八呼新　東內本　吉

監事　岡田　腰政室　口藤野　岡水木　林橋村　田田上　川林　崎原　田部本　藤口合　盛岡西　口間名　水澤木　腰岡橋　松井誠　榮村山　澤藤野　岡井本　田野清　田木子　名畑藤　多田

主事　長長長　事事記　記記記　計計計　輔輯輔　輔員

委員

都市計畫委員會

重善之和眞出種三之信　光吉介夫人生夫郎助武信　雄郎一治三澈郎一吾一郎　實郎郎治重郎作一武水一　郎良郎一吉郎勉三郎一郎　郎吉世茂三郎夫三喜史雄藏吾郎　銅則助

室藤垣藤本間名　武松　井　會　敏次誠代寬　治經命亮彥太　會　三五恒知五太毅春重　太　會　一太雄三太　敬治　茂芳三　會　一藤貞　俊太隆捨智尚芳鐵圭猷　會

日　浦田　鳥　委員　田豐　置井喜　藤田政藤　林員　田勇　岡忠　太毅春重　太　會　一太雄三太　敬治　茂芳三　會　一藤貞　俊太隆捨智尚芳鐵圭猷　會

津玉坪秋石楠工武德內　務　制　古酒澁伊芝鈴高永姬山　務　化　委　宇井谷東田木木澤野本士員　廣與平本保泰中口　川西玉川岡松　富委員　誠藤柳田野原　井島浦田田部田　原顯之清

松加北伊岩作新城松吉　常務　法　川盛崎村本　中　今伴　安落坪青岡黑玉古村渡　務　常務　料　須小兒白高高橋松道山　務　害　強度澤　藤柳田野原　井島浦田田部田　原顯之清

長事事員　長事事員　長事事員　長事事員　長事事員　長事事員　長事事員　長事事員　長事事員　長事事員

委幹幹委同同同同同擔　委幹幹委同同同同同擔　委幹幹委同同同同同擔　委幹幹委同同同同同擔　委幹幹委同同同同同擔　委幹幹委同同同同同擔　委幹幹委同同同同同擔　委幹幹委同同同同同擔　委幹幹委同同同同同擔　委幹幹委同同同同同擔

百貨店建築委員會

郎吉男郎弘信一助　郎藏平修郎郎二郎八信雄　雄吉一世則茂郎治吾郎三　實雄郎術郎助平藏夫夫銅男吉郎郎二雄郎吉藏助信二

太陽孝太俊　小英之　會　一金新　一太雄太儀　義　武藤誠貞顯　次正藤圭彥太貞　會　武金　達四米末健悌重藤三芳重

宗川田山谷　田　野野山松　安益　源　壯　野口　川盛崎村本　井藤井柳部田　豐　塚野部林野　村　中　今伴　井　木

東伊小岡中長塙村　浦　委員　敏次誠代寬　治經命亮彥太　會　三五恒知五太毅春重　太　會　一太雄三太　敬治　茂芳三　會　一藤貞　俊太隆捨智尚芳鐵圭猷　會

葛淺增赤小河篠中松南　住宅　安落坪青岡黑玉古村渡　務　常務　安德谷飯大阪鈴竹波松森山　務　常務　井政民賢　高林井木腰江室本　友口岡士　原顯之清

長事事員　長事事員　長事事員　長事事員　長事事員　長事事員　長事事員　長事事員　長事事員　長事事員

委幹幹委同同同同同擔　委幹幹委同同同同同擔　委幹幹委同同同同同擔　委幹幹委同同同同同擔　委幹幹委同同同同同擔　委幹幹委同同同同同擔　委幹幹委同同同同同擔　委幹幹委同同同同同擔　委幹幹委同同同同同擔　委幹幹委同同同同同擔

阪和上野芝住宅博委員會

井藤井柳部田　豐　塚野部林野　村　中　今伴　井　木　武太保次之　新金達和　孝善三太一筆太　藤鐵英之　盛

田井宗　新熊　種由　松　井　安東尾本垣山野高藤原田藤　笠　村野口田　保藤本田　浦島八　伊岩岡北增淺飯伊小岡加川川川久佐森矢

池　長　長員事事事事員　常務　長員事事事事員　委副幹幹幹幹委同同同同同同同同同同同同同同擔同同

瑞光住宅博委員會

一郎良郎郎治八藏　一　次五正儀福　原壯熊　廉　之藏太正

五壯一　武太一知誠金正藤新　田野井彥安　葛安林川田井政塚野山　笠野垣崎川木

今小芝坪德古村增　小葛北篠須藤

建築會館委員會

武　常務　高　橋　藤石落新篠瀧中古村南　常務　出　長員　會　敏次誠代寬　治經命亮彥太　會　三五恒知五太毅春重　太　會　一太雄三太　敬治　茂芳三　會　一藤貞　俊太隆捨智尚芳鐵圭猷　會

長員員員員員　長事事事員　長事事員　長事事員　長事事員　長事事員　長事事員　長事事員　長事事員　長事事員

委副幹幹幹幹委同同同同同同同同同同同同同同擔同同　委幹幹委同同同同同擔　委幹幹委同同同同同擔　委幹幹委同同同同同擔　委幹幹委同同同同同擔　委幹幹委同同同同同擔　委幹幹委同同同同同擔　委幹幹委同同同同同擔　委幹幹委同同同同同擔　委幹幹委同同同同同擔

住宅博殘務整理委員會

長員員員員　會　一之藏太正　原壯熊　廉　田野井彥安　葛安林川田井政塚野山　笠野垣崎川木　今小芝坪德古村增　小葛北篠須藤

委副副委　會　五壯一　武太一知誠金正藤新　田野井彥安　葛安林川田井政塚野山　笠野垣崎川木　今小芝坪德古村增　小葛北篠須藤

住宅博評價委員會

員員員員員　委委委委委　委委委委委　委委委委委　委委委委委　委委委委委　委委委委委　委委委委委　委委委委委　委委委委委

備設委員會

武　常務　小佐澁古松井　長員事事事事員　常務　小岡松　長員事事事事員　常務　小岡松　長員事事事事員　常務　小岡松　長員事事事事員　常務　小岡松　長員事事事事員　常務　小岡松　長員事事事事員　常務　小岡松　長員事事事事員　常務　小岡松　長員事事事事員　常務　小岡松　長員事事事事員

委副幹幹幹幹委同同同同同同同同同同同同同同擔同同　委幹幹委同同同同同擔　委幹幹委同同同同同擔　委幹幹委同同同同同擔　委幹幹委同同同同同擔　委幹幹委同同同同同擔　委幹幹委同同同同同擔　委幹幹委同同同同同擔　委幹幹委同同同同同擔　委幹幹委同同同同同擔

「建築競技執行規準草案」に對する日本建築協會法制委員會の意見書を讀む

堀　越　三　郎

曩きに日本建築士會から「建築競技執行規準」草案に對する意見を求められたに對し本會は諮問回答を發したると同時に本誌15輯12月號に全文を掲載した、これに對して同會員堀越三郎氏は同會の機關誌「日本建築士」第11巻第6號を以て懇切を極めた「日本建築協會法制委員會の意見書を讀む」の一文を發表された、茲にこの全文を轉載し本會員諸君の參考に供するとゝもに堀越氏に對して深甚なる敬意を表します。

日本建築協會の機關誌「建築と社會」の12月號は、其會の法制委員會に於て、先きに昭和6年6月發行の本會が會誌「日本建築士」に發表した「建築競技執行規準」を審議した意見を掲げた。

本會が「建築競技執行規準」草案を發表して、建築界の意見を求めたのに對しては、先きに「建築世界」誌（7年6月號）の論文に接し、一部人士の建築競技革正に意の在る所を知つて、大に意を強うする所があつたが、更に今、有力なる日本建築協會の法制委員會の言を聽くことは、誠に本懐の至りである。

元來、何事によらず、規則などを起草する者は、餘りに細かく其の問題に沒頭するために、動もすると、肝腎要めの精神迄も忘れて仕舞ふ恐れがある。それであるから岡目八目で見た意見に啓發されることが往々ある。

併し、概して規則の原案者は、關係する諸條の事項に對して、充分なる調査研究を遂げて居るし、之を見て意見を言ふ傍側者は、成立した規則の表面のみを看るのであるから、其の意見や評言が的を外れて居る場合が多いものである。

特に本「建築競技執行規準」は建築競技に關する全部の規準では無く、競技主催者の參考となる可き規準のみを示したもので、極めて簡約して建築競技の眞精神を說明したのみであるから、之れに細かい理由や註釋を加へなければ、或は局外者には呑み込みの悪いかも知れない。

目下引續いて起草して居る建築競技標準規程作成の後、此の兩者を併せ見れば、容易に首肯さる可き問題も、執行規準丈け見ては、誠に不用意、不備、不適當に見えるかも知れない。

日本建築協會法制委員の發表された意見に於ても、此の種の不了解の結果が各所に現はれて居る。近い所であれば委員會に說明に出れば、容易に氷解さる可き事項が澤山あるのであるが、何分離れて居るので、夫れもならず、誌上から說明をするより致し方が無い。

以下日本建築協會法制委員の發表した意見の全部を掲げ、之れに對照して說明する。

尙ほ此の問題に就いては、筆者が「日本建築士」7年7月號に載せた“建築競技執行規準に就いて”をも併せて一讀され度い。

終りに臨んで日本建築協會法制委員諸君に厚く感謝の意を表し、尙ほ進んで深い研鑽を希ふ。

日本建築士界の『建築競技執行規準』草案に對する意見書

(日本建築協會)法制委員會

日本建築士會から同會が制定したる「建築競技執行規準」草案に關して本會へ意見を求められたにつき本委員會で審議の結果以下に掲げたやうな意見を得た尙同會草案全文も參考のため掲げて置いた

序

本案を通覽するに其の冒頭にも明記さるゝ如く日本建築士會會員が其の會規に合法的に建築競技に參加し得る如き「適當ナル審査機關ヲ具備シタル競技」の規準を示さんとする趣旨に發したるものとも解せら[*(1)]れ本案中隨所に日本建築士會會員に多大の特典を附與するやう企圖せられたるやに解せらるゝ點あり、併し乍ら若し本案が一部特定の建築家用として立案せられたるものならば本協會としては之を審議する必要なきものと考へられ從つて本委員會としては本案を一般建築界に適用せらるるものとしての假定の下に審議せり。

尙本案は草案にすぎずして建築士會が公に發表する迄には尙幾多

日本建築協會法制委員會に說明す

〔1〕 本「執行規準」に於て、日本建築士會會員が多大の特典を附與せられたりと看らるる點は、競技者が“競技ニ當選シテ主催者ノ委囑ヲ受ケ其ノ建築實施ノ設計監督ノ任ニ當ラント期スル者”(第5章)である可きことと、審判者の“半數以上ハ建築ノ設計監督ヲ業トスルモノ”たる可きことの二點であろう。

前の點に關しては、“建築競技ニ要求セラルル設計圖書ハ建築計畫ノ基礎ヲ決定スベキ基本設計ノミニシテ建築設計ノ全部ニアラズ建築ノ實施ニ對シテハ實施設計ヲ完成シ尙ホ進ンデ工事監督ヲ遂行スルニ非ザレバ當選者ノ創意考案ノ存スル所ヲ發現スル能ハザルモノナリ”(第10章)それであるから、原則として競技者は競技に當選して建築實施の設計監督の任に當らんと期する者でなければならない譯である。尙ほ本規準に定めた共同建築士なるものに就いて、當選者と共同して建築實施に際し監督の任にも當れる方法もあり、決して一般競技者が除外され、本會會員のみが多大の特典を附與されることにはなるまいと考へられる。

第二の點に關しては、審判者は“建築專門家タルヲ要”(第6章)するが、唯建築の專門家と謂ふ丈けでは、實現す可き建築の基本設計圖書を審査判定するのには不充分であり、其の審判者の中に建築の設計監督を職とする者を含むことが必要であることは論を俟たない所であろう。審判者の“半數以上”(第6章)としたのは、審判の最重點を實際の建築設計に置いた爲めである。然して特に“設計監督ヲ業トスルモノ”として、所謂建築士を擧げ、官公の技師、會社の技師、請負業者の設計者の如く

日建協委員の意見

の推敲を經べきものと思考さるゝが案中字句其の他に不明確、疑問の點多々あり又案と案の說明とを混同せる如き點も見受けられ之を成分として逐條的に字句の審議をなす事は如何かと考へらる依つて本委員會は逐條審議を避け案の趣旨に對する意見書の形に於て回答するを適當と思考す。

建築競技の目的に就いて

本案に於ては「建築競技ハ其ノ主催者タル建築ノ企畫者ガ同一ノ建築企畫ニ對シテ同時ニ多クノ建築家ノ設計ヲ集メテ其ノ最モ優秀ナルモノヲ選出シ之ヲ實現スル爲メニ行ハルヽモノナリ」と記載されあるも全案の精神を忖度するに寧ろ競技當選者をして其の當選案を其のまゝ實現せしむる事に重點を置き惹いて當選者をして之が設計監督の任に當らしむる事を以て必要條件とせり、之は勿論一面に於て當選者の建築家としての立場權利を擁護するものなれども一面に於て建築競技の範圍を縮小し主催者の希望を極度に抑制し且つ主催者に義務を負はしむる結果となる、かくの如きは反つて合理的建築競技の發達を阻害するの結果に到らん事を恐るゝものなり、一般的に論する場合建築の企畫者が建築の意志を有し其の基礎案決定の

堀越の說明

"建築設計ヲ**職トスルモノ**"を含ませなかつたことは、本規準が本會の起草にかゝるものであるに由る計りでなく、他に雇傭さるゝ建築設計者としては、特異の場合を除いては審判事務に對して、充分に自由なる時を有す可き筈が無い譯であるからである。

［2］ 字句には不明確な所はない積りである。若し不明確であるならば、恐らくは、其れが不明確である必要が存在するからであつて、決して、不用意や不注意から來たものでなく、意識的に表はされたものであると信じて居る。

疑問の點は順次に說明する。

［3］ 此の「執行規準」は元來、建築競技の"基礎トナルベキ諸原則ヲ說明スル"（第1章）指針であり、規則計りを羅列しないで、成る可く說明を多くする方が有効的なものとなるのである。特に建築競技に關して指針となるべき規程も無く、習慣を昨る可き良い實例も無い我が國の現狀では、規則中に其の條項の含む精神を說明する必要が多い譯である。

外國の例などで見ると、建築競技に關する諸規則の變遷が、實に良く此の間の消息を物語つて居る。

［4］ 當選者の建築家としての立場權利を擁護し、且つ充分の責任を負はしむることは、絕對に必要である。之を些かでも犧牲にして建築競技の範圍を廣めやうとするから、現在行はれて居る如き、不滿不平の聲の絕えぬ不備な競技が行はれるのである。

主催者の希望は擧げて全部、競技規程に含まれて居らなければ、競技が行はれる筈が無い。主催者の希望が決定せず、或は希望の一部を不明瞭にして、競技を行はんとするが如きは、許す可からざる我が儘と謂はなければならぬ。

主催者としては必然義務を負ふ可きである。自己の委囑せる特定の建築家に對し、希望を示して、相談しつゝ

日建協委員の意見

參考として優秀なる建築案を擴く募集する場合多々あり本案によればかくの如きものは本建築競技より除外するの止むなきに至るものと考へらる、而かも本案に稱する建築設計競技は當初より假想建築企畫たることを主眼とし之にも該當せざるものと謂ふべし[*(6)]現在建築競技中最も多き之等のものを全然除外する如きは一考を要するものと思はる。

主催者競技顧問、審判者の關係に就て

競技案の審査に關する主催者、競技顧問及び審判者の關係に就いて本案に明示する所は餘りに當選者の案及び審判者の純建築的立場を偏重して[*(7)]主催者の意志表明の充分なる機會を欠ける點なきやを疑ふものなり。

即ち審査判定には主催者は勿論主催者の利害、意志を代表する競技顧問をも除外しあるも建築が純粹に藝術的技術的價値のみを主眼とする特殊のものは別として少くも之を實用に供し利用せんとする限り其の主催者の意志、希望を代表し且つ建築技術上にも優れたる競技顧問は當然審査に參加せしむべきものと考へらる。

尙建築技術者ならざる主催者側代表が多數參加して從來建築競技

堀越の說明

漸進的に案を試みる如き自由は、公けに行はんとする競技に之を豫期す可きで無い。

［5］ 合理的建築競技といふことを如何なる意味で謂ふか？合理的建築競技と合理的建築設計とを混同してはいけぬ。合理的建築設計の方策として、普通一般に行はるゝ建築設計監督委囑の方法と、合理的建築競技に依る手段との二方法があるのである。

［6］ 現在建築競技中最も多くある如き、參考案を求めて、之を參考として、建築の基礎案を決定する樣な建築競技を肯定することは、絶對に原則とすべきで無い。

此の問題は建築の著作權に重大な關係を有するので、一寸此處で短かく論じ盡すことが出來ないのは殘念であるが、建築競技の當選設計に關しては、著作權の問題を熟知した上で無ければ、論ずるの資格が無いと謂ふても良い程である。

どうか、建築競技の問題よりも、廣く且つ大きな建築著作權問題を良く了解して、建築競技問題の解決をして貰ひ度い。

建築設計を一片の紙に畫いた圖案の如くに扱はれ勝ちの世間の誤解を解くために、建築家は自省しなくてはならない。建築の著作權を正視しなければいけない。

［7］ 主催者の意思表明は競技規程に依りて爲すより外に手段のある可き筈が無い。之れに就いては既に【4】に於て說いた通りである。

競技規程に發表された以外に、主催が何か特別の意圖を隱持して居る樣で、正しい競技を行ひ得ると思ふのは驚く可きことである。

競技者は競技規程に明示された所に據つて設計をする。之れより外に賴よる可きものが有る筈が無い。審判者も亦、競技規程に明示されて居る所のみを以て審査判定をするのでなければ、公正なる審判が出來る譯が無い。

それであるから競技規程といふものが、極めて重要性

日建協委員の意見

に多少の悪例を残せる事實より之等建築技術者ならざる審判者に對して數的制限を加ふる事は可なるも[*(8)]全然除外する事は不可ならずやと思惟せらる。

更に「審判者ハ競技ニ參加スル事ヲ得ズ」との從來一般の條件を除外せるは其の何の理由によるものか了解に苦しむ所なり。

又審判者の「半數以上ハ建築ノ設計監督ヲ業トスルモノ」との規定あるも「[*(9)]業トスル」とは解釋上範圍甚だ不明瞭にして若し之を狹義に解釋して所謂事務所經營者を指すものならば何故にかかる制限を必要とするか了解に苦しむ所なり。

競技者、入選者、當選者に就て

本案によれば競技者は「其ノ建築實施ノ設計監督ノ任ニ當ラント期スル者」と規定され又入選者中の第一位のものが設計監督の任に當り得ざる場合には其の案は失格するものと規定されあり、之は建築競技の目的に關聯する問題にして[*(10)]主催者が廣く優秀なる案を募集する趣旨に對して徒らに其の範圍を縮小する以外に實益なきものに非ずやと思考きるゝ寧ろ當選者にして設計監督するの意思ある場合之に相當の優先權を認むる方穏當なりと思考す。

堀越の說明

を有して居るのである。

競技顧問が審判に加はる可からざることは、第四章に於て說明してある通りである。競技規程の立案者として、主催者の意圖を細大洩らさず聽き、規程に特殊の關心を有する競技顧問が、審判者中に加はることは、此頃行はれる競技の審判に一人の有力——寧ろ多くの場合に實は無力——横暴の者が在つて、自己の主張を强要するとの噂を耳にする所に似たる現象を起す恐れがある。

〔8〕 建築技術者で無い人を審判に入れることの良い場合もあろうが、之れには弊害を伴ひ易すい。よく管理經營に任す可き人が審判者の中に入ることがあるが、斯かる場合には前項で述べた様に、競技規程に明示された條項以外の條件で、自己の管理經營等の經驗から得た獨自の見解をも加味した審判に陷りやすい。競技規程に明示されて居らぬ様な條件を加味して審判をされては、競技者はたまらないだらう。

本規準では、斯くの如く弊害を醸成しやすいことは、極力避ける様に起案されてある。

審判者が競技に參加せざることは、極めて一般的の常識ではあるが、或る特殊の場合には、相互に審判をする如き指名競技も想像し得るので、本規準では第八章「建築競技規程」の條に於て"(10)審判者ノ權限及ビ任務ノ規定並ニ其ノ氏名"なる項を設けた丈けに止めてある。

〔9〕 "建築ノ設計監督ヲ業トスルモノ"に就いては【1】の說明に盡きて居ると思ふ "業トスル"とは即ち、自己が主體となつて其の職を行ふものの意で、相當に法律語で、甚だ明瞭であると考へる。

〔10〕 規準"第七章 當選ト入選"の條に於て、"萬一已ムヲ得ザル事由ニヨリテ入選者中ノ第一位ノモノガ此ノ任ニ當リ難キコトアリテ競技顧問ガ之ヲ至當ナリト認メタルトキハ第二位ノモノヲ以テ當選者トス"と規程したことは、委員間にも異論のあつた所で、之れは競技

日建協委員の意見

尙當選者の設計監督の技能に對して共同建築士を選任し得る規約を記載しあるも此の場合當選者と共同建築士との地位、關係は甚だ不明にして實際上幾多の困難なる問題を生ずべき恐れあり、之も建築競技の目的を前記の如く改める事によりて又解決さるる問題なり

懸賞金及契約に就て

懸賞金の最低額を本案には「競技設計圖書作製費ヲ償フニ足ル可キ額」と記載しあるも設計圖書作製費とは何を標準にすべきや甚だ不明なり寧しろ建築豫算額[11]に對する割合を規定する方穩當なりと思考す。

本案には競技規定と當選者が設計監督をなす場合の契約條項とを不可分のものとして記載しあるも契約條項[※12]の如き物は全然別個の物として取扱ふ可きものと思惟す。

堀越の說明

の本質から見て第一位の案を實現することに規定されるべきであろう。

併し如何なる場合に於ても、當選者の著作權が尊重さる可きことは謂ふ迄でも無い。次に此の問題に參考となる可き著作權法の條項を拔萃する。

第一條 文書演述圖畫建築彫刻模型寫眞演奏歌唱其ノ他文藝學術若ハ美術ノ範圍ニ屬スル著作者ハ其ノ著作物 複製スルノ權利ヲ專有ス

第二條 著作權ハ之ヲ讓渡スルコトヲ得

第十五條 著作權ノ相續讓渡及質入ハ其ノ登錄ヲ受クルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第十八條 著作權ヲ承繼シタル者ハ著作者ノ同意ナクシテ其ノ著作者ノ氏名稱號ヲ變更シ若ハ其ノ號題ヲ改メ又ハ其ノ著作物ヲ改竄スルコトヲ得ス

現今屢々行はれる建築競技の樣に、當選圖案に關する總ての權利を主催者が取り上げる（買入れるといふ方が適當かも知れない）ことは、著作權の讓渡としては認められるが、建築の著作權が國法によつて尊重され、其の著作者の權利として認められて居る點を汚辱するものである。其の讓渡は法律的には有効に出來るが、著作權の尊重すべき以所の精神を沒却した遣り方である。

其の上、其の案を取り上げて、之を改竄することは、著作者の同意なしでは、國法を以て禁ぜられて居ることであつて、假令其の著作者が之に對する抗議をなさずとも、國禁を破つて居ることは、事實と言はなければならない。

此等の點を考慮したら、猥りに勝手な建築競技規程を作ることは出來ないことが判るであらう。

【11】 懸賞金に就いては第三章“建築競技”の條に“競技設計圖書作製ニ要スル經費ヲ償フニ足ルベキ額タルヲ”要求してあり、甚だ漠然たる所があるから、尙ほ考慮を廻らす可きであると思ふ。

【12】 當選者が設計監督をなすことが、最も合理的であることは、既に【1】に於て述べた通りである。此の點を肯定する以上は、競技の當初から、“競技ニ當選シテ主催者ノ委囑ヲ受ケ其ノ建築實施ノ設計監督ノ任ニ當ラント期スル”（第5章）競技者に對して、“設計監督ノ任ニ當ルベキ當選者ト主催者トノ契約書式”（第8章）を明示することは當然の必要である。

「建築と社會」定價表

毎月1回1日發行

冊數	定價	郵稅
1冊	50錢	2錢
12冊	6圓	24錢

廣告掲載料金

普通	1頁	1回	15.00
普通	½頁	1回	8.00
普通（前附第1頁）	1頁	1回	45.00
普通（前附第2頁）	1頁	1回	40.00
普通（後附第1頁及最終頁）	1頁	1回	25.00
アート（中揷）	½頁	1回	20.00
表紙2	1頁	1回	60.00
表紙3	1頁	1回	45.00
表紙4	1頁	1回	80.00
建築事務所錄	1欄	1回	1.50
（建築關係業者案内）	1欄	1回	5.00

御注文

御注文はすべて前金で本會直接又は特約店へ振替貯金又は爲替で御拂込を願ひます郵券代用は一割增、代金引換はお斷り致します。

昭和8年2月25日印刷
昭和8年3月1日發行（第16輯第3號）

發行・編輯
印刷人　鷹取陽
兵庫縣武庫郡今津町浦風56番地
印刷所　大阪活版所
大阪市東區內淡路町1丁目7番地
發行所　財團法人 日本建築協會
大阪市北區中之島3ノ3朝日ビル
電話長本局(23)4500番(6)
本局(23 5470番(5)
本局(23)5540番(3)
振替口座大阪39975番
特約販賣店　柳々堂書店
大阪市西區京町堀羽子板橋北
電話土佐堀2440番
振替口座大阪2084番

禁轉載

本誌に掲載せるものは、一切これを無斷にて轉載し又は單行本に上梓その他の複製行爲をなすことを禁ず。

編輯後記

□三月彌生といへば絢爛たる陽春が想像されますが、寒風未だ衰へず強い梅花が一二輪綻びかけてゐるのみであります。先月の百貨店の防火號は時に應じた研究報告として意外の好評を博しました

□本月は天沼博士の傍花閣を中心に飾り城戸、黑田、津田諸氏の稿に立派な內容が成立ちました。丁度梅花の樣な質實な容であります。來月は櫻の月、華かな住宅號を出す豫定にして居ります

□住宅號は年々に大分號を重ねて參りましたから今度は一つ見方を變へて研究して戴かうといふのであります。而して又少し大きな住宅の寫眞や圖面を載せたいと思つて居ります、從來は小さなものを重に取扱つて來ましたから。

□住宅博覽會も春になれば開催されます。阪和と京阪との兩沿線に。昨秋の經驗に鑑み更に立派な成績を擧げることでありませう。會員諸兄の御後援を更に切に期待いたします

□記念出版の住宅圖案集は數千部賣盡して尙陸續と注文がありますが暫く版を休めまして、其代りに續集を出す計畫をいたして居ります、材料もあれ以後大分集つて居ります。前回同樣諸兄の御援助を御願申ます

□第二の出版の大阪市內地價調査圖表は目下豫約募集中であります、唯今迄でも既に委員で豫想した以上に申込が參つて居ります、此は恐らく再版は不可能のことと思ひますから御希望の方は早く御申込願ます

□第四の出版として滿十五年の記念に副ふ樣な大計畫を企てて居ります、早く具體化して、實行に入り度いと思つて居ります

□今春協會の大事業は滿十五年記念第二期と定款改正とでありませう。第二期の記念事業の中にも、見學、會館の方等大分進渉してゐる樣であります。（高橋榮治）。

建築と社會第16輯第3號

廣告索引

ア　旭硝子株式會社……33
　　淺野スレート株式會社……18
　　淺海商店……24
　　阿部鐵工所……10
イ　岩元商會建材部……24
エ　榮進社……17
オ　岡山建材社大阪出張所……36
　　大阪窯業セメント株式會社……表紙 3
　　大阪伊丹商店……14
　　大野製作所……表紙 1
カ　關城化學工業株式會社……表紙 4
キ　木下謹三商店……14
　　桐田商會……31
ク　黑川化學工業所……12
コ　工材社……44
　　金剛商會スレート部……32
サ　佐久間パブコ工業株式會社……11
　　笹岡家具裝飾店……20
　　三稜社……29
　　三共株式會社……9
　　佐渡島商店……39
ス　須賀商會……27
タ　田村商會……37
　　田中昌司商店……38
ダ　煖房同業協會員……40
　　ダンロップ護謨株式會社……表紙 3
　　大和工業株式會社……45
チ　重寶商會……36
ト　東洋リノリーウム株式會社……35
　　東洋陶器株式會社大阪出張所……22
　　東京電氣株式會社……5
ナ　ナンコク商事株式會社……19
　　內外土木建築材料合資會社……34
　　南滿鑛業株式會社……20
ニ　日本ペイント株式會社……25
　　日本建築紙工抹式會社大阪支店……29
　　西原衛生工業所大阪支店……21
　　西孫南店建築金物部……23
　　日本エレベーター製造株式會社……43
　　日本鋼製建具株式會社……30
ノ　野澤幸三郎商店……28
ヒ　ヒーロー化學工業所……6
　　平松釣戶車製造所……6
フ　藤田商會……16
マ　マルエス工業株式會社……13
ミ　ミナト製作所……12
　　三井物產株式會社……15
　　三木商店……8
　　宮島康夫商店……43
　　美素工業所……7
ヤ　矢橋大理石商店……16
　　山本窯業商店……44
　　山本東作商店……38
ヨ　横河橋梁製作所……26
　　米本榮商店……43
レ　玲光社(木內眞太郎)……32

「建築と社會」昭和七年特輯號

1 月號　高層建築
2 月號　最近建築研究 I
　　朝日ビルデイング
　　阪急ビルデイング
3 月號　國防と建築
4 月號　最近世界建築論說
5 月號　建築法規
6 月號　實用小住宅
7 月號　最近建築研究 II
　　大阪城天守閣
　　第四師團司令部廳舍
　　日本綿業會館
8 月號　鄉土建築
9 月號　建築構造
10 月號　創立滿十五年記念號
11 月號　最近建築研究 III
　　大阪歌舞伎座
　　南海ビルデイング
12 月號　常設委員會昭和七年度調查研究報告

日本建築協會發行圖書

關東震火災視察記
　定價 3.50圓（稅12）

住宅懸賞圖案集
　（絕版）定價 1.00圓（稅10）

婦人の住宅知識
　（絕版）定價 1.00圓（稅 0）

世界最近建築圖集
　定價 0.50圓（稅 3）

學校建築圖集
　（三版）定價 1.00圓（稅18）

最近建築懸賞圖集
　定價 0.70圓（稅10）

市街地建築物法令
　定價 9.50圓（稅 4）

住宅圖案集
　（三版）定價 1.00圓（稅 0）